

平成 22 年度

自己点検・評価報告書

埼玉純真短期大学

平成 22 年度
自己点検・評価報告書

学校法人純真学園
埼玉純真短期大学

「平成22年度 自己点検・評価報告書」の刊行に寄せて

平成22年度も埼玉純真短期大学にとりましては、いろいろな意味で記念すべき年となりました。

昨年度は「短期大学基準協会」による評価で適格と認定をされたこと、そして地域に根ざした大学を標榜し、「埼玉純真短期大学外部評価委員会」を設置、その評価を受けたことなどにより、本学が第三者の外部機関からも、本学の運営が適正であるとの評価を受けたことが、教職員に大きな自信を与えてくれました。

この評価を背景として、本学はより地域密着型の短期大学としての役割を担っていこうとの方向性を確かなものとししました。なかでも、文部科学省委託事業『(軽度)発達障害』幼児童に対する特別支援力養成のための教育職員再教育プログラム』の3年間に亘る活動実績を踏まえ、この領域において地域に貢献できる保育・教育系女子短期大学としての特色付けができないものかと考え、継続的にその取り組みもおこなっています。

同時に、「卒業生や在学生のために、誇れる埼玉純真短期大学を」との思いを教職員が共有して、話題性や即効性はないかもしれないが、大学としてのプライドを保ち、大学として本来あるべき姿、つまり学生教育と教育に資する研究を誠実にを行うという、地道な活動で、本学の復活を目指しております。

このことこそが、本学園創設者福田昌子博士の建学の精神「気品・知性・奉仕」の実践であり、「建学の精神に基づき、健康にして良識ある人格高き社会の指導的人物を養成することを目的とする」として開学した本学本来の姿勢を教職員自らが具現化しているものだと考えております。

数年前に、本学に降りかかった困難は、本学が新たに特色ある短期大学として脱皮し、飛躍するための機会とも、新たな時代へ対応するための変化のための未来を展望する機会を与えられたものであるとも解釈して、教学運営を進めております。

この22年度はその活動成果が少し見えた正にその時でした。つまり、昨年度まで入学定員を下回っていた入学生が今年度の募集では上回ったのです。教職員一同が卒業生と在学生のためにも、本学の復活という直近の目標に向かって、日々地道な活動に取り組んできた結果が実を結び始めたものだと考えております。

今後は、この日々の活動の充実を図ることにより、更なる発展という将来の目標に向けて積極的に取り組み、「学生を中心においた教育」創りに邁進している教職員みなさんに誇りを感じております。

本報告書は、建学の精神と教育理念や目標に照らし、教育職員と事務職員がそれぞれに自らの義務と責任と立位置を再確認し、将来の展望と行動を明確にするために、教職員がそれぞれに役割分担をし、協力・協働のもとに作成しました。

本報告書作成に尽力いただいた本学全教職員に心より感謝いたします。

平成23年10月

埼玉純真短期大学
学長 藤田 利久

平成 22 年度自己点検・評価報告書 目次

「平成 22 年度 自己点検・評価報告書」の刊行に寄せて

I 本学の概要

1	沿革と建学の理念	1
	(1) 沿革	
	① 純真学園の設立と沿革 ② 埼玉純真短期大学の創立と沿革	
	(2) 建学の理念	
	(3) 成果と課題(点検・評価)	
2	教育方針と教育の特徴	4
	(1) 教育方針	
	(2) こども学科	
	(3) 成果と課題(点検・評価)	
3	組織と編成	7
	(1) 運営組織	
	① 運営組織 ② 成果と課題(点検・評価)	
	(2) 学務分掌	
	① 専任教員とその職位 ② 委員会の委員長 ③ 委員会の委員 ④ クラス担任 ⑤ 事務職員	
	⑥ 図書館職員 ⑦ 成果と課題(点検・評価)	
	(3) 入学定員及び学生数	
4	学事日程	11
	(1) 学事日程	
	(2) 成果と課題(点検・評価)	

II 入試と広報

1	入試	13
	(1) 組織と運営	
	① 入試に関する組織 ② 入試業務	
	(2) 平成 23 年度入試の特徴	
	① 入試の改善点 ② 入試の特徴	
	(3) 平成 23 年度入試結果	
	(4) 募集要項	
	① 募集要項の形式 ② 選考方法 ③ 入試日程	
	(5) 成果と課題(点検・評価)	

2	広報	18
	(1) 組織と運営	
	(2) オープンキャンパス	
	① 日程と内容 ② 参加状況 ③ 成果と課題(点検・評価)	
	(3) その他の広報活動	
	① 高等学校への訪問 ② ホームページ ③ Web・Site への掲載	
	④ ガイダンス・模擬授業・キャンパス見学会 ⑤ 広報誌作成 ⑥ プレカレッジ	
	(4) 成果と課題(点検・評価)	

Ⅲ 教育活動

1	教育課程	26
	(1) 教育課程の編成	
	(2) 学科・専攻の教育課程	
	① こども学科	
	(3) 成果と課題(点検・評価)	
2	時間割編成と履修指導	27
	(1) 時間割編成	
	① こども学科 ② 成果と課題(点検・評価)	
	(2) 履修指導	
	① 履修指導 ② 成果と課題(点検・評価)	
3	授業実施状況	28
	(1) 授業科目の履修者	
	① 前期 ② 後期 ③ 成果と課題(点検・評価)	
	(2) 授業の開講・休講及び補講の状況	
	① 授業時数 ② 休講の状況 ③ 補講の状況 ④ 成果と課題(点検・評価)	
	(3) 授業履修者の問題状況	
	① 授業欠席調査該当者数 ② 受験無資格者調査該当者数 ③ 再試験該当者数 ④ 追試験該当者数	
	⑤ 成果と課題(点検・評価)	
	(4) 免許状・資格取得状況	
	① 免許状・資格課程履修者数 ② 免許状・資格課程の履修組み合わせ別履修者数	
	③ 成果と課題(点検・評価)	
	(5) 教育実習・保育実習・介護等体験	
	① 実習等の位置づけと目標 ② 実習等の実施状況 ③ 成果と課題(点検・評価)	
	(6) 授業内容と教育方法の工夫・研究	
	① こども学科 ② 成果と課題(点検・評価)	
	(7) 「学生による授業評価アンケート」の実施とその集計結果	
	① 実施経緯 ② 集計結果 ③ 成果と課題(点検・評価)	

IV 学生生活

1	学生の動向	46
	(1) 入学・卒業・留年・退学・休学の状況	
	① 平成 21 年度入学生 ② 平成 22 年度入学生	
	(2) 学生の動向	
	① こども学科	
	(3) 成果と課題 (点検・評価)	
2	クラス担任制度	47
	(1) こども学科	
	(2) 成果と課題 (点検・評価)	
3	学外における研修	48
	(1) こども学科学外研修	
	① 実施概要 ② 成果と課題 (点検・評価)	
4	課外活動	49
	(1) 学生会	
	(2) 学生会主催行事	
	① 学生会オリエンテーション ② 純真祭 ③ スポーツ大会	
	(3) クラブ活動	
	(4) 研修活動	
	① リーダー研修	
	(5) 成果と課題 (点検・評価)	
5	学生生活への配慮・支援	53
	(1) 奨学金	
	(2) 健康管理	
	① 保健室 ② 定期健康診断	
	(3) 保険制度	
	(4) 学生専用アパート	
	(5) 通学の状況	
	(6) 学生相談室	
	(7) 成果と課題 (点検・評価)	

V 就職と進学

1	就職	56
	(1) 就職指導	
	① 就職委員会の基本方針 ② 平成 22 年度年間就職指導計画 ③ 就職指導内容	
	④ 就職関連諸会合への参加	
	(2) 平成 22 年度就職状況	

	① 就職決定状況 ② 就職先等内訳及び就職先一覧	
	(3) 成果と課題 (点検・評価)	
2	進学	59
	(1) 編入学	
	(2) その他の進学	
	(3) 成果と課題 (点検・報告)	
3	卒業生への支援	59

VI 教員の研究活動及び社会的活動

1	研究活動	60
	(1) 研究活動の概要	
	(2) 専任教員の研究業績	
	① こども学科	
	(3) 専任教員の所属学会	
	① こども学科	
2	社会的活動	63
	(1) 講師・助言者等の実施状況	
	① こども学科	
	(2) 専任教員の諸団体への所属状況	
	① こども学科	
	(3) 他大学等の非常勤講師等の兼務状況	
	① こども学科	
3	成果と課題 (点検・評価)	67

VII 図書館

1	図書館の基本方針	69
2	組織と運営	69
3	施設・設備及び情報サービス	70
	(1) 施設・設備	
	(2) 情報サービス	
	① レファレンス・サービス ② 館外貸出とコピーサービス ③ 視聴覚資料 ④ 情報検索システムの利用	
4	所蔵点数と年間受入状況	71
	(1) 所蔵点数	
	① 蔵書数 ② 学術雑誌所蔵数 ③ 視聴覚資料所蔵点数 ④ 除籍数	
	(2) 年間受入状況	
5	利用状況	73
	(1) 入館者数	

(2) 館外貸出	
(3) その他の業務	
① 参考業務 ② 文献複写 ③ 相互利用	
6 研究紀要	74
(1) 埼玉純真短期大学研究論文集	
① 第4号	
7 成果と課題 (点検・評価)	74

VIII 校地・施設・設備

1 校地及び校舎面積	76
(1) 概要	
(2) 成果と課題 (点検・評価)	
2 施設及び設備	77
(1) 概要	
(2) 保守・管理体制	
(3) 成果と課題 (点検・評価)	
3 学内見取図	79

IX 教授会・学科会・委員会等

1 教授会	83
(1) 教授会	
① 開催日程及び主な審議事項等 ② 成果と課題 (点検・評価)	
(2) 人事	
① 異動 ② 採用 ③ 退職	
(3) 成果と課題 (点検・評価)	
2 委員会	88
(1) 教務委員会	
① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題 (点検・評価)	
(2) 学生委員会	
① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題 (点検・評価)	
(3) 図書委員会	
① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題 (点検・評価)	
(4) 実習委員会	
① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題 (点検・評価)	
(5) 就職委員会	
① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題 (点検・評価)	
(6) 入試広報委員会	

- ① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題（点検・評価）
- (7) FD委員会（自己点検・評価委員会，第三者評価委員会を含む）
 - ① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題（点検・評価）

X 事務組織

1 業務分掌	100
(1) 事務組織の業務分掌	
(2) 事務分掌	
2 成果と課題（点検・評価）	102

X I 財政

1 財政の状況	103
(1) 消費収支決算の状況	
① 消費収入 ② 消費支出	
(2) 貸借対照表の現状	
(3) 財務比率	
① 固定比率（固定資産／自己資金×100） ② 固定長期適合率＜固定資産／（自己資金＋固定負債）×100＞	
③ 流動比率（流動資産／流動負債×100） ④ 人件費比率（人件費／帰属収入×100） ⑤消費支出比率（消費支出／帰属収入） ⑥ 消費収支比率（消費支出／消費収入）	
2 成果と課題（点検・評価）	112

X II 同窓会（秋桜会）

1 活動状況	113
(1) 役員組織	
(2) 活動状況	
2 成果と課題（点検・評価）	114

I 本学の概要

1 本学の沿革と建学の理念

(1) 沿革

① 純真学園の設立と沿革

26歳という史上最年少の若さで医学博士の学位を取得し、医療に従事していた福田昌子女史は、昭和22年、日本国憲法下で行われた初の衆議院議員選挙で初当選し、議員立法優生保護法を自ら執筆するなどをはじめ、女性の社会的地位向上のために国政の場で精力的に活動した。

この時期、すでに戦後の混乱の中、教育基本法・学校教育法が制定され、6・3・3・4制の男女共学がスタートするなど、民主主義国家の建設とそれに対応した教育制度の改革が進むなど、日本の社会は大きな変革の時期を迎えていた。

福田昌子女史は、戦後復興が進み大きく変化しつつある日本社会の中で、立ち遅れていた女子高等教育の必要性和重要性を強く感じ、「真の女子教育の実現、『気品』『知性』『奉仕』の精神が備わった女子の育成こそが、新しい日本の基盤に成り得るという信念」の下、昭和31年2月、学校法人純真女子学園を創立した。同年4月、「"純真な女性の姿"という意味の『純真』を校名に付し」純真女子高等学校を開校し、女性の社会的地位の向上のため教育に未来を託して、教養人として職業を持ち、経済的にも一人の人間として自立できる女性の育成を目指して、本学園における本格的な女子高等教育が開始された。

○ 学校法人純真学園の沿革

年 月	沿 革
昭和31年2月	福田昌子、学園用地その他私財を寄付し、学校法人純真女子学園を設立
昭和31年4月	純真女子高等学校を開校
昭和32年3月	学校法人名を福田学園に改称
昭和32年4月	純真女子短期大学（国文科を設置）開学 福田昌子、初代学長就任
昭和41年4月	純真女子短期大学附属じゅんしん幼稚園開園
昭和42年4月	東和大学（工業化学科・電気工学科）開学 福田昌子、初代学長就任
昭和51年1月	福田敏南、学校法人福田学園理事長に就任
昭和54年4月	東和大学附属昌平高等学校開校
昭和58年4月	埼玉純真女子短期大学(英語学科・児童教育学科・幼児教育学科)開学, 福田敏南、初代学長就任
平成12年2月	福田庸之助、学校法人福田学園理事長に就任
平成19年4月	学校法人名を純真学園と改称
平成23年3月	埼玉純真短期大学・純真短期大学、(財)短期大学基準協会より第三者評価適格認定

② 埼玉純真短期大学の創立と沿革

本学は、昭和 58 年 4 月、羽生市の要請を受け、英語学科・児童教育学科・幼児教育学科第二部の 3 学科をもって現在地に開学した。

福田昌子女史が昭和 31 年に創立した純真女子学園の「学園訓」（建学の精神）の理念に基づく女子短期大学が埼玉県に設立されたものであるという意味を込めて、本学は「埼玉純真女子短期大学」と命名された。

開設時の学科・専攻は、英語学科（入学定員 100 名）・児童教育学科（初等教育学専攻：同 50 名・幼児教育学専攻：同 50 名）・幼児教育学科第二部（同 50 名）の 3 学科（うち 1 学科は第二部 3 年課程）2 専攻であった。第 1 期入学生は、英語学科 62 名・児童教育学科初等教育学専攻 45 名・同幼児教育学専攻 58 名・幼児教育学科第二部 42 名の計 207 名であった。

その後、社会情勢の変化による学生数の減少傾向が起り、これをくい止めるために学科名称やコース名称の変更、募集定員の見直しなどを行ったものの、平成 18 年の英語コミュニケーション学科・平成 19 年の乳幼児保育学科第二部と相次いで募集停止し、「こども学科」単科による学校運営を余儀なくされた。

しかし、このことが幸いし「保育・教育の専門短大」を志向し、文部科学省の委託事業や教員免許状更新講習など特色を活かした取り組みに拍車がかかり、「こども学科」の入学者も増加傾向を示し、平成 23 年度入学者は定員を確保できるまでに回復した。

これらの本学復活に向けての取り組みは、短期大学基準協会による「認証評価」の実地調査においても高く評価された。

○ 埼玉純真短期大学の沿革

年月日	沿革
昭和 58 年 4 月 1 日	埼玉純真女子短期大学開学（英語学科・児童教育学科・幼児教育学科第二部） 初代学長 福田敏南（学校法人福田学園理事長）
昭和 60 年 10 月 1 日	体育館竣工
昭和 61 年 9 月 1 日	プール竣工
昭和 62 年 4 月 1 日	研究棟竣工
平成 12 年 2 月 17 日	福田順忠 第 2 代学長就任
平成 12 年 12 月 12 日	中澤 鐵 第 3 代学長就任
平成 16 年 4 月 1 日	学科及び専攻課程の名称を変更 ・英語学科→英語コミュニケーション学科 ・児童教育学科→こども学科 ・幼児教育学科第二部→乳幼児保育学科第二部 ・初等教育学専攻→こども学専攻・幼児教育学専攻→乳幼児保育専攻
平成 17 年 4 月 1 日	入学定員を変更、こども学科の専攻（こども学専攻 ・乳幼児保育専攻）廃止 ・英語コミュニケーション学科:100 人→50 人 ・こども学科:100 人→150 人
平成 18 年 4 月 1 日	英語コミュニケーション学科募集停止
平成 19 年 4 月 1 日	埼玉純真短期大学に学名変更、乳幼児保育学科第二部募集停止

1 本学の概要

	藤田利久 第4代学長就任
平成 19 年 8 月 1 日	文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」
平成 20 年 3 月 31 日	英語コミュニケーション学科廃止
平成 20 年 8 月/11 月	「教員免許状更新制における更新予備講習(選択科目)」開講
平成 21 年 4 月 1 日	「子ども学科」入学定員を150名から120名へ変更
平成 22 年 3 月 25 日	第三者評価適格認定(財団法人短期大学基準協会)
平成 22 年 3 月 31 日	乳幼児保育学科第二部廃止

(2) 建学の理念

本学の「学則」には、本学設立の目的を次のように規定している。

○ 埼玉純真短期大学学則より抜粋

第1章 総則

(目的及び使命)

第1条 この短期大学は教育基本法に則り、学校教育法に定める短期大学として、学術の理論及び応用を研究教授すると共に、純真学園建学の精神に基づき、健康にして良識ある人格高き社会の指導的人物を養成することを目的とする。

学則第1条の「目的及び使命」では、「学術の理論及び応用を研究教授する」として「学校教育法」第83条に、「健康にして良識ある人格高き社会の指導的人物を養成する」と、同法第108条「大学は、第83条第1項に規定する目的に代えて、深く専門の学芸を教授研究し、職業又は實際生活に必要な能力を育成することを主な目的とすることができる。」に対応させ、本学が職業型の大学として教育を担うことを明らかにしている。

さらに、「純真学園建学の精神に基づき・・・」として、本学が、学園訓「気品」・「知性」・「奉仕」を中核とする人間教育を継承し、良識ある女子職業人の育成をとおして社会貢献を目指していることを明確化している。

このように、本学の設立目的は、専門的知識や技術を持って社会に貢献できる「良き職業人」・「良き社会人」の基礎となる「純真」なる心で人々に接する「良き人間」の育成であり、羽生市を中心として広く地域社会に貢献できる女子高等教育機関としての使命を果たそうとするものである。

(3) 成果と課題(点検・評価)

時代という追い風の中で順調に学生確保と教育を推進していく中で、学生数の減少には教職員も特段の危機意識を持つことないままに運営がなされてきた。つまり、建学の精神を教育現場でどのように活かし、発展させていくべきか、育成する具体的学生像とは何か、などについて、綿密な点検と評価、そして検討と実践が量的側面においては必ずしも徹底していたとは言えなかった。19年度以降、この点を中心に教職員の意識改革を行った。

平成22年度は前年度に引き続き、本学のあり方(教育内容・教育方法など含む)、そし

て大学教職員のあり方を社会環境に合致させた意識改革から進め、時代変化に迅速かつ適切に対応し、建学の精神に則った「専門職業人養成」にあたっていくことを重点にした。

平成 22 年度は、全教職員が本学を復活・発展させようとする強い意識と体制ができ、自信を持って建学の精神に基づく、本学再建への意欲の高まりが具体化した年といえる。

文部科学省より「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」事業や「教員免許状更新制における更新予備講習」の実施の経験を元に、教職員が協力して、独自で事業を継続的にし、これを中心に「保育・教育者養成機関」としての特色を活かし、学園訓、本学の教育目標をより具体化させて、学生教育や地域貢献活動を更に充実させていくことへ自信を持って取り組むことができた。この延長線上で質的にも量的にも「学びの機会と場」として、本学の建学の理念の具現化をさらに充実させたいと考えている。

2 教育方針と教育の特徴

(1) 本学の教育方針

本学の「教育方針」は 「学園訓」と共に「学生便覧」の冒頭に掲げられている。

○ 本学の教育方針

- | |
|--|
| <p>(1) 相互に相協同しつつ軽佻浮薄な態度を慎み、優雅で落ち着いたある言動を心掛けねばならない。気品を支えるものは洗練された情操と知性である。</p> <p>(2) 現実に即応し、正しい判断を下すことの出来るのは広い視野と高い知性にほかならない。従って知識を豊かにし、真理の追求に努力しなければならない。</p> <p>(3) 常に研鑽途上にある事を自覚し、謙虚に自己を見つめ自己満足に陥ることなく小我を捨て、大我に徹する精神を養うことを心掛けなければならない。奉仕の精神は小我を捨てる事によって始まる。</p> |
|--|

これは、「学園訓」の「気品」・「知性」・「奉仕」のそれぞれの意味を文章化し、具体化したものであり、本学教育の基本方針を明示したものである。

「気品」の基盤となるのは「洗練された情操と知性」であること、「知性」は豊かな「知識」と「真理の追求」によって磨かれること、「奉仕の精神」は「小我を捨て、大我に徹する精神を養うこと」によってもたらされることを述べて、本学における学問や知識の探求と人間形成とが表裏一体の関係にあることを説いている。

つまり、「気品」・「知性」・「奉仕」を中核的価値とする「純真な」人間性の基礎として、人間性を高める深い教養、現実に即応した専門的領域の知識・技能を修得し、職業やその他の實際生活に活かしていくことのできる能力を身に付けることが、本学の教育目標であると言える。

これを具現化するために、次の3点を養成目標として、教育活動に取り組んでいる。

1. 「気品」：人間としての豊かな感性や社会的文化的常識（マナーやエチケットなど）を備えた「よき社会人」の養成。
2. 「知性」：知識の習得とそれらを総合しての考える力（課題発見と分析・解決能力など）と積極的な行動力をもった「よき職業人」の養成。
3. 「奉仕」：「気品」と「知性」をもって、他者のために利害を気にすることなく、積極的に行動できる人間性豊かな「よき市民」の養成。

本学では、この「学園訓」と「教育方針」を全教職員が理解し教育活動に臨むように、正面玄関に大額を掲げ、教室にも「学園訓」を掲示し、常に学生教職員共に建学の精神を意識するようにしている。また、学長はじめ教員がそれぞれに、入学式や卒業式、教職員会議、入学・進級オリエンテーションなどで機会あるたびに説明し、在学生、入学希望者とその保護者、そして外部者にも大学案内パンフレット、ホームページなどでも「学園訓」と本学の「教育方針」を紹介し、多くの方々に理解されるよう配慮している。

（2）こども学科

こども学科には、小学校教諭と幼稚園教諭を目指す「こども学コース」と、幼稚園教諭と保育士を目指す「乳幼児保育コース」を設け、それぞれが専門性を追求できるようにしている。両者に共通の教育方針は「理論と実践を総合的にバランス良く修得し、常に考えながら行動できる保育・教育の専門職を養成する」ことである。

前者においては、小学校と幼稚園の連携、初等教育の一貫性を考慮して、小学校と幼稚園における教育を総合的に理解し、教員として教育現場に立てるよう教育の理論と実践をバランス良く習得できるようにしている。

後者においては、保育所と幼稚園の相違を正確に理解しながら、子どもの発達理解と子どもの発達段階を踏まえた援助方法などの理論と実践を身につけた保育専門職の養成を目指した科目配置をしている。

この目的の実現のため教室内での授業はもとより、教育・保育現場での実習にも重点を置き、2年間を通して実習の事前・事後指導を徹底して行うなど、実習をより実り多いものできるように配慮している。このように実習の事前・事後指導などにおいても、理論と実践を統合できるように、外部から教育・保育現場から現職の教職員を招き、きめ細かく丁寧に行っているところも本学科の特色のひとつといえる。

各教員が授業で外部講師を気軽に招き、学生に現場の状況を理解させることができるように、それぞれの教員に外部講師招聘のための予算措置も行なっている。また、各ゼミ（入門ゼミ・総合演習・教育実践演習）単位で現場理解のための学外授業を推進するために、各ゼミごとに学生数に合わせた予算を組んでいる。

さらに、将来専門職者となる学生が自らの課題を授業で明確にするだけでなく、ボランティア参加など自主的な活動を通して、新たな課題を発見・検証し、それらを発展させて

いけるような指導にも心掛けている。このボランティアの精神や意義などを理解させるために「ボランティア概論」や「ボランティア実習」を科目として設ける配慮もしている。

学生の授業理解をすすめるために少人数クラス編成を行うと共に、授業の方法においても、グループ学習（相互教授、実践報告、事例研究など）で学生中心の実践的に理解を深められる授業を展開している。

これらの授業を推進するために図書館利用は必須となり、教育・保育に重要な絵本や幼児向け図書の積極的活用の基礎知識と技術を学べるようにと司書教諭資格の課程も設けている。この学生の図書館利用には各教員は力をいれており、授業において図書館利用を推進するように配慮をしている。

また、保育・教育をより深く学んでみたい、小学校や幼稚園教諭一種免許状取得を目指したい、などと希望する学生には課外で4年制大学編入指導にも力を注いでいる。

（3） 成果と課題（点検・評価）

授業実施については、「こども学科」の目的ある良き教育者・保育者を養成ため、授業科目や担当教員においても適正な配置ができ、授業実施においても質の均一性が保たれている。また、実習や就職指導において教員が共通理解と認識にたって学生を指導するため、実習でも大きな問題が発生しないこと、就職においてもほぼ希望どおりとなっていることなど、全体的には順調に教育活動が行えている点は評価できる。

一方、今後、早急に対処と改善を必要とする問題もある。まずは学生数の安定的な確保である。つぎに科目間の更なる連携による授業の効率化である。更に近年、多くの大学で問題となり始めた集団になじめないことなど、人間関係が原因で授業に積極的に臨めなくなる学生がいることである。

学生数確保については全教職員が一致協力して学生募集活動にあたった結果、来年度入学生については定員を確保できたが、今後安定的な確保に向けては今後とも一層、教職員が教育力と学生サービスを向上させることで解決していきたい。また科目連携においては、実習と資格取得、そして就職活動や就職後において教育・保育活動を円滑にするためにも一層教員間の連携を密にしていきたい。

集団になじめない学生については、学生自身が本学への入学目的を達成することが困難な状況をつくることであり、学生の将来の問題として、大学の問題として重大に受け止めている。現在は、学生相談室に心理カウンセラーを配置したり、昼食をカウンセラーと共にする部屋、チューターによる学習支援を行う部屋などを設置している。

この対処については、学生指導の項目に述べるが、今後、より真剣に取り組んでいかなければならない問題である。

このような事柄に対して地道に対応していくことで、「こども学科」に入学した学生全員が所期の目的を達成できるように努力をしていかなければならないと考える。

3 組織と編成

(1) 運営組織

① 運営組織

平成 22 年度の専任教員はつぎの表のとおりである。

○ 各学科の教員配置

こども学科
藤田 利久・入江 良英・牛込 彰彦・村田 文生(特任)・小澤 和恵・木許 隆・安部 孝 ・安倍 大輔・稲垣 馨・高橋 努・関根 久美・浦 山希子・高木 香織(特任) 以上 13 名

教授会は、学則第 8 条に基づき、上記の中の専任教員をメンバーとして組織し、これにオブザーバーとして事務局長・各セクションの責任者(事務職員)も同席し、教員と事務局職員の意思疎通を図り、共通理解と認識により業務がスムーズに遂行できるようにした。教授会への議案は、それぞれの委員会で案件を検討・審議後、提出することになっており、下記のとおり委員会を設置している。これらの委員会の委員配置については、すべての教員ができるかぎり均等に担当することを基本とした。

この委員会には、学長あるいは事務局長も原則として出席することとした。

また、教授会へ提出する議題の整理・審議事項の事前調整・その他の諸問題の情報共有を図るために「部長・委員長会」を設け、学長・教務部長・学生部長・図書館長に各委員長と事務局長で連絡調整会議を教授会の前週に開催した。

○ 委員会一覧

教務委員会・学生委員会・図書委員会・就職委員会・入試委員会・実習委員会・FD委員会(自己点検委員会を含む)

② 成果と課題(点検・評価)

教員組織については、「教員の職位と年齢のバランスも考えなければならない。同時に、教員数についても、科目に対する適正配置ができるように増員を考えていかなければならない」との考え方にに基づき、教員の新規採用を含めて実施した。また、結婚や出産育児における女性教職員もできるかぎり勤務が可能となるように配慮をしている。

教授会については、学長が議長となり原則的に毎月 1 回(夏季休暇中の 8 月は開催しない)開催された。各委員会より教授会に提出された議案について審議と報告を行ったが、事前に各委員会で検討されたものであり、ほぼ異議なく了承されるという状況であった。

質問や意見もあったが、それらは確認のための内容が中心であった。議論も感情的な対立ではなく、常識ある大学人としての意見交換等で教授会も活性化してきたと思われる。

委員会は、昨年度同様、学生委員会や就職委員会など学生対応などで日常的に繁忙を極める委員会と比較的平静な委員会とに分かれた。すべての教員が 3 委員会程度の委員を兼

務するため、個々の教員の業務は忙しいものとなった。

このような多忙な状況でも、各委員会では委員長をリーダーとして、各委員がそれをサポートする形で、それらの業務を分担し的確に対処していった。これは、多くの委員会が、定例以外に適宜、臨時会議などを開催し、情報や意見交換を密に行った結果、円滑に運営され、充分機能を果たした大きな要因であったと思われる。

あまりに業務が集中し、業務がスムーズに進まない委員会がある一方で、日常的業務も少なく積極的活動の見えなかった委員会もあったことは、次年度への反省事項である。

(2) 学務分掌

① 専任教員とその職位

こども学科	
学 長:	藤田 利久
教 授:	入江 良英・牛込 彰彦・村田 文生(特任)
准教授:	小澤 和恵・木許 隆・安部 孝
講 師:	安倍 大輔・稲垣 馨・高橋 努・関根 久美
助 教:	浦 由希子・細田 香織(特任)

② 委員会の委員長

委員会名	委員長名
教務委員会	小澤 和恵
学生委員会	安部 孝
図書委員会	牛込 彰彦
実習委員会	牛込 彰彦
就職委員会	安部 孝
入試委員会	小澤 和恵
FD委員会	木許 隆

③ 委員会の委員 (◎は委員長)

委員会名	教員名
教務委員会	入江 良英・牛込 彰彦 ◎小澤 和恵・安部 孝・稲垣 馨・高橋 努・関根 久美
学生委員会	入江 良英・木許 隆 ◎安部 孝・安倍 大輔・稲垣 馨・高橋 努・関根 久美・浦 由希子
図書委員会	◎牛込 彰彦・村田 文生・安倍 大輔・浦 由希子
就職委員会	入江 良英・木許 隆 ◎安部 孝・安倍 大輔・稲垣 馨・高橋 努・関根 久美・浦 山希子
入試委員会	◎小澤 和恵・木許 隆・安倍 大輔・細田 香織
実習委員会	入江 良英 ◎牛込 彰彦・小澤 和恵・安部 孝・稲垣 馨・高橋 努・関根 久美
FD委員会	入江 良英・牛込 彰彦・小澤 和恵 ◎木許 隆・安部 孝

④ クラス担任

クラス	担任	
乳幼児保育コース	A組	牛込 彰彦
	B組	浦 由希子
	C組	高橋 努
	D組	小澤 和恵
こども学コース		

⑤ 事務職員

本学の事務職員は専任職員 9 名で、総務・庶務・経理・教務・学生・入試広報・実習をそれぞれに担当した。なお、年度途中・年度末で退職者がでたため、中途採用を行った結果、年度末の人員は 10 名となった。

係名	氏名
事務局長	濱野 哲也（平成 22 年 9 月まで）
事務局長代理	佐藤 猛（平成 22 年 10 月より）
入試広報課長	秋山 和世
総務担当	佐藤 猛
経理・庶務係	新島 山子（平成 23 年 1 月まで）
経理・庶務係	大澤 尚子（平成 23 年 1 月より）
教務係	橋本 早也佳
教務係	相馬 萌
教務係	矢内 美優（平成 23 年 2 月より）
入試広報係主任	田中 淳一
入試広報係	内田 和泉（平成 23 年 2 月より）
就職係・学生係	奥貫 慶一郎
実習係（実習助手）	原田 智鶴

⑥ 図書館職員

本学の図書館職員は、昨年度までは専任司書 1 名、非常勤司書 1 名の体制で行ったが、非常勤司書の退職に伴い、今年度は専任司書 1 名で担当し、図書委員の教員がそのサポートをすることとなった。

図書館司書	中村 周
-------	------

⑦ 成果と課題（点検・評価）

平成 22 年度も少人数の教職員組織ではあったが、「こども学科」単科で学生数も 180 名

程度という少数であるため、教育や学生活動を日常的に支援・推進する委員会やクラス担任、事務組織は順調に運営されたと思われる。

委員会は前年度の教務委員会・学生委員会・就職委員会・実習委員会・入試委員会・図書委員会・学び直し委員会に、自己点検やFD推進、そして外部評価員による外部評価の準備のため、FD委員会（自己点検を含む）と編集委員会の2委員会をより充実させることとした。

事務局においては、各セクションに最小人数と思われる職員配置となり、また、家庭の都合で年度途中、そして年度末に職員の退職者が発生したものの十分な補充を行うことができ、特別大きな支障をきたすことにはならなかった。

教員は出勤日が週4日（研究日1日）であるため、委員会活動や教育活動と学生指導にあたる一方、個人の研究活動にも十分な時間を確保できたと思われる。各組織の担当教職員は責任感を持って自己の職務を遂行する雰囲気があり、さらに、公開講座や近隣の学校の要請に応じて地域教育活動援助など新規事業への取り組みがあったことは評価できる。

しかし、ここの教職員の職務の多忙さや取り組み姿勢は決して均一ではなく、教員も職員も、個人個人の業務における慣例的スタイルや考え方の影響も依然として色濃く残っていたことは、今後、改善の必要があると思われる。

それには、「学生のために」を第一義に考え、教職員個々の経験を集約し、広い視野に立って考え、新たな考え方で、新しい時代環境に適した学生指導や各種活動に活かしていくことができる運営組織やスタイルの確立が求められるところである。

毎年、「自己点検・評価報告書」を教職員全員が協力して作成し、外部評価委員による評価を受けることにより、より一層本学の「建学の精神」と「教育方針」を教職員が再確認をし、個人としてはもちろん組織として、これに則った大学運営、委員会活動等をしていかなければならないと、全教職員が考える機会をもっていることはたいへん素晴らしいことである。

(3) 入学定員及び学生数

○ 入学定員・学生数 一覧

(平成22年5月1日現在・単位：人)

学科・専攻		定員	1年	2年
こども学科	乳幼児保育コース	150	86	74
	こども学コース		8	2
合計		150	94	76

4 平成 22 年度学事日程

(1) 学事日程

○ 学事日程一覧

前期		後期	
日付	行事	日付	行事
平成 22 年		9 月 20 日	後期授業開始
3 月 29 日	新入生オリエンテーション	9 月 25 日	AO 入試面談
3 月 30・31 日	学外研修	10 月 2 日	補講日
4 月 1 日	2 年生オリエンテーション	10 月 3 日	第 12 回オープンキャンパス
4 月 2 日	1・2 年生オリエンテーション、健康診断	10 月 4 日～29 日	小学校教育実習（こども学コース 2 年）
4 月 3 日	平成 22 年度入学式	10 月 9 日	補講日
4 月 5 日	前期授業開始	10 月 18 日～30 日	幼稚園教育実習（乳幼児保育コース 2 年）
4 月 10 日	健康診断	10 月 30 日	推薦入試 1 期、指定校推薦入試
4 月 17 日	補講日	11 月 6 日	補講日
4 月 24 日	補講日	11 月 13 日	補講日
4 月 26・27 日	特別授業期間	11 月 20 日	AO 入試面談
4 月 28 日	純真フェスタ準備日	11 月 22 日	スポーツ大会
4 月 29 日	純真フェスタ、第 1 回オープンキャンパス	11 月 27 日	補講日
4 月 30 日	純真フェスタ	12 月 4 日	補講日
5 月 15 日	補講日	12 月 11 日	補講日、プレカレッジ
5 月 22 日	第 2 回オープンキャンパス	12 月 18 日	推薦入試 II 期、社会人入試 1 期
5 月 23 日	第 3 回オープンキャンパス	12 月 27 日	冬季休業
5 月 24 日～6 月 4 日	幼稚園教育実習（2 年）	～平成 23 年 1 月 7 日	
6 月 12 日	補講日	1 月 12 日	後期授業再開
6 月 13 日	第 4 回オープンキャンパス	1 月 15 日	プレカレッジ
6 月 19 日	補講日	1 月 19 日～2 月 2 日	追再試験当学生 発表期間
6 月 26 日	AO 入試面談、第 5 回オープンキャンパス	1 月 22 日	補講日、プレカレッジ
6 月 28 日	保育所実習（乳幼児保育コース 2 年）	1 月 29 日	一般入試 1 期
～7 月 12 日		2 月 2・3 日	追再試・補講期間
7 月 11 日	第 6 回オープンキャンパス	2 月 4 日	表現発表会リハーサル
7 月 17 日	AO 入試面談、補講日	2 月 5 日	表現発表会
7 月 24 日	第 7 回オープンキャンパス、補講日	2 月 8 日～10 日	追再試・補講期間
7 月 26 日～8 月 9 日	追再試験当学生 発表期間	2 月 14 日～24 日	施設実習（乳幼児保育コース 1 年）

I 本学の概要

7月31日	補講日	2月18日	フレカレッジ
7月31日～8月3日	オープンカレッジ	2月25日	フレカレッジ
8月7日	AO入試面談、第8回オープンキャンパス	2月26日	一般入試Ⅱ期、社会人入試Ⅱ期
8月9日～12日	追再試・補講期間	3月22日	AO入試面談
8月9日～9月17日	夏季休業		
8月21日	第9回オープンキャンパス		
8月22日	第10回オープンキャンパス		
8月23日～27日	集中講義期間		
8月27日	AO入試面談		
8月30日	保育所実習（乳幼児保育コース2年）		
～9月13日			
9月13日～18日	幼稚園教育実習（1年）		
9月18日	第11回オープンキャンパス		

(2) 成果と課題（点検と評価）

授業コマ数15コマ以上を確保したうえで、保育所・幼稚園・小学校での実習を組み込んでいくため、補講日の設定などで学事日程はかなり窮屈なものとなったが、これも免許状と資格の取得を目指す短期大学の宿命ともいえよう。

学生に対する親の思いや大学と保護者の関係を密接にし、学生生活を意義あるものしたいという考えから、入学式と卒業式に保護者が列席しやすいよう、平成22年度においても土曜日に設定している。しかし、卒業式前日、東日本大震災の発生とその後の混乱により、安全確保のため年度内の卒業式を中止とした。

新入生学外（合宿）研修を例年通りの施設で行いたいと準備を進めたが、4月の適切な時期の予約が難しく、今年度は、入学式前の3月末で行った。学外オリエンテーションの前に学内オリエンテーションを実施することによって、研修の意義と日程を周知することができたが、入学前に新入生を動かすことについては、さまざまな準備や配慮が必要であり、今後検討が必要であると考えます。

例年秋に1日開催している学園祭を、今年度は4月末の2日間開催した。2年生にとって、秋は幼稚園実習も重なり、落ち着いて就職活動ができないということが主な理由である。年度当初より準備が大変だったことはあるが、早い時期にクラスやサークルが団結し始動できる点は良かった。また、2日間開催したことにより多彩な内容が展開できた。

II 入試と広報

1 入試

(1) 組織と運営

① 入試に関する組織

(a) 入試広報委員会

入試に関する事項は、各委員長を中心とした入試広報委員会によって審議した。

○ 入試広報委員会構成員

入試広報委員長・学長・教務部長・学生部長・図書館長・就職委員長・FD委員長
委員(教員)・事務局長・入試広報事務担当者(書記を兼務)

(b) 入試問題作成委員会

本学では、一般入試において学力検査(国語)を実施している。また、社会人入試において作文を課している。一般入試の問題作成については、国語科を担当する教員を中心として2名の専任教員が担当し、社会人入試の出題については、国語科を担当する教員を中心として2名の専任教員が担当した。

(c) 高等学校等への入試広報

高等学校等への広報活動として、在学生の出身校をはじめ、近隣の高等学校へ大学案内・学生募集要項等を持参し、進路指導部や高等学校3年生の担任と接見した。この活動には、入試広報事務担当者だけでなく、専任教員や職員も積極的に取り組んだ。

② 入試業務

入試広報委員会と入試広報課の協力によって、以下の業務を行っている。各事項について教授会の承認を得る必要のあるものは、定例の教授会に原案をあげ、審議を経たのち決定されている。

○ 入試広報業務一覧

・入試の企画・運営

入試の種類(案)の策定・入試日程(案)作成・指定推薦校(案)作成・入試選考基準(案)作成・学生募集要項作成
大学案内作成・広報誌等作成・入試問題作成・入学願書受付・入試の実施・合否判定資料の作成・合格通知発送
・広報誌の作成

・広報活動

進学相談会・学校見学会(オープンキャンパスを含む)・募集資料の配布・ホームページ作成・高等学校における
模擬授業・公開講座などの企画・運営

(2) 平成 23 年度入試の特徴

① 入試の改善点

推薦入試区分を指定校推薦入試、公募制推薦入試、専門高校・総合学科等推薦入試、同窓生推薦入試の 4 区分に分けた。同窓生推薦入試とは、埼玉純真短期大学の卒業生が、母校である本学へ入学を希望する受験生を、責任を持って推薦する制度であり、指定校推薦と同様の扱いとした。

② 入試の特徴

(a) 入試の動向

指定校推薦入試、公募制推薦入試、専門高校・総合学科等推薦入試、同窓生推薦入試と多様化する進学者のニーズを捉えて推薦入試の区分を 4 区分設定した。

指定校推薦入試は、本学より指定された高等学校（中等教育学校を含む）を平成 23 年 3 月卒業見込みで、学業成績の条件を満たし、出身学校長から推薦される者を対象に実施するもので、目的意識と学習意欲の高い人材を求めた入試である。書類審査と面接にて総合的に評価し、推薦基準となる評定平均値については別に定めている。

公募制推薦入試は、2 回実施している。高等学校（中等教育学校を含む）を平成 23 年 3 月卒業見込み、及び平成 22 年 3 月高等学校（中等教育学校を含む）を卒業した者で、学業成績の条件を満たし、出身学校長から推薦される者を対象に、目的意識と学習意欲の高い人材を求めた入試である。書類審査と面接にて総合的に評価する。

専門高校・総合学科等推薦入試は、2 回実施している。専門高校とは、商業科・工業科・農業科などをさし、総合学科の高等学校と同じ扱いにした。推薦基準となる卒業年度等は、公募制推薦入試に準じている。

同窓生推薦入試は、2 期実施している。同窓生推薦入試とは、埼玉純真短期大学の卒業生が、母校である本学へ入学を希望する受験生を、責任を持って推薦する制度であり、指定校推薦と同様の扱いとする。また、受験に際して対象者は同窓生名で推薦し、入学金免除規程第 2 条に該当する場合は入学金を免除する。高等学校(中等教育学校を含む)を平成 23 年 3 月卒業見込みの者で、書類審査と面接にて総合的に評価する。

一般入試は、2 回実施している。各コースとも学科試験「国語（古文・漢文を除く）」と面接を課し、書類審査を含め総合的に評価する。

社会人入試は、2 回実施している。社会的経験を有する者で、将来、保育・教育・福祉に従事する事を目指しているか、同分野の学習に興味のある社会人を対象に、作文（800 字以上）と面接を課し、書類審査を含め総合的に評価する。

AO 入試は、4 期設定している。まず、入学希望者が本学のアドミッションポリシーを理解した上で、担当者が約 30～40 分程度の面接を行う。面接は、7 回のエントリー期間を設けている。面接時には、保護者、高等学校教員等が同伴することを認めている。そして、面接内容は、入学希望者から本学の教育方針・授業内容・学校生活・就職状況等の質問を受け、本学から入学希望者の志望動機・学習意欲・将来の進路・その他、優れた能力・活

動への質問を行う。本試験を行う前に進路相談会や AO 入試ガイダンスを行い、入学希望者と本学の相互理解を促し、出願・試験に至る入試である。

それぞれの入試における合否判定は、入試終了後、入試委員会、合否判定教授会を開催し公平かつ厳正に行われる。合否は、受験生及び出身学校長に通知し、電話・メール・FAX等による問い合わせには応じていない。

(b) 志願者の動向

○ 本学志願者の推移

(単位：人)

年 度	志願者数		
	英語コミュニケーション学科	こども学科	乳幼児保育学科第二部
平成 18 年度	8	192	20
平成 19 年度	—	173	6
平成 20 年度	—	86	—
平成 21 年度	—	97	—
平成 22 年度	—	131	—

(3) 平成 23 年度入試結果

○ 入試結果一覧

(平成 23 年 3 月 31 日現在・単位：人)

学 科	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
こども学科	131	130	129	127

(4) 募集要項

① 募集要項の形式

A4 冊子形式とし、記述内容の充実を図った。

② 選考方法

○ 選考方法一覧

入試区分		推薦書	調査書	個人面接	学力検査等	定員 (人)
推薦入試	指定校	○	○	○	—	35
	公募制	○	○	○	—	25
	専門高校・総合学科等	○	○	○	—	10
	同窓生	○	○	○	—	5
一般入試		—	○	○	「国語」 (古文・漢文を除く)	20

Ⅱ 入試と広報

社会人入試	—	○	○	作文 (800字以内)	若干
AO入試	—	○	○	—	20

③ 入試日程

○ 入試日程一覧

入試区分		出願期間	試験日	合格発表日	入学手続 締切日
指定校推薦入試		2010年10月4日(月) ～10月25日(月)	10月30日(土)	11月1日(月)	11月26日(金)
公募制推薦入試	I期	2010年10月4日(月) ～10月25日(月)	10月30日(土)	11月1日(月)	11月26日(金)
	II期	2010年12月1日(水) ～12月15日(水)	12月18日(土)	12月20日(月)	1月14日(金)
専門高校・総合学科等 推薦入試	I期	2010年10月4日(月) ～10月25日(月)	10月30日(土)	11月1日(月)	11月26日(金)
	II期	2010年12月1日(水) ～12月15日(水)	12月18日(土)	12月20日(月)	1月14日(金)
同窓生推薦入試	I期	2010年10月4日(月) ～10月25日(月)	10月30日(土)	11月1日(月)	11月26日(金)
	II期	2010年12月1日(水) ～12月15日(水)	12月18日(土)	12月20日(月)	1月14日(金)
一般入試	I期	2011年1月11日(火) ～1月24日(月)	1月29日(土)	2月1日(火)	2月25日(金)
	II期	2011年2月8日(火) ～2月21日(月)	2月26日(土)	3月1日(火)	3月18日(金)
社会人入試	I期	2010年12月1日(水) ～12月15日(水)	12月18日(土)	12月20日(月)	1月14日(金)
	II期	2011年2月8日(火) ～2月21日(月)	2月26日(土)	3月1日(火)	3月18日(金)

○ AO入試日程一覧

入試区分	エントリー期間	面接	出願許可 通知	出願期間	合格 発表日	入学手続締 切日
AO 入 試	2010年6月7日(月) ～6月18日(金)	6月26日 (土)	6月30日 (水)	9月6日(月) ～ 9月17日(金)	9月21日 (火)	10月22日 (金)
	2010年6月21日(月) ～7月9日(金)	7月17日 (土)	7月21日 (水)			
	2010年7月12日(月) ～7月23日(金)	8月7日(土)	8月11日 (水)			
	2010年7月26日(月) ～8月20日(金)	8月27日 (金)	9月1日 (水)			
II 期	2010年8月23日(月) ～9月17日(金)	9月25日 (土)	9月29日 (水)	10月4日(木) ～ 10月15日(金)	10月18日 (月)	11月26日 (金)
III 期	2010年11月2日(火) ～11月16日(火)	11月20日 (土)	11月24日 (水)	11月29日(月) ～ 12月10日(金)	12月13日 (月)	1月14日 (金)
IV 期	2011年2月21日(月) ～3月16日(水)	3月22日 (火)	3月23日 (水)	3月24日(木) ～ 3月25日(金)	3月28日 (月)	3月31日 (木)

(5) 成果と課題(点検・評価)

大学入試の基本方針は文部科学省示されている。その中で、各大学独自の特徴をもった入試が多く展開されている。入試形態が複雑化し、受験生に理解されにくい点が見受けられるため、本学の入試形態に関しては極力わかりやすいものにと考えている。

昨年度の課題で挙げられていた遠隔地からの受験生へ支援について、今年度の入試より、受験前日の市内宿泊と入学金の免除という支援をすることとした。また、多くの卒業生を輩出していることから、卒業生より推薦してもらう「同窓生推薦入試」を取り入れた。受験生は卒業生の姿を目指し、卒業生も出身校への誇りと思いを次に繋げられる入試となったと考える。

今年度は、こども学コースへの入学者がいなかった。昨今短期大学で教員免許状を取得できるところが数少なくなっている中では、特色の一つと捉えていたが、今後、こども学コースの存続については検討していく必要がある。

2 広報

(1) 組織と運営

学生の受け入れに関する広報活動は、以下の内容で入試広報課を中心に全教職員で行った。

○ 広報活動一覧

・学校案内・入試ガイドブック・学生募集要項・ホームページ・電飾看板の作成
 ・受験生や高等学校への窓口業務（学校案内・募集要項・入試問題集などの配布・入試に関する問い合わせへの応答等）と学校見学の案内など・受験雑誌への広告掲載・進学相談会・模擬授業への教職員派遣

(2) オープンキャンパス

① 日程と内容

平成 22 年度は、以下の日程で計 11 回のオープンキャンパスを実施した。

○ オープンキャンパス実施日程一覧

1 回目：5 月 22 日（土） 2 回目：5 月 23 日（日） 3 回目：6 月 13 日（日） 4 回目：6 月 26 日（土）
 5 回目：7 月 11 日（日） 6 回目：7 月 24 日（土） 7 回目：8 月 7 日（土） 8 回目：8 月 21 日（土）
 9 回目：8 月 22 日（日） 10 回目：9 月 18 日（土） 11 回目：10 月 3 日（日）

内容は、学科の説明・体験授業・個別進学相談・キャンパス見学・学食体験などである。

○ オープンキャンパス実施内容詳細

	日 時	プログラム
第 1 回	5 月 22 日(土) 9:30～受付開始 10:00～14:00	1 開会：学科・入試説明等 2 体験授業 1 時間目：11：00～11：40 2 時間目：11：50～12：30 A：キドキワクワクピアノ講座 B：聴き手上手は話し上手 C：表現「紙芝居の演じ方」 3 学食体験 4 個別進学相談・キャンパス見学（希望者のみ） *食事終了後、自由解散

II 入試と広報

<p>第2回</p>	<p>5月23日(日)</p> <p>9:30~受付開始</p> <p>10:00~14:00</p>	<p>1 開会：学科・入試説明等</p> <p>2 体験授業 1 時間目：11:00~11:40 2 時間目：11:50~12:30</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>A：子どもがイキイキする遊び</p> <p>B：脳のおはなし</p> <p>C：「ネーチャーゲーム埼玉純真短大探索」</p> </div> <p>11:00~11:40 保護者対象懇談会 「“先生”になっていくこと～教育の風景を作る～」</p> <p>3 学食体験</p> <p>4 個別進学相談・キャンパス見学</p> <p>*食事終了後、自由解散</p>
<p>第3回</p>	<p>6月13日(日)</p> <p>9:30~受付開始</p> <p>10:00~14:00</p>	<p>1 ウェルカムコンサート</p> <p>2 開会：学科・入試説明等</p> <p>3 体験授業 1 時間目：11:30~12:10 2 時間目：12:20~13:00</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>A：パネルシアターで手遊びを覚えよう</p> <p>B：先生になること</p> <p>C：ドキドキワクワクピアノ講座</p> </div> <p>13:30~12:10 在学生との懇談会 「在学生による埼玉純真短期大学のご紹介」</p> <p>4 学食体験</p> <p>5 個別進学相談・キャンパス見学（希望者のみ）</p> <p>*食事終了後、自由解散</p>
<p>第4回</p>	<p>6月26日(土)</p> <p>9:30~受付開始</p> <p>10:00~14:00</p>	<p>1 ウェルカムステージ</p> <p>2 開会：学科・入試説明等</p> <p>3 体験授業 1 時間目：11:20~12:00 2 時間目：12:10~12:50</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>A：心理アセスメント体験（検査）心の中の風景を描こう</p> <p>B：音楽は爆発だ！！</p> <p>C：発達障がいについて</p> </div> <p>11:20~12:00 保護者対象懇談会 「教育実習について」</p> <p>4 学食体験</p> <p>5 個別進学相談・キャンパス見学（希望者のみ）</p> <p>*食事終了後、自由解散</p>

Ⅱ 入試と広報

<p>第5回</p>	<p>7月11日(日)</p> <p>9:30～受付開始</p> <p>10:00～14:00</p>	<p>1 開会：学科・入試説明等</p> <p>3 浅井えり子客員教授講演 11:00～11:40</p> <p>2 体験授業 11:50～12:30</p> <p>A：おり紙ゴマで遊ぼう</p> <p>B：こどもの能力開発</p> <p>C：音楽は爆発だ！！</p> <p>3 学食体験</p> <p>4 個別進学相談・キャンパス見学（希望者のみ）</p> <p>*食事終了後、自由解散</p>
<p>第6回</p>	<p>7月24日(土)</p> <p>9:30～受付開始</p> <p>10:00～14:00</p>	<p>1 ウェルカムコンサート</p> <p>2 開会：学科・入試説明等</p> <p>3 体験授業 1時間目：11:20～12:00 2時間目：12:10～12:50</p> <p>A：レクリエーション・ゲームに挑戦</p> <p>B：「こどもの能力開発」</p> <p>C：ブラインドウォークにチャレンジ</p> <p>D：子どもの世界</p> <p>11:20～12:00 在学生との懇談会</p> <p>○11:00～13:50 ピアノ個人レッスン（1人：20分）</p> <p>4 学食体験</p> <p>5 個別進学相談・キャンパス見学（希望者のみ）</p> <p>*食事終了後、自由解散</p>
<p>第7回</p>	<p>8月7日(土)</p> <p>9:30～受付開始</p> <p>10:00～14:00</p>	<p>1 ウェルカムステージ</p> <p>2 開会：学科・入試説明等</p> <p>3 体験授業 1時間目：11:20～12:00 2時間目：12:10～12:50</p> <p>A：純真幼稚園</p> <p>B：ペープサートで遊ぼう</p> <p>C：脳のおはなし</p> <p>11:30～12:00 保護者懇談会 「臨床心理士の立場から」</p> <p>4 学食体験</p> <p>5 個別進学相談・キャンパス見学（希望者のみ）</p> <p>*食事終了後、自由解散</p>

Ⅱ 入試と広報

<p>第8回</p>	<p>8月21日(土)</p> <p>9:30～受付開始</p> <p>10:00～14:00</p>	<p>1 開会：学科・入試説明等</p> <p>2 特別講演 「永山友美子先生による～アイリッシュハーブの演奏会～」</p> <p>3 体験授業 11:50～12:30</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>A：表現「紙芝居の演じ方」</p> <p>B：「わたしてっ、こんな感じ（漢字）」&「じゃんけんテレパシー」</p> <p>C：発達障がいについて</p> <p>D：純真幼稚園</p> </div> <p>11:50～12:30 保護者対象懇談会 「今だから純真」</p> <p>○11:50～13:20 ピアノ個人レッスン（1人：20分）</p> <p>4 学食体験</p> <p>5 個別進学相談・キャンパス見学（希望者のみ）</p> <p>*食事終了後、自由解散</p>
<p>第9回</p>	<p>8月22日(日)</p> <p>9:30～受付開始</p> <p>10:00～14:00</p>	<p>1 開会：学科・入試説明等</p> <p>2 体験授業 1時間目：11:00～11:40 2時間目：11:50～12:30</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>A：音楽は爆発だ！！</p> <p>B：しかけ歌あそびで遊ぼう</p> <p>C：心理アセスメント体験（検査）心の中の風景を描こう</p> <p>D：発達障がいについて</p> </div> <p>11:50～12:30 保護者対象懇談会 「今だから純真」</p> <p>○11:50～13:20 ピアノ個人レッスン（1人：20分）</p> <p>3 学食体験</p> <p>4 個別進学相談・キャンパス見学（希望者のみ）</p> <p>*食事終了後、自由解散</p>
<p>第10回</p>	<p>9月18日(土)</p> <p>9:30～受付開始</p> <p>10:00～14:00</p>	<p>1 開会：学科・入試説明等</p> <p>2 浅井えり子客員教授講演 11:00～11:40</p> <p>3 体験授業 11:50～12:30</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>A：レクリエーション・ゲームに挑戦</p> <p>B：パネルシアターでお話を楽しもう</p> </div> <p>○11:00～13:50 ピアノ個人レッスン（1人：20分）</p> <p>4 学食体験</p> <p>5 個別進学相談・キャンパス見学（希望者のみ）</p> <p>*食事終了後、自由解散</p>

II 入試と広報

第 11 回	10月3日(日)	1 ウェルカムコンサート 2 開会：学科・入試説明等 3 体験授業 1 時間目：11：20～12：00 2 時間目：12：10～12：50 A：心理アセスメント体験（検査）心の中の風景を描こう B：音楽は爆発だ！！ ○11：00～13：50 ピアノ個人レッスン（1人：20分） 12：10～12：50 相談コーナー 4 学食体験 5 個別進学相談・キャンパス見学（希望者のみ） ＊食事終了後、自由解散
	9:30～受付開始	
	10:00～14:00	

② 参加状況

○ オープンキャンパス参加状況一覧

(単位：人)

2010年実施結果（出願願率55%）

回	実施日	こども学科				複数回					
		延べ人数 (受験生・保護者)		1.2年生	個別 相談者数	初回	2回	3回	4回	5回	6回
春の見学会	2010.3.23(火)～26(金)	14	5	1	8	14					
1	2010.4.29(木)	32	12	9	11	32					
2	2010.5.22(土)	13	7	0	7	13					
3	2010.5.23(日)	16	13	0	8	15	1				
4	2010.6.13(日)	24	9	0	13	20	4				
5	2010.6.26(土)	22	11	0	13	20	2				
6	2010.7.11(日)	37	14	6	11	34	1	2			
7	2010.7.24(土)	38	20	8	11	33	5				
8	2010.8.7(土)	31	12	9	5	24	4	3			
9	2010.8.21(土)	31	18	11	8	25	5	1			
10	2010.8.22(日)	45	26	15	16	34	9	0	2		
11	2010.9.18(土)	30	7	3	10	17	12	1			
12	2010.10.3(日)	29	13	1	7	13	8	5	3		
合計		362	167	63	128	294	51	12	5		

③ 成果と課題（点検・評価）

オープンキャンパスは、本学を理解していただける機会である。受験の早期化および広報活動のため、平成 22 年度のオープンキャンパスは昨年度の成果を基に開催日を決め実施した。学生会スタッフとして学生会に所属する学生に、誘導やキャンパス見学会等を担当してもらった。本学の学生の手本として、対応ができていた。また、教職員も密に親切、丁寧な対応ができた。個別相談は、受験生一人ひとり対応し、より興味を持ってもらえる貴重な機会になった。参加していただけるよう努めたが、午後の部に時間を設けているため、帰ってしまう方がいるのが残念である。参加者は、微増ではあるが広報活動の成果と思われる。

（3） その他の広報活動

① 高等学校への訪問

本学では開学以来、県内はもとより隣接県の高等学校を中心に高校訪問を行っている。訪問の目的は、本学の教育理念や取組・入学試験での選考方法、卒業後の進路などについて、高等学校に理解していただくことである。平成 22 年度は、全教職員を各地区に分担し、春期、夏期、秋期、冬期と 4 回高校訪問を行った。春期は、指定推薦校を中心に文書をお持ちした。夏期は、高等学校の三者面談が終了した時期に、秋期は、推薦入学試験の願書受付が始まる前に、指定推薦校の他オープンキャンや学校見学などに来ていただいた高校生の出身校へ訪問した。冬期は、推薦入学試験や AO 入学試験で合格者のある高校へお礼の挨拶と一般入試へのご案内を含め訪問した。

② ホームページ

大学案内パンフレットとならんで、ホームページもまた本学に関する情報を受験生や一般の方へ提供する媒体として重要な役割を担っている。特に、ホームページは、最新の情報を提供できるということにおいて、パンフレットとは異なる利点がある。ホームページの内容としては、各学科の教育内容・取得資格・取得免許状を掲載している。また、受験生に対して、資料請求や質問等に回答できるページを設けており、在学生へは休講、緊急連絡などの情報を提供できるようにしている。

法人本部の情報処理センターが更新業務を請け負っているため、リアルタイムでの更新が可能となり、オープンキャンパスの実施報告や大学での新情報を掲載できていた。

③ Web-Site への掲載

本学のホームページ以外に、教育関係業者を介してインターネット上に本学の状況等を公開している。平成 22 年度は、2 社との契約をしているが、資料請求やオープンキャンパスへの申し込み等を可能にしている。ここでの効果は、他大学を検索中に本学の取り組みや取得可能な資格・免許状を広く知らせることができる。この取組により、資料請求者の居住地域が広範囲になった。

④ ガイダンス・模擬授業・キャンパス見学会

毎年、埼玉県を中心に茨城県・群馬県・栃木県等のホテルや高等学校を会場とした進学相談会や模擬授業に参加している。そして、本学へ直接来校する受験生や保護者に対しても同様の試みを行っている。ガイダンスに参加することで、高校生のニーズや様子を感じ、本学を志望する生徒に対しての説明ができる。また、模擬授業は、本学教員の教育への取組や姿勢を高校生に理解してもらえるよい機会となっている。

⑤ 広報誌作成

平成 22 年春「Jushin News Letter」第 1 号を発行した。掲載内容は、本学園理事長の入学式祝辞、学長の新生へ祝辞、第 26 回卒業式の報告、第 28 回入学式の報告、プレカレッジ・学外研修のご案内、第 28 回純真祭の報告、学校見学会の報告、オープンキャンパスのご案内、新入試制度のご案内についての内容を掲載した。

続いて、平成 22 年夏「Jushin News Letter」第 2 号を発行した。掲載内容は、実習を終えての感想、外部講師を招いての特別授業の報告、体育大会の報告、地域活動、教育活動、入試日程、後期の学事日程、遠隔地からの受験生への支援制度等の内容を掲載した。

続いて、平成 22 年冬「Jushin News Letter」第 3 号を発行した。掲載内容は、学生のエッセイコンテスト入賞の感想、スポーツ大会の報告、実習レポート、保護者会・オープンキャンパスの実施報告、入試日程、プレカレッジのご案内、後期の行事日程等の内容を掲載した。送付先は、資料請求者・オープンキャンパス参加者・指定推薦高等学校進路指導部・近隣の高等学校進路指導部・在学生の保護者等などである。

⑥ プレカレッジ

期間が早まり、大学入学までの時間が長いため、新生の意識や意欲などのモチベーションが下がらないように工夫する必要が出てきた。学力低下を防ぐというものだけではなく、合格者に対して入学前の事前教育を行うことによって、新年度からの意識付けになればと考えている。平成 22 年度も、推薦入試・AO 入試の合格者に対して入学前教育（プレカレッジ）の実施を試みた。

○ プレカレッジ概要

・日程	
必修科目	2011 年 1 月 22 日（土）・2 月 25 日（金）・3 月 26 日（土）
選択科目	2010 年 12 月 11 日（土）・2011 年 1 月 15 日（土）・2 月 18 日（金）・3 月 18 日（金）
特別講座	2011 年 2 月 5 日（土）表現発表会開催（羽生市産業文化ホールにて）
・履修方法	1 月 22 日（土）、2 月 25 日（金）の必修科目はどちらか都合の良い日に出席する。 3 月 26 日（土）の必修科目と入学前オリエンテーションは、全員出席する。 選択科目については、受講したい科目に出席する。 3 月 18 日（土）は、3 つの選択科目の中から希望する科目 2 つに出席する。

II 入試と広報

○ プレカレッジ日程及び内容一覧

実施日	1時限目 13:30～14:30	2時限目 14:40～15:40
選択 12月11日(土)	保育原理入門 (保育士のコンピテンシー)	子どもと文化
選択 1月15日(土)	保育・教育実習入門	相談援助
必修 1月22日(土)	文章の書き方基礎講座	教師・保育者の心... 子供の育ちに寄り添う
特別講座 2月5日(土)	表現発表会 (13:30～16:00 終了予定) 開催場所: 羽生市産業文化ホール・小ホール	
選択 2月18日(金)	ピアノレッスン	造形表現～色彩学入門～
必修 2月25日(金)	文章の書き方基礎講座	教師・保育者の心... 子供の育ちに寄り添う
選択 3月18日(金)	心理学入門	特別支援保育 ～こんな時どうする?～
【中止】	ピアノレッスン	ピアノレッスン
必修 3月26日(土) 【中止】	保育者・教育者としての心得 (保護者会)	入学前オリエンテーション

(4) 成果と課題 (点検・報告)

オープンキャンパス以外の広報活動として行っている高等学校への訪問や模擬授業、進学ガイダンスは、本学教職員ができる限り担当高校を決めて伺うようにして、高校側との信頼関係が築きながら行うようにした。

本学を広く理解してもらうために、ホームページや広報紙「Junshin News Letter」は大変重要である。「Junshin News Letter」については、昨年度より定期的に刊行することができた。ホームページについても定期的な更新がされたが、常にアクセスできるホームページの特性を活かして、常に新しく魅力ある情報が提供できる工夫をしていきたい。

入学前教育プレカレッジも4年目を迎え、高等学校からの理解と評価を得るようになったと感じている。今年度は東日本大震災の影響で、3月に予定していた2日間の授業は開講できなかった。

III 教育活動

1 教育課程

(1) 教育課程の編成

こども学科では、子どもに関する専門分野の知識を授け、向上心にあふれ、優れた人格と協調性を持つ人材の育成を目的としている。本学科における教育課程は教養教育科目及び専門科目をもって編成する。教育における質を保持しながら、保育・教育の専門職を養成する本学の教育目的を達成するために必要な授業科目を開設し、専門科目に偏ることのないようにバランスよく、体系的なカリキュラム編成をしている。

また、本学において授与する学位は短期大学士であり、取得可能な免許状・資格は次のとおりである。

○ 学科別授与称号及び免許状・資格証の名称一覧

学科名	教育課程	称号・免許状・資格証
こども学科	卒業課程	短期大学士（こども学）
	教員養成課程	小学校教諭二種免許状
	教員養成課程	幼稚園教諭二種免許状
	保育士養成課程	指定保育士養成施設卒業証明書
	司書課程	図書館司書資格証明書
	司書教諭課程	司書教諭課程修了証書
	社会福祉主事任用資格	
	レクリエーション・インストラクター資格 ビジュアル・アート受験資格	

(2) 学科・専攻の教育課程

① こども学科

こども学科では、子どもに関する専門分野の知識を授け、向上心にあふれ、優れた人格と協調性を持つ人材の育成を目的としている。本学科における教育課程は教養教育科目及び専門科目をもって編成する。

(3) 成果と課題（点検・評価）

変化する時代の要請と求められる大学像、専門職像に対応した人材育成と、より「専門性」の伸長を図るために、昨年度大幅なカリキュラムの見直しを行った。今年度は、改定したカリキュラムの成果を見届ける1年となった。「入門ゼミ」は基礎ゼミとして、大変有

意義な授業となったが、半期ではその成果を十分に果たすことができず、もう少し時間が欲しいと感じる。「総合演習Ⅰ」「総合演習Ⅱ」と進んでいくゼミの充実を図ったことにより、専門性と幅を広げる意義が深まったと考える。

昨年度より取り入れたレクリエーション・インストラクター資格やピアヘルパー受験資格は、本学学生にとってそれほど負担もなく付加価値をつける資格・免許となりえるが、司書・司書教諭免許については、履修科目の負担も多く、就職につながらないことから、今後も、司書・司書教諭課程をおくべきかの検討が必要であろう。

2 時間割編成と履修指導

(1) 時間割編成

① こども学科

学生にとって効果的な授業となるように、授業における学生数を講義科目では50名以下、演習・実習科目では40名以下となるように配慮した時間割編成を行った。

乳幼児保育コースにおいては、幼稚園教諭二種免許状・保育士資格及び司書資格の取得が可能になるように、こども学コースにおいては、小学校教諭二種免許状・幼稚園教諭二種免許状及び司書教諭資格が取得可能となるように配慮した。また、小学校課程の科目について、模擬授業などが効果的、効率的に行えるように、1、2年生合同で受講できるよう編成し、その科目については隔年開講とした。

司書資格や司書教諭資格取得のための科目も、今年度は集中講義にすることなく、時間割へ組み込むことができた。

② 成果と課題（点検・評価）

平成22年度の時間割編成は、乳幼児保育学科第2部の募集停止により、例年より複雑でなく授業を組むことができた。集中講義となる科目も最小限であったので、集中講義の日程調整についてもスムーズであった。

専任・非常勤を含めた教員配置と担当科目の決定から時間割編成までを年内に行うことを目標とし編成を行ったが、年を越えてからの教員移動もあり、新年度に間に合わせるよう一部再編成が必要となった。

(2) 履修指導

① 履修指導

オリエンテーションにおいて、教務委員と教務事務担当者が学年別履修指導を行った。さらに新生生に対しては授業の選択方法と免許状及び資格の取得方法などについて詳しく説明をして、クラス担任からも指導を行った。

Ⅲ 教育活動

履修登録と同時に「免許状・資格の取得希望調査」を提出させ、クラス担任・教務委員と教務事務担当者が全学生の取得希望の免許状・資格と履修状況を把握し、指導と対応を行った。さらに教務事務担当者は随時、学生に対し個別の履修指導も行った。

最終的な履修指導と履修登録は1年生においてはクラス指導が可能な「入門ゼミ」において、2年生については「総合演習」においておこなった。

② 成果と課題（点検・評価）

履修指導は問題なく行われていると考える。また、最終的な履修指導と履修登録をゼミの時間で行うことで、履修登録期間が守られた。また、履修確定後、履修確認リストが個人に配られることにより、履修確認が徹底された。

なお、昨年度の反省から、クラス担任・教務委員・教務事務担当者との連絡体制と、年度を超える時点での申し送りの徹底が図られた。

3 授業実施状況

(1) 授業科目の履修者

① 前期

(単位:人)

授業科目の履修人数 (名)	(教養教育科目) 教養科目	専門教育科目	司書資格に関する専門科目	司書教諭資格に関する専門科目	その他の科目	計
0	0	1	0	0	0	1
1-9	0	8	0	1	0	9
10-19	0	13	5	0	0	18
20-29	20	29	2	0	0	51
30-39	1	15	0	0	0	16
40-49	6	11	0	0	0	17
50-59	1	1	0	0	0	2
60-69	0	0	0	0	0	0
70-79	0	2	0	0	0	2
80-89	0	2	0	0	0	2
90-99	0	0	0	0	0	0

Ⅲ 教育活動

100-109	0	0	0	0	0	0
110-119	0	1	0	0	0	1
120-129	0	0	0	0	0	0
130 以上	0	0	0	0	0	0
計	28	83	7	1	0	119

② 後期

(単位:人)

授業科目の履修人数(名)	(教養教育科目) 教養科目	専門教育科目	司書資格に関する専門科目	司書教諭資格に関する専門科目	その他の科目	計
0	0	3	0	0	0	3
1-9	5	18	0	2	0	25
10-19	3	16	6	0	0	25
20-29	8	14	0	0	0	22
30-39	0	14	0	0	0	14
40-49	0	15	0	0	0	15
50-59	1	0	0	0	0	1
60-69	0	0	0	0	0	0
70-79	0	0	0	0	0	0
80-89	0	0	0	0	0	0
90-99	0	0	0	0	0	0
100-109	0	0	0	0	0	0
110-119	0	0	0	0	0	0
120-129	0	0	0	0	0	0
130 以上	0	0	0	0	0	0
計	17	80	6	2	0	105

③ 成果と課題(点検・評価)

少人数クラスによる授業の実施がより徹底され、学生数 50 名以内の適切な人数での授業がなされた。中には履修者 50 名以上という授業もあるが、これらの科目もその授業内容から学生への効果を考慮してのことである。しかし、これも複数教員で担当し、1 教員に対する学生数は 50 名以内となるようにしている。

「英語コミュニケーション」、「日本語表現(文章表現)」において、特に、「英語コミュニ

Ⅲ 教育活動

ケーション」は能力差があり、授業が効果的にできないという反省から、今年度は、入学前オリエンテーションでテストを行い、能力別クラスに分けて「英語コミュニケーション」「日本語表現（文章表現）」を実施した。

今後さらに履修希望者の動向を把握しながら、科目設置や科目内容の見直しを検討していきたい。

(2) 授業の開講・休講及び補講の状況

① 授業時数

平成 22 年度の授業は、厚生労働省の通達に基づき、前期・後期ともに 15 回開講された。

② 休講の状況

(a) 前期

(単位:科目)

教育課程の区分	休講回数別授業科目数										
	10回以上	9回	8回	7回	6回	5回	4回	3回	2回	1回	計
教養科目	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
専門科目	0	1	0	0	0	0	3	2	5	2	13
司書に関する専門科目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
司書教諭に関する専門科目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
その他の科目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	1	0	0	0	0	5	2	5	3	16

(b) 後期

(単位:科目)

教育課程の区分	休講回数別授業科目数										
	10回以上	9回	8回	7回	6回	5回	4回	3回	2回	1回	計
教養科目	0	0	0	0	1	0	2	0	1	2	6
専門科目	1	1	1	0	1	1	2	1	7	1	16
司書に関する専門科目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
司書教諭に関する専門科目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他の科目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	1	1	1	0	2	1	4	1	8	3	22

前期・後期ともに保育所実習及び幼稚園・小学校・中学校教育実習のために休講となった授業は、この表には含まない。

Ⅲ 教育活動

③ 補講の状況

(a) 前期

(単位:科目)

教育課程の区分	補講回数別授業科目数										
	10回以上	9回	8回	7回	6回	5回	4回	3回	2回	1回	計
教養科目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
専門科目	0	0	2	0	0	1	2	3	3	2	13
司書に関する専門科目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
司書教諭に関する専門科目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
その他の科目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	2	0	0	1	2	3	3	5	16

(b) 後期

(単位:科目)

教育課程の区分	補講回数別授業科目数										
	10回以上	9回	8回	7回	6回	5回	4回	3回	2回	1回	計
教養科目	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	3
専門科目	4	0	1	0	0	0	2	3	3	3	16
司書に関する専門科目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
司書教諭に関する専門科目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他の科目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	4	0	2	0	0	0	2	3	5	3	19

④ 成果と課題 (点検・評価)

すべての授業において、前期・後期ともに全教科 15 回以上の授業 (試験を含む) を実施した。この回数実施にあたり、実習などでやむを得ず休講になった科目は、補講の実施を行った。

(3) 授業履修者の問題状況

① 授業欠席調査該当者数

(a) 前期

(単位:人)

	学科・専攻	学年	欠席要注意授業科目数別該当者数											
			10以上	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計	
卒業学年	こども学科	乳幼児教育コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	5
		こども学コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
卒業	こども学科	乳幼児教育コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2

Ⅲ 教育活動

		こども学コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計				0	0	0	0	0	0	0	1	2	4	7

(b) 後期

(単位：人)

	学科・専攻	学年	欠席要注意授業科目数別該当者数											
			10以上	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計	
卒業学年	こども学科	乳幼児教育コース	2年	0	0	0	4	1	1	4	8	4	10	32
		こども学コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
学年 非卒業	こども学科	乳幼児教育コース	1年	0	1	0	0	1	0	1	3	3	11	20
		こども学コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計				0	1	0	4	2	1	5	12	8	21	54

② 受験無資格者調査該当者数

(a) 前期

(単位：人)

	学科・専攻	学年	受験無資格科目数別該当者数											
			10以上	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計	
卒業学年	こども学科	乳幼児教育コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		こども学コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学年 非卒業	こども学科	乳幼児教育コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3
		こども学コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計				0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3

(b) 後期

(単位：人)

	学科・専攻	学年	受験無資格科目数別該当者数											
			10以上	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計	
卒業学年	こども学科	乳幼児教育コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		こども学コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学年 非卒業	こども学科	乳幼児教育コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
		こども学コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計				0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1

③ 再試験該当者数

(a) 前期

(単位：人)

	学科・専攻	学年	再試験科目数別該当者数											
			10以上	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計	
卒業学年	こども学科	乳幼児教育コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	4
		こども学コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学年 非卒業	こども学科	乳幼児教育コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	2	4	13	19
		こども学コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	3
計				0	0	0	0	0	0	0	3	5	18	26

Ⅲ 教育活動

(b) 後期

(単位：人)

	学科・専攻	学年	再試験科目数別該当者数												
			10以上	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計		
卒業学年	こども学科	乳幼児教育コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	10
		こども学コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学年 非卒業	こども学科	乳幼児教育コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	15
		こども学コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
計				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	26	26

④ 追試験該当者数

(a) 前期

(単位：人)

	学科・専攻	学年	追試験科目数別該当者数												
			10以上	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計		
卒業学年	こども学科	乳幼児教育コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		こども学コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学年 非卒業	こども学科	乳幼児教育コース	1年	0	1	1	1	0	0	0	0	1	3	7	
		こども学コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計				0	1	1	1	0	0	0	0	1	3	7	

(b) 後期

(単位：人)

	学科・専攻	学年	追試験科目数別該当者数											
			10以上	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計	
卒業学年	こども学科	乳幼児教育コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	10
		こども学コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学年 非卒業	こども学科	乳幼児教育コース	1年	0	0	0	1	0	0	1	1	0	4	7
		こども学コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計				0	0	0	1	0	0	1	1	0	14	17

⑤ 成果と課題（点検・評価）

学則に「各授業科目について出席すべき時間数の3分の2に達しない者は、その授業修了の認定を受けることができない」との定めがある。授業の出席回数不足による定期試験受験無資格者をなくすために、半期中間の7～8週目にかけて欠席状況調査を行ってきたが、さらにきめ細かい指導の必要を感じ、後期から、毎日授業担当者より欠席状況を教務に報告してもらい、これを集計し、全学生の全科目の欠席状況が毎日教員全員に配信された。これによって、出席状況が不十分な学生を日々把握でき、授業担当者及びクラス担任から指導を行うことができ、出席回数不足による受験無資格者はほとんどなくすることができた。

(4) 免許状・資格取得状況

① 免許状・資格課程履修者数

(単位：人)

卒業学年・非卒業学年	学科・専攻		学年	司書資格	司書教諭資格	小学校教諭・種免許状	幼稚園教諭二種免許状	保育士資格	免許・資格を取得しない者	人数(実数)
卒業学年	こども学科	乳幼児保育コース	2年	18	-	-	71	71	1	73
		こども学コース	2年	-	1	2	1	-	0	2
	小計			18	1	2	72	71	1	75
非卒業学年	こども学科	乳幼児保育コース	1年	17	-	-	86	86	0	86
		こども学コース	1年	-	6	8	6	-	0	8
	小計			17	6	8	92	86	0	94
合計				35	7	10	164	157	1	169

② 免許状・資格課程の履修組み合わせ別履修者数

(単位：人)

免許・資格の 組み合わせ	卒業学年			非卒業学年			合計	
	こども学科		小計	こども学科		小計		
	乳幼児保育コース	こども学コース		乳幼児保育コース	こども学コース			
	2年	2年		1年	1年			
小学	-	0	0	-	0	0	1	
幼稚	0	0	0	0	0	0		
保育	1	-	1	0	-	0		1
司書	0	-	0	0	-	0		0
小学・司書	-	-	0	-	-	0	128	
小学・司教	-	1	1	-	2	2		3
幼稚・司書	1	-	1	0	-	0		1
幼稚・小学	-	1	1	-	2	2		3
幼稚・保育	53	-	53	68	-	68		121
保育・司書	0	-	0	0	-	0		0
小学・司書・司教	-	-	0	-	-	-		0

Ⅲ 教育活動

小学・幼稚・司書	-	-	0	-	-	-	0	
小学・幼稚・司教	-	0	0	-	4	4	4	
幼稚・保育・司書	17	-	17	18	-	18	35	
小学・幼稚・司書・司教	-	-	0	-	-	0	0	0
無免許・無資格	1	0	1	0	0	0	1	1
計	73	2	75	86	8	94		169

注) 表中の表記は以下のように省略する。

小学：小学校教諭二種免許状 幼稚：幼稚園教諭二種免許状 保育：保育士資格 司書：司書資格 司教：司書教諭資格

③ 成果と課題（点検・評価）

100%に極めて近い比率で、教員免許状や保育士資格の両方あるいはいずれかを取得している。このことから、免許状や資格取得に対して、学生は意欲的であることがうかがえ、入学時の所期の目的を果たして卒業しているといえよう。

(5) 教育実習・保育実習・介護等体験

① 実習等の位置づけと目標

こども学科は、その教育課程に幼稚園教諭養成課程・保育士養成課程がおかれ、関係科目を履修し単位を取得することにより、こども学コースでは、小学校教諭二種免許状及び幼稚園教諭二種免許状が取得できる。一方、乳幼児保育コースでは、幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格が取得できる。

これらの免許状・資格を取得するためには、以下のような実習が必修となる。

○ 実習内容一覧

免許状・資格	実習内容
小学校教諭二種免許状	小学校における教育実習および介護等体験
幼稚園教諭二種免許状	幼稚園における実習
保育士資格	保育所及び施設における実習

本学では、1年次に施設実習および幼稚園前期実習、2年次に幼稚園後期実習、保育実習、小学校教育実習、介護等体験などが組まれるが、いずれもこれらの実習は、次のような位置づけがなされる。

まず、大学で学んだ理論を教育や保育の現場で自ら体験し検証することである。これは、理論と実践とを関係づけ、学習の成果を現場において試すことによって新たな課題を見つけ出すものである。次に、教育や福祉の現場に触れることによって、現状の把握や理解と自らの将来像を見つめ、教育や福祉に関する造詣を深めることである。

② 実習等の実施状況

各実習に関する指導は「実践研究」の授業を中心に行われた。

まず、事前指導において、小学校・幼稚園・保育所・施設等の実際的な理解を図る一方、実習指導案・実習日誌・記録・実習ノートなどの作成指導を中心として、教育・保育現場等で必要とされる実践的な技術を習得させた。そして、実習中は、各実習先へ専任教員が巡視を行い、実習先への挨拶とともに、学生の様子を観察し、対面による指導・助言等を行った。実習後は、学生一人ひとりと面談を行い、評価票などを参考にしながら、個人の事態に応じた指導・助言を行った。

(a) 小学校教育実習

平成 21 年度の「初等教育学演習」（小学校実習の事前指導を目的とした授業）と平成 22 年度の「実践研究（小学校）」（事前指導）を通して、小学校実習における心構えやサービスの諸注意等の理解、また、授業計画の立て方等、実践的な教授技術の養成を行った。また、「実践研究」では、模擬授業を行うことにより授業実践力を培うことができた。平成 22 年度は、2 年生が 2 名だったので、模擬授業の種類や回数も多く実施することができ、深い学びとなった。

○ 小学校教育実習概要

実習期間	実習生数（単位：人）	実習校数（単位：校）
平成22年10月4日～10月29日	2	2

(b) 幼稚園教育実習

実習への参加に当たっては、1 年次に「幼稚園教諭論」「教育原理」の履修、そして単位取得が必要となっている。特に、「幼稚園教諭論」では実習園の選定や交渉に際しての事前指導をも行い、担当教員が「実践研究（幼稚園）」へのつながりを考慮しながら展開した。実習実施に当たっては、学習状況や生活態度などから学生の配慮点を把握し、具体的な個別の指導を展開した。22 年度後半には、2 年生と実習の実際について情報交換を行い、実習期間の具体的な活動の様子や日誌のまとめ、準備物や心構え等について学習している。

2 年次の実習では事前指導の段階に応じて、前半実習・後半実習それぞれの目標や課題を知らせ、各自の自己課題を設定させた。さらに、何より、子どもの前に立つことや人間関係における不安を軽減するために、いくつかの模擬的な指導、対応場面を例示し、教職員との関わり方などをも説明した。また、幼稚園実習への参加許可は 1 年次の施設実習や保育所実習の取組や成果にもよることを知らせ、実習の事前事後指導への取組の態度、園との関係、地域における私生活上の留意事項など繰り返し指導した。

終了後は個別に面談を行い、実習園の評価表を基に担当教員が実習を終えての自己課題を明らかにさせながら、園による評価を自身の反省に資するよう伝えた。

Ⅲ 教育活動

○ 幼稚園教育実習概要

	実習期間	実習生数（単位：人）	実習園数（単位：園）	実施学科・学年
前半	平成22年5月24日～6月5日	73	66	こども学コース2年 乳幼児保育コース2年
後半	平成22年10月18日～10月30日	71	65	乳幼児保育コース2年
前期	平成22年9月13日～9月18日	88	77	こども学コース1年 乳幼児保育コース1年

注) 日程に関しては、受け入れ施設の実情により、若干の変動がある。

(c) 保育所保育実習

実習を実施するにあたっては、「実践研究」の授業を中心に事前・事後指導を行った。事前指導においては保育所保育指針を参考に保育所の位置づけや活動内容といった理論的な内容の理解を図る一方、指導案の作成や実習ノートの記録の仕方といった具体的な内容についても指導を行った。また講義だけでなく、外部からの講師も招聘し、実習にあたっての留意点や心構えなどを伺った。

実習中は、電話での個別相談や、巡回指導を通じて実習の把握や指導を行った。

本年度は、前半実習と後半実習の間に約1か月の期間があり、前半実習の振り返りを行う事ができた。実習先からの評価表を基礎資料とし、面談をする中で前半実習の反省と後半実習への課題を明確にした。

事後指導については、実習のまとめや反省を作成させた。また、それらと実習先からの評価表を用いて個別の面接を実施し、今後の課題などを話し合い、保育者としての役割について改めて認識を深めるよう指導を行った。

○ 保育所保育実習概要

	実習期間	実習生数（単位：人）	実習園数（単位：園）	実施学科・学年
前半	平成22年6月28日～7月12日	72	44	乳幼児保育コース2年 科目等履修生
	合計	72	44	
後半	平成22年8月30日～9月13日	73	44	乳幼児保育コース2年 科目等履修生
	平成22年11月29日～12月13日	1	1	乳幼児保育コース2年
	合計	74	45	

注) 日程に関しては、受け入れ施設の実情により、若干の変動がある。

(d) 施設実習

本学において「施設実習」は、観察実習を中心とする「幼稚園実習（前期/基本）」の次に行われる初めての長期の実習である。施設実習においては、「幼稚園実習」・「保育所実習」の二つとは異なり、原則的に大学が配属先として決定した施設に学生を紹介し、原則、宿泊で実習を行っている。ただし、遠方より来学している学生や、特に、学生本人が強く希望した場合、自己開拓した施設で実習することも例外的に認めている。実習巡視においては、こども学科専任教員 9 名が、県内及び、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、新潟県、千葉県、東京都の施設を訪問した。

○ 施設実習概要

保育実習Ⅰ（施設実習）

実習期間	実習生数（単位：人）	実施施設数 （単位：施設）	実施学科・学年
平成23年2月14日～2月25日	80	40	乳幼児保育コース1, 2年

保育実習Ⅲ（施設実習）

実習期間	実習生数（単位：人）	実施施設数 （単位：施設）	実施学科・学年
平成23年2月14日～2月25日	1	1	乳幼児保育コース2年

注) 日程に関しては、受け入れ施設の実情により、若干の変動がある。

(e) 介護等体験

本学では、こども学コースの小学校教諭二種免許の取得を希望する学生に対し、介護等体験事前指導については、前年度の平成 21 年度後期授業から実施した。講義においては社会福祉施設、養護学校の概要、役割、機能等についての理解を深めるとともに、実際にブラインドウォークの体験や、車いす等の操作や介助の方法を学ぶことにより、具体的な介護・支援の基本的部分についての取り組みにも努めた。

介護等体験については、平成 22 年 7 月上旬から平成 22 年 11 月中旬に社会福祉施設において、また、平成 22 年 9 月 13 日～14 日に埼玉県立行田特別支援学校において介護等体験を行った。

社会福祉施設の配属先は、埼玉県社会福祉協議会の配属に基づき 5 日間の短期間の体験ではあったが、それぞれの学生が明確な目的を持って体験に取り組んでいた。

これらの体験で、学生たちは支援が必要な生徒や施設利用者の方と接することにより、コミュニケーションの取り方など新たな課題を持つことができた。今後は、実際の介護や支援方法について等、実技授業・社会福祉援助技術演習授業の充実を図っていかねばならないと考える。

③ 成果と課題（点検・評価）

本年度は、幼稚園教育実習の実習形態・時期を変更した。昨年度までは、2年次において、2週間ずつ2回に分けての実習を行っていたが、今年度は、1年次に幼稚園における前期実習を1週間ほど組み込んだ。これは、次の理由による。

- ・後半実習が、10月に行われており、就職活動に支障がある。
- ・実習が2年次に集中しており、2年間における実習のバランスが欠けている。
- ・1年次において施設実習はあるものの、実際に乳幼児と関わる機会が少なく、1年次の授業が実感を伴った理解を伴う事が出来ない。

実習時期を変更して、1年次において、乳幼児と関わることにより、上記の問題点を解決できたとともに、1年次に乳幼児と関わることにより、早い時期に保育者としての意識づけができた。

全般的に各実習とも、適切な事前事後指導が行われており実習先からも概ね良好な評価を得ることができた。

（6） 授業内容と教育方法の工夫・研究

① こども学科

各教員は、教育者・保育者として必要な理論のみならず実践において必要な諸能力を学生に身につけさせるために、教育内容や教育方法および教材の工夫を行っている。

具体的な授業方法としては、教員が一方向的に知識を伝達するような、従来型の板書に頼る授業ではなく、パワーポイントで作成した資料や新聞記事なども活用し学生が理解しやすい授業を行っている。また、学生の積極的な授業参加を促すために、グループワークや学生が発表する場を積極的に取り入れている。

授業内容を学生に定着させるために、保育・教育現場等で活躍している外部講師を招き、現場をより身近にリアリティを持って感じられる講演を行ったり、学生自身が体験し授業で学んだことを考察できるような学外授業も実施された。

② 成果と課題（点検・評価）

平成22年度は、各教員がそれぞれの専門性を活かし、日頃の研究成果を授業にフィードバックすることで、授業をより魅力的なものとする努力がこれまで以上になされた。また、教授方法においても、学生が学習内容を理解しやすいように工夫をすることに加え、常に実践とのつながりを意識した授業が行われた。

入学する学生の特性やニーズは毎年少しずつ変化するので、今後とも各教員は研究と教材研究・授業研究を続け、教員同士での授業実践検討も行いながら、大学全体の教育力の向上を図っていきたい。

(7) 「学生による授業評価アンケート」の実施とその集計結果

① 実施経緯

本学の学生が授業に対して求めていることを把握し、授業内容・運営方法等の様々な改善を図ることによって、学生の学習意欲や学習効果の向上を図れるものである。授業内容・授業方法・授業に対する満足度等に関して学生の声を聞き、今後の教育活動を改善し、教員と学生の相互理解と協力関係を豊かにする一助として、以下の要領で「学生による授業評価アンケート」を実施した。

○ 「学生による授業評価アンケート」実施要領

- 1 アンケート調査の所轄は教務係とする。
- 2 対象科目について
 - (1) 調査対象科目及び時期
 - (a) 対象科目：全科目（半期科目及び通年科目）
 - (b) 科目種類：講義・演習・実習・実技
 - (c) 実施時期：前期及び後期の定期試験直前あるいは最終授業
 - (2) 調査実施手順について
 - (a) 教務係において実施要項及びアンケート用紙を準備
 - (b) 調査実施予定日までに、担当教員へアンケート用紙を配布する。
 - (c) 担当教員は、実施要領（別紙）を見ながら方法を説明し、実施する。
 - (d) 回収後、アンケート用紙は教務係において保管
 - (3) 調査結果の集計について

教務係において保管するアンケート用紙は、担当教員別にファイルして担当教員の閲覧に供するようにすると共に、同係において集計処理する。
 - (4) 調査結果の公表について

集計処理した調査結果は対象科目の担当教員に通知し、その結果に対しての感想や改善策を提出してもらう。
 - (5) アンケート内容について

授業評価にとって重要なアンケートの質問事項目は、教回にわたり審議を行って決定した。その結果、講義・演習用及び実技・実習用の次のような二通りのアンケート用紙が用意されることになった。

○ 資料：「授業評価アンケート実施要領」

授業評価アンケートは担当教員により、下記の要領で実施していただけますようお願いいたします。

平成 22 年度 期 授業評価アンケート【用紙： 】

【実施日】 月 日() 時限／【クラス】 (人)

【授業科目】 (先生)

【平成 22 年度 期授業評価アンケート実施要領 (所要時間 20 分程度)】

「封入物」

- 調査用紙[用紙 A (講義・演習) / 用紙 B (実験・実習・実技)]
(裏面：マークシート記入方法) ……………履修者分＋予備
- マークシート……………履修者分＋予備

[授業評価アンケート実施手順]

① 記入前準備

教員「調査用紙・マークシートを各 1 枚ずつ配布します。

調査用紙はボールペン、マークシートは鉛筆で記入するようにして下さい。」

(調査用紙・マークシートを各 1 枚ずつ学生に配布する。余りは封筒に入れたままで良い。)

教員「まず、調査用紙上部の[曜日・時限・科目名・実施日・担当教員]を記入してください。

マークシートは調査用紙裏面の記入方法従い、[曜日・時限・科目名・日付・担当教員]を記入し、[学年・クラス]のマークをしてください。

[曜日・時限]は通常時間割の曜日・時限、[実施日]は今日の日付を記入してください。」

② 記入～提出までの説明

教員「回答は、調査用紙の質問 1～10 は○をつけ、質問 11・12 は記述をしてください。

それが終わった学生は、質問 1～10 の回答をマークシートにマークをしてください。

これから 10 分、時間を取りますので、その間に記入を終えてください。」

教員「記入終了後は、回収を〇〇さんと△△さんをお願いします。

調査用紙は〇〇さんに、マークシートは△△さんに提出してください。

〇〇さんと△△さんは、集まったら全てを封筒に入れ、封をしてください。」

(回収担当の学生を 2 名程度指定し、1 人に封筒を渡す。回収が終わったら、声をかけるよう指示)

教員「では、回答を始めてください」

③ 記入させる(10 分程度)：この間、教員は退出する

④ 回収終了後、学生から封筒を受け取り、教務課へ提出

② 集計結果

(a) 学生の授業への取組について

○ 集計結果（前期）

質問 \ 評価	1	2	3	4	5	未記入	無効
1	66.2%	18.8%	9.1%	3.7%	1.2%	0.8%	0.1%
2	68.6%	23.4%	5.6%	1.2%	0.4%	0.9%	0.0%
3	47.6%	23.2%	16.1%	5.3%	6.8%	0.9%	0.1%

○ 集計結果（後期）

質問 \ 評価	1	2	3	4	5	未記入	無効
1	56.8%	22.8%	11.6%	5.8%	0.7%	2.2%	0.1%
2	66.4%	24.3%	6.2%	0.5%	0.3%	2.2%	0.0%
3	48.3%	23.4%	16.8%	5.3%	3.8%	2.4%	0.0%

注)

・項目1「1：0回・2：1回・3：2回・4：3回・5：4回以上」

・項目2「1：はい・2：まあまあ・3：どちらともいえない・4：あまり取り組まなかった・5：いいえ」

・項目3「1：はい・2：まあまあ・3：どちらともいえない・4：あまり取り組まなかった・5：いいえ」

(b) 授業内容について

○ 集計結果（前期）

質問 \ 評価	1	2	3	4	5	未記入	無効
4	68.7%	22.8%	6.0%	1.0%	0.5%	0.9%	0.0%
5	70.7%	20.9%	5.6%	1.3%	0.7%	0.8%	0.0%
6	75.9%	17.2%	4.4%	1.3%	0.3%	0.9%	0.0%
7	76.2%	17.2%	4.4%	0.8%	0.6%	0.8%	0.0%
8	72.2%	19.9%	5.6%	1.0%	0.6%	0.8%	0.0%
9	72.7%	18.9%	5.8%	0.9%	0.5%	1.3%	0.0%
10	70.0%	18.5%	4.7%	1.3%	0.5%	4.8%	0.0%

Ⅲ 教育活動

○ 集計結果（後期）

評価 質問	1	2	3	4	5	未記入	無効
4	71.0%	20.0%	5.4%	0.7%	0.6%	2.3%	0.0%
5	73.1%	18.5%	5.2%	0.6%	0.4%	2.2%	0.0%
6	75.7%	16.2%	5.1%	0.5%	0.3%	2.2%	0.0%
7	75.6%	16.7%	4.5%	0.6%	0.3%	2.2%	0.0%
8	73.9%	17.3%	5.3%	0.8%	0.5%	2.2%	0.0%
9	75.0%	16.6%	5.3%	0.5%	0.5%	2.2%	0.0%
10	71.4%	15.3%	5.1%	0.6%	0.5%	7.0%	0.0%

注) 1：思う 2：まあまあ思う 3：どちらともいえない 4：あまり思わない 5：思わない

③ 成果と課題（点検・評価）

「学生による授業評価アンケート」は、前期・後期末に専任教員の全科目と希望する非常勤教員の授業について実施した。実施にあたっては、学生がありのままを評価しやすいように、学生がアンケートを書く際、授業担当者は席をはずし、代表学生が回収し封をして提出させている。

この集計は教務係職員が行い、その結果は各教員に配布される。教員は担当科目の集計結果と学生からの自由記述に対して、学生へのフィードバックとして「授業評価アンケート結果に対するコメント」を出す。このように、各教員は学生の授業評価を参考にしながら、今後の授業改善へ取り組んでいる。

この「学生による授業評価アンケート」の集計結果と教員からのコメントは、1冊のファイルまとめ、図書館に置き、教員も学生も自由に閲覧できるようにしている。

Ⅲ 教育活動

○ 資料：「学生による授業評価アンケート」調査用紙（用紙A）

学生による授業評価アンケート調査用紙			用紙A（講義・演習）
曜日・時限	科目名	実施日	担当教員
		月 日	
<p>この授業アンケートは、授業担当者が皆さんとともに、授業を改善し、充実させることを目指して実施するものです。皆さんの記入内容が授業の成績評価に影響を与えることはありませんので、率直にお答えください。</p> <p style="text-align: center;">※アンケートはこの用紙に記入後、マークシートにも、自分の選んだ数字をマークしてください。</p> <p>(I) 授業への姿勢について 該当する項目に○を付けてください。</p> <p>質問1 何回欠席したか。 [1] 0回 [2] 1回 [3] 2回 [4] 3回 [5] 4回以上</p> <p>質問2 熱心に授業に取り組んだか。 [1] はい [2] まあまあ [3] どちらともいえない [4] あまり取り組まなかった [5] いいえ</p> <p>質問3 自主的に授業時以外で予習や復習、あるいは発展的な学習、関連した学習などをしたか。 [1] はい [2] まあまあ [3] どちらともいえない [4] あまり取り組まなかった [5] いいえ</p> <p>(II) 授業内容について 該当する項目を○で囲んでください。</p> <p>[1] 思う [2] まあまあ思う [3] どちらともいえない [4] あまり思わない [5] 思わない</p> <p>質問4 授業の内容がまとまっていて、よく理解できたか。 [1] [2] [3] [4] [5]</p> <p>質問5 授業の内容が興味深く、関心が持てたか。 [1] [2] [3] [4] [5]</p> <p>質問6 教員の熱意が感じられ、充実したか。 [1] [2] [3] [4] [5]</p> <p>質問7 教員の話し方や声の大きさが適当で聞き取りやすかったか。 [1] [2] [3] [4] [5]</p> <p>質問8 授業の進め方が適切であったか。 [1] [2] [3] [4] [5]</p> <p>質問9 教材（テキスト・視覚教材・板書・配布資料など）・教員（設備使用）などが適当であったか。 [1] [2] [3] [4] [5]</p> <p>質問10 授業内容は満足するものであったか。 [1] [2] [3] [4] [5]</p> <p>質問11 この授業に出て具体的にどんなものが得られたかを書いてください。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 80%; margin-left: 20px;"></div> <p>質問12 この授業をさらに良くするためにはどうしたら良いと思われるかを書いてください。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 80%; margin-left: 20px;"></div> <p>(III) この授業について意見・感想・指摘などを書いてください。（必須）</p> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 80%; margin-left: 20px;"></div>			

Ⅲ 教育活動

○ 資料：「学生による授業評価アンケート」調査用紙（用紙 B）

学生による授業評価アンケート調査用紙			用紙 B (実験・実習・実技)
曜日・時限	科目名	実施日	担当教員
		月 日	

この授業アンケートは、授業担当者が皆さんとともに、授業を改善し、充実させることを目指して実施するものです。皆さんの記入内容が授業の成績評価に影響を与えることはありませんので、率直にお答えください。

※アンケートはこの用紙に記入後、マークシートにも、自分の選んだ数字をマークしてください。

(I) 授業への姿勢について
 該当する項目に○を付けてください。

質問1 何回欠席したか。 [1] 0回 [2] 1回 [3] 2回 [4] 3回 [5] 4回以上
 質問2 熱心に授業に取り組んだか。
 [1] はい [2] まあまあ [3] どちらともいえない [4] あまり取り組まなかった [5] いいえ
 質問3 自主的に授業時以外で予習や復習、あるいは発展的な学習、関連した学習などをしたか。
 [1] はい [2] まあまあ [3] どちらともいえない [4] あまり取り組まなかった [5] いいえ

(II) 授業内容について
 該当する項目を○で囲んでください。

[1] 思う [2] まあまあ思う [3] どちらともいえない [4] あまり思わない [5] 思わない

質問4 実技・実習の指導が的確で理解しやすかったか。 [1] [2] [3] [4] [5]
 質問5 授業の内容が興味深く、関心が持てたか。 [1] [2] [3] [4] [5]
 質問6 教員の熱意が感じられ、充実したか。 [1] [2] [3] [4] [5]
 質問7 教員の話し方や声の大きさが適当で聞き取りやすかったか。 [1] [2] [3] [4] [5]
 質問8 授業の進め方が適切であったか。 [1] [2] [3] [4] [5]
 質問9 教材（テキスト・視覚教材・板書・配布資料など）・教具（設備使用）などが適当であったか。
 [1] [2] [3] [4] [5]
 質問10 授業内容は満足するものであったか。 [1] [2] [3] [4] [5]
 質問11 この授業に出て具体的にどんなものが得られたかを書いてください。
 []

質問12 この授業をさらに良くするためにはどうしたら良いと思われるかを書いてください。
 []

(III) この授業について意見・感想・指摘などを書いてください。（必須）

IV 学生生活

1 学生の動向

(1) 入学・卒業・留年・退学・休学の状況

① 平成 21 年度入学生

(単位：人)

学科・専攻		入学者数	在学者数	卒業者数	留年者数	退学者数	除籍者数	休学者数
こども学科	乳幼児保育コース	79	-	72	0	6	0	1
	こども学コース	2	-	2	0	0	0	0
合計		81	0	74	0	6	0	1

※乳幼児保育コース 留年者(平成 20 年度入学生)1 名卒業除く

② 平成 22 年度入学生

(単位：人)

学科・専攻		入学者数	在学者数	卒業者数	留年者数	退学者数	除籍者数	休学者数
こども学科	乳幼児保育コース	86	82	-	0	3	0	1
	こども学コース	8	8	-	0	0	0	0
合計		94	90	-	0	3	0	1

(2) 学生の動向

① こども学科

平成 22 年度の入学生は 94 名であり、乳幼児保育コース 86 名、こどもコース 8 名であった。クラス編成は、こども学コースの人数が少ないことを考慮し、人数バランスを考えたうえで、こども学科 1 学年全体の 94 名を 4 クラスに分けた。1 年次における退学・休学者は、退学者が 3 名、休学者が 1 名であった。退学者の主な理由は、進路変更によるもので、前期内での退学となった。休学者については、今後の進路について考えたいとのことであった。全体的には、積極的で前向きな学生が多く、皆勉強熱心である。

2 年生も、1 年生とのバランスを考え、こども学コースだけを分けずに、こども学科 2 学年全体の 81 名を 3 クラスに再編成をし、4 月のオリエンテーションで発表した。大きな混乱もなく、学園祭やスポーツ大会の活動などスムーズに行えた。

2 年次になっても、精神的ストレスなどの理由から、退学者が 2 名出た。退学をしないまでも、対人関係に問題を持ち、特別に配慮する学生もいた。個人的な理由で 1 年間休学していた学生は、継続して 1 年間の休学をすることとなった。

(3) 成果と課題（点検・評価）

今年度は、本学は「学生教育や研究活動の真摯に向き合う姿勢こそが、本学をより一層発展させる」との、全教職員一致した考えと行動で臨んだことにより、微増ではあるが、こども学コース・乳幼児保育コースともに入学者が増加した。こども学コースにおいては、既卒者が小学校教諭免許取得のために入学し、その勉強に打ち込む姿が、学校全体の雰囲気をも好転させている。

「社会に求められる保育者・教育者を目指す」との一致した目的意識をもって、授業をはじめとする学生生活を送ってきた。ひとり一人の学生の顔と名前を全教職員が認識し、声かけできる少人数であるため、学生に問題が生じた場合、教授会において学生の動向が報告され、全教員が共通理解のもとに適切な学生指導を行ってきた。

学生の抱える問題の多様化、複雑化が目立ってきている昨今では、学生相談室の相談件数も増加傾向にあり、学生のみで解決できる問題ばかりでなく、保護者を交えて、それに対する支援や対応のあり方について考えていかなければならない状況になってきている。

このような地道であっても真摯な態度や行動は社会に受け入れられるもので、来年度の入学予定者は本年のおよそ 30% 増となっている。

このことを通して、やはり「教育は人格と人格の触れ合いから生まれる活動である」と教職員全員で再認識した次第である。しかし、これに満足することなく、今後もさらにより良い学生指導に向けて、多角的に検討していく必要がある。

2 クラス担任制度

(1) こども学科

入学当初、物理的環境、人的環境など様々な周辺の変化に伴った不安を抱え大学生活へのスムーズな移行に困難を伴う学生が年々増加する傾向にある。本学では、これらに対応するためにクラス担任制と入学前教育を取り入れている。クラス担任制では、1 年生を 30 名程度の学級に編成し 1 名の担任を置いた。担任業務は、学生の把握と指導である。定期的に指導ができるように担任が担当する「入門ゼミ」を 1 年次前期に置き、1 週間に一度は必ずクラス単位で集まり、授業の目的はもとより、担任と担当学生の情報交換や意志の疎通を図る機会を持った。定期的に会う機会を持つことは学生の把握に役だつとともに、学生の不安を取り除くことに役立った。クラス成員間の人間関係とともに学級担任との人間関係も構築でき、個に応じた指導体制の礎となった。

2 年次においては「総合演習Ⅱ」および「教職教養演習」の担当者が担任としての業務に当たった。

(2) 成果と課題（点検・評価）

初年次教育の重要性が叫ばれる中、本学でも「入門ゼミ」の導入や学生個々のファイル管理などを取り入れ、個に応じた学生対応に取り組んでいる。その中心にあり欠かせない制度がクラス担任制であり、その効果を発揮している。学生は何かしらの不安を抱えた時、担任制を置かないと誰に相談して良いのかがわからず、更に不安を大きくすることがある。その点、担任制を置くことにより、大学内では、常に担任が傍にいてサポートしてくれるという、安心感を持つことができる。また、個を把握するために定期的な個人面談も取り入れており（1年生）、きめ細やかな指導に役立っている。学生に問題が生じた場合などには、クラス担任やゼミ担当教員は学年主任や学生部長、教務部長、そして学長との話し合いを持つと共に、教授会において学生の動向が報告され、共通理解のもとに学生に適切な指導が行われている。学生の抱える問題も多様化し、それに対する支援や対応のあり方をされに組織的に行うための検討が必要である。

3 学外における研修

(1) こども学科学外研修

① 実施概要

平成22年度の学外オリエンテーションは、国立女性教育会館（埼玉県比企郡嵐山町）を会場として1泊2日の日程で行われた。研修の目的は、「学外での生活の中で、同級生や教員との交流を通して、埼玉純真短期大学での生活に期待を持つとともに、親睦と相互理解を深める」である。また、履修や単位取得、学生生活についての説明を受け、実際に時間割作成をしたり、様々な研修活動に取り組むことを通して、今後の学生生活にスムーズに入っていけるようになることも重要な目的である。また平成22年度より純真祭が4月開催となったので、クラス集会の時間を利用して、役割分担やクラスの出し物等について話し合った。その際には、2年生の学生会が各クラスのクラス集会に同席し、必要に応じて適宜、情報提供や助言を行った。

平成22年度の学外オリエンテーションは、このような趣旨で以下のプログラムに従って実施され、学生94名と教職員14名が参加した。

○ こども学科学外オリエンテーションプログラム

平成22年3月30日（火）		平成22年3月31日（木）	
時間	内容	時間	内容
9:50	集合 羽生駅西口	6:30	起床・洗面
10:00	出発（貸し切りバス） 羽生IC～	7:30	朝食（本館食堂）
		8:30	部屋の清掃・片付け

IV 学生生活

11:30	国立女性教育会館 着	9:00	部屋の鍵の返却、体育館へ移動
12:00	昼食（本館食堂）	9:30	研修4 レクリエーション
13:00	開会の集い	11:30	着替え、食堂へ移動
13:30	研修1 会館の方からのお話し	12:00	昼食（本館食堂）
14:10	研修2 履修について、学生生活について、 純真祭について	13:00	研修5 クラス集会
18:00	夕食（本館食堂）	15:00	学外研修の振り返り
19:00	研修3 クラス集会（時間割作成、係決め）	16:00	出発（貸し切りバス） 東松山JCT～
21:00	入浴・自由時間・就寝	16:40	熊谷駅着（経由）
		17:30	羽生駅西口着 解散

② 成果と課題（点検・評価）

高校とは違った新しい友達関係を構築していくにあたり、このように入学式直前に宿泊研修を行うことの意義は大きい。具体的には純真祭の話し合いやクラス対抗でレクリエーションを行うことで、学外研修の目的である学生間、学生教員間の親睦を図ることができた。また純真祭の説明や話し合いでの助言のために新2年生が参加したが、新2年生から新入生に学生生活についてのアドバイスをすることで、より具体的な大学生活のイメージを描くことができた。

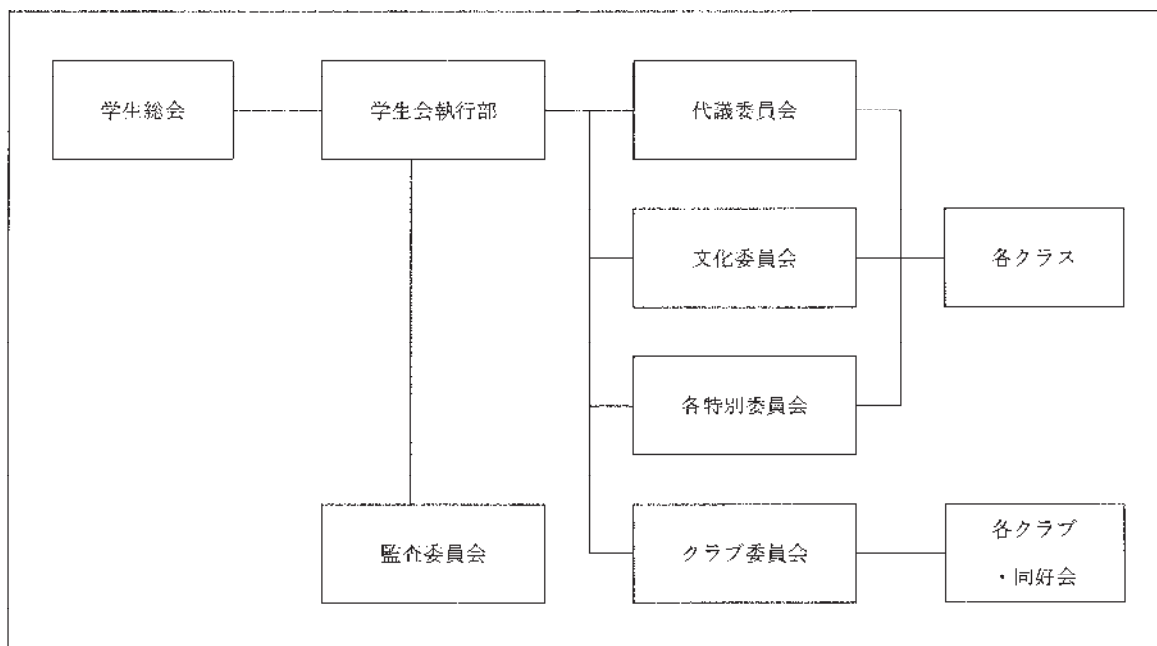
今後は国立女性教育会館と共同で女子学生のキャリア形成について学生が学ぶ機会を設けることができると、学生にとってより一層有意義な研修になるであろう。

4 課外活動

（1）学生会

本学の学生会は、本学の教育精神を旨とし、学生生活の向上と充実をはかるために組織された自治組織であり、全学生が会員として加入する。また学生会執行部は、会長1名・副会長2名以内・書記2名・代議委員長1名・文化委員長1名・クラブ委員長1名・各特別委員長1名から構成されている。学生部長（学生委員会委員長の教員）・学生委員会委員（教員）・事務局の学生事務担当者等から指導助言を受けながら、執行部を中心に主催行事等の企画・運営を行っている。

○ 学生会組織



(2) 学生会主催行事

① 学生会オリエンテーション

学生会では、年度当初に行われるオリエンテーション期間の最終日に、学生会執行部が中心となり新入生を対象にした学生会オリエンテーションを実施している。平成 22 年度は学生会組織の説明や、各クラブ・同好会の協力を得て、各クラブ・同好会の活動紹介を行った。また平成 22 年度より純真祭が 4 月開催となったため、純真祭についてと今後の取り組み等について会長・副会長・文化委員長が中心となって説明を行った。

大学生生活のイメージがまだ漠然としている新入生にとっては、こうした新 2 年生が中心となって企画・実施されたオリエンテーションが行われることで、本学の学風に親しみをもち、これからの学生生活に期待を抱かせるきっかけを得る機会になっている。また、新 2 年生にとっても最終年度における意識の高まりと責任感を促す機会にもなる行事である。

② 純真祭

純真祭は、学生会執行部、各クラスから選出された文化委員が中心となり企画・運営されている。特に地域に根ざした大学を掲げる本学にとっては、大学のみならず地域との協力を得ながら行われる、学生会主催行事の中でも最も規模の大きい行事である。学生委員会の教員が学生会執行部の活動をサポートしているが、あくまで学生主体で企画・運営が行われている。

また本年度より 4 月開催となったため、新 2 年生が春休みの間にテーマの選定、企画案の策定、近隣の企業等に純真祭の趣旨を説明し協賛金という形で協力をお願いした。1 年生は入学後間もないためまだ大学生活やクラスに慣れていないこともあり、学生会執行部や

教職員の助言や支援を得ながら準備を行った。2年生にとっては、毎日の授業に加え、実習と純真祭の準備に追われ多忙を極めたが、学生一人ひとりが純真祭と関わりを持ち、達成感を得られる行事となった。

③ スポーツ大会

スポーツ大会は、スポーツを通してクラスの結束を強めるのみならず、学生と教員の交流を深めることも目的として実施されている。学生会執行部、各クラブの部長や代表者、各クラスから選出されたスポーツ大会委員が企画・運営にあたり、平成22年度は純真祭の開催時期が4月に変更されたのに伴い、11月に行われた。

2年生にとってはクラス全体で参加する最後の学校行事であり、学生生活の良き思い出を作る機会である。また1年生にとっては純真祭で仲良くなったクラスメイトとの絆を一層深めることができる機会となった。スポーツ大会の中で、クラスメイトと協力しながら競技に参加したり、自分が競技に参加していない時には一生懸命クラスの応援をするということは保育者を目指す本学の学生にとって貴重な体験となっている。

○ 学生会主催行事及び学生会執行部が参加した行事一覧

月	行事名
4月	入学式・新入生オリエンテーション・在校生オリエンテーション・健康診断・純真祭
6月～9月	オープンキャンパス
11月	スポーツ大会
3月	卒業式・卒業記念パーティー

(3) クラブ活動

本学のクラブ活動は学生主体の自主的な課外活動であり、一覧にあるようにスポーツ系、文化系、福祉系とその活動は多彩である。各クラブの活動を円滑に行うため、各クラブの部長や代表者がクラブ委員会を組織し、学生会執行部と連携しながら、適宜、クラブ委員会の会議を開いている。クラブ委員会では、学生会予算の中から各クラブに配分される予算の作成や決算の報告を行っている。

またスポーツ系のクラブの中には毎年8月に開催される全国私立短期大学体育大会に参加し、普段の練習の成果を発揮すると共に、他大学との交流を図っている。

○ クラブ・同好会一覧

分類	クラブ・同好会名
スポーツ系 (5)	バレーボール・バスケットボール・フットサル・バドミントン・フィットネス
文化系 (3)	吹奏楽・軽音楽・茶道
福祉系 (1)	スマイル

(4) 研修活動

① リーダー研修

新2年生の学生会役員と各ゼミの代表者を中心に研修会を開催した。概要および日程は以下のとおりである。

○ リーダー研修の概要

期日：平成23年2月9日～10日（2日間）

場所：学生食堂

参加者：学生会1, 2年生メンバー・各ゼミならびに部活の代表者

目的：平成23年度純真祭についての話し合い

○ リーダー研修日程

平成22年2月9日（火）		平成22年2月10日（水）	
時 間	内 容	時 間	内 容
9:30	開式 学生部長挨拶、学生会メンバー自己紹介	9:30	開会、日程確認
10:00	純真祭テーマ決定、各作業チーム分け、 各作業チーム内での意見交換	10:00	1日目に話し合った内容の確認
12:00	昼食	10:30	2日目の話し合う内容の確認
13:00	各作業チームワーク	10:30	各作業チームごとの話し合い
16:00	報告会、2日目の作業内容の確認	12:00	昼食
17:00	解散	13:00	各セクションごとの話し合い
			各作業チームごとの話し合い
		15:00	全体での話し合い
		17:00	報告会、意見交換、今後の予定の確認
			解散

(5) 成果と課題（点検・評価）

平成22年度は、これまでの本学の取り組みの良い点を引き継ぎ、学校行事やクラブ・同好会活動等、学生主体の活動に対して教職員が助言や指導を行うという形で、大学全体で支援する体制で行われた。

とりわけ本年度より純真祭が従来の11月開催から4月開催へと変更になったため、新2年生のみならず教職員にとっても新しい試みとなった。特に学生にとっては手探りの中での企画・立案・準備となった部分もあり、思った通りに準備が進まず苦勞した点も少なかつた。しかしながら、学生会執行部が中心となり、学生全員の参画により純真祭を成功裏に実施できたことは貴重な経験になったであろう。そうした経験は、11月のスポーツ大会の運営にも活かされ、純真祭・スポーツ大会ともクラスにとって思い出深い行事となった。

一方で、実習と春休みの合間を縫い、短期間で純真祭の準備を行うことは学生にとって

も教職員にとっても少なからぬ負担となった。そうした本年度の反省を活かし、今後、開催時期等を再検討する必要があると思われる。

5 学生生活への配慮・支援

(1) 奨学金

本学では、学生の経済的支援として毎年4月に行われるオリエンテーションにおいて、日本学生支援機構の奨学金申込み・利用説明会を行っている。そのほか、希望者には「あしなが育英会奨学金」ならびに「交通遺児育英奨学金」を紹介している。また平成21年度には「福田敏南記念育英学生」を新たに創設し、経済的な理由で修学困難な学生への支援制度を充実させた。本学で利用できる奨学金等の概要は以下のとおりである。

○ 奨学金等一覧

名称	概要
福田敏南記念育英学生	埼玉純真短期大学初代学長福田敏南氏を記念して、子女の教育活動を経済的側面から援助し本学がめざす有為な人材育成を図ることを目的とし、入学金を除く納入金の減免を行う制度である。
日本学生支援機構奨学金	経済的な理由により就学困難な学生に対し、奨学金の貸与を行っている。学生の多様なニーズに合わせ、奨学金制度の充実や申請手続きの改善、また、奨学金に関する情報提供が行われている奨学金である。
あしなが育英会奨学金	1967年、あしなが育英会の「遺児と共に歩む」運動が始まり、保護者等が病気や災害により死亡した学生や、後遺症のために働けなくなってしまった家族を対象にした奨学金である。
交通遺児育英奨学金	自動車等の交通機関による事故で死亡、または後遺症のため働くことができなくなってしまった保護者等になり、経済的援助する奨学金である。
資生堂児童福祉奨学金	資生堂社会福祉事業財団が、児童養護施設等の在籍者を対象として実施している「資生堂児童福祉奨学生」に、本学が学納金の一部を付加して紹介する奨学制度である。

(2) 健康管理

身体の健康は、充実した学生生活を可能にする基礎であり、また学習を行う土台である。本学では学生の健康管理ならびに健康維持のために次のような措置をとっている。

① 保健室

校内の保健衛生と救急措置を目的として保健室を設置しているが、急に身体の変調をきたしたときや負傷の場合には、事務室に申し出て同室を利用するなどの処置を受けさせるよう努めている。

② 定期健康診断

毎年1回4月に学生の定期健康診断を実施している。検査項目は、身体測定・内科検診・胸部レントゲン撮影である。そしてこの健康診断の結果、要注意または要治療の者については、できるだけ速やかにその旨を本人または保護者に通知している。

飲酒・喫煙については、本学の学生の多くは未成年であることから、法を遵守することを理解させるだけでなく、年度当初のガイダンスにおいて、健康に及ぼす影響を説き、学業に専念できる健全な生活の維持への理解を得るように努めている。特に学生の喫煙については、保育者・教育者として児童と係わることを念頭に、学生の健康と他への迷惑を考慮し、禁じている。

(3) 保険制度

本学では、学内外で行われる授業及び実習中、学内におけるクラブ活動や学生の自主的活動中、登下校等において、学生が不慮の事故によって傷害を負った時に補償される「学生教育研究災害傷害保険」に全員加入している。入学と同時に加入することから、学内では学生事務担当者が保険について管理している。

(4) 学生専用アパート

本学の学生の多くは埼玉県及び隣接県からの自宅通学生であるが、遠隔地からの入学生や家庭の事情により自宅外通学を希望する学生のために、民間委託の形態で学生専用アパートを設けている。

また、これらのアパート等に居住する学生のために、年2回、教職員も参加する「自宅外通学生懇親会」を開催している。懇親会は、学生同士の親睦をはかることを第一の目的とし、1人暮らしの悩みや苦労をお互いに話したり、先輩の体験談やアドバイスが聞ける機会となっており、1人暮らしの不安を解消し今後の充実した学生生活の一助となっている。

なお、学生委員会の教員及び学生事務担当者は、月1回程度、学生を集めて生活指導や相談にのるよう努めている

(5) 通学の状況

本学の学生の居住地・出身地は、埼玉県下を中心に、栃木県、群馬県、茨城県などの近隣諸県から東北・信越の諸県に及んでいる。近隣諸県の自宅などから通学している多くの学生は、羽生駅までJR高崎線・宇都宮線や東武伊勢崎線、秩父鉄道秩父線などを利用し、羽生駅からは徒歩や自転車で通学している。遠隔地出身で上記アパートなどに居住している学生や羽生市内に居住する学生は、徒歩や自転車で通学している。

通学に際して自転車を利用する場合には、羽生駅と学内の所定の駐輪場を利用し、学生本人が責任をもって管理することになっている。原動機付自転車もこれに準ずるが、自動

二輪車（オートバイ）については、人命にかかわる事故の危険度が高いので、通学的手段としては禁止している。自動車通学に関しては、「学内自動車駐車場利用規程」を設けて学内駐車場の利用を認めている。

○ 駐輪場および駐車場の利用状況一覧

(単位:人)

自転車駐輪場	35
自動車駐車場	44

(6) 学生相談室

学生相談室及び学生カフェは、学生生活上の悩みに直面する学生に対し、カウンセリングを中心とした専門的支援を行うことを通して、学生の成長を支えるために設置されている。本学の学生相談室では、心理・性格、心身の健康を始めとするさまざまな相談に応じているが、学生のプライバシーを守りながら、一人ひとりを尊重し個性を伸ばし可能性を探す手伝いを心がけている。本年度の概況は以下のとおりである。

○ 学生相談室の概況

相談員：稲垣 馨（こども学科専任講師）

相談場所：学生相談室及び学生カフェ

相談日時：月曜日から金曜日までの間、相談員の在室時間帯に相談活動を行っている。学生カフェは昼休みのみ。

相談体制：個人面接およびグループ面接。必要に応じて、保護者・学内教職員・医療機関との連携を取っている。

主訴別来談者実数：本年度の来談者実数は160名で、学生カフェの利用が92名、学生相談の利用が68名であった。

主訴内容は次のとおりであった。（括弧内は相談者数）

心理・性格（65）・心身の健康（12）・人間関係（家族・友人・教員・その他）（81）・履修・勉学・就職（2）

相談内容では、心理・性格についての相談（自分の適性、これからの生き方など）と人間関係についての相談（クラスやクラブでの友人関係や家族との関係）が全体の9割を占めた。また本年度は昨年度と比較すると、相談件数が2倍強となったが、これは昼休みに気軽に学生カフェを利用するケースが増えたことが理由であろう。相談員としては担当の授業時間も含めて、青年期の成長・発達に有用な心理教育を行うことで、学生のその時々へのニーズに応じた対応（発達支援）を心がけた。

(7) 成果と課題（点検・評価）

遠方から本学に入学した学生はもちろん、自宅から通う学生であっても友人関係や学習など様々な悩みや問題を抱えるケースが少ない。そのため学生相談室でのカウンセリングを利用したり、担任やゼミ担当に相談をする学生が増えている。特に学生専用アパートで暮らす学生に対しては月1回程度巡視を行うとともに、半期に一度、自宅外懇親会を開き、一人暮らしにおける不安の解消に努めている。個々の学生のニーズに適切に応えられるよう、教員間の情報交換や情報共有を行うとともに、教職員が一体となって支援できる体制をより一層固めることが今後必要であろう。

V 就職と進学

1 就職

(1) 就職指導

① 就職委員会の基本方針

専任教員と職員が連携しながら学生の就職・進路に対する指導ならびに支援を行っている。具体的には、原則として毎月1回以上開かれる就職ガイダンスをはじめ、個別の進路相談や履歴書の作成、模擬面接、礼状の作成など、学生一人ひとりに対応した指導ならびに支援を行った。

指導の際には、学生の個性や求人先の実情を考慮しながら指導を行った。本学の場合は、求人先と幼稚園実習・保育所実習との関わりが深く、また、卒業生の就職、就業状況も影響しているため、各実習指導との連携を密にし、また本学と求人先との関係を大切にしながら学生指導にあたった。

② 平成22年度年間就職指導計画

○ 平成22年度就職指導年間計画一覧（平成22年度卒業生対象）

期 日	ガイダンス内容
平成22年4月15日	保育者としての考え方や意義について、進路登録票記入、教員採用試験対策
5月13日	公務員試験・保育士採用試験対策、履歴書作成（自己PR、志望動機について）
6月10日	実習前就活指導、群私幼・群私保試験、栃幼連の説明、求人票の見方、公務員情報
6月24日	栃幼連合同説明会について
7月15日	公務員試験、群私幼・群私保試験について
7月22日	実習前・実習中就職活動指導、内定連絡対応等について
10月8日	就職実践対策
11月12日・26日・12月10日	就職活動実践対策、内定後指導
平成23年1月21日	卒業生による職場紹介
随 時	履歴書作成、就職活動（連絡・見学等）相談、模擬面接等

○ 平成22年度就職指導年間計画一覧（平成23年度卒業予定者対象）

期 日	ガイダンス内容
平成22年12月10日	履歴書作成について、今後の取り組みについて
平成23年1月21日	卒業生による職場紹介（幼稚園教諭・保育士）

③ 就職指導内容

まず 1 年次の後期に就職登録斡旋カードにその時点での進路希望を記入させた。就職登録斡旋カードは就職担当事務職員が管理し、その後の個に応じた指導の於いて、適宜活用した。2 年生に対しては、就職ガイダンスや、保護者会における指導・相談体制の説明といった支援体制を取った。特に就職ガイダンスでは、就職活動の心構え・マナー、業種による違いなどを指導した。また、日常的な支援としては、求人票の送付依頼、求人先の開拓、求人票や企業情報の収集整理、合同企業説明会等の情報収集と掲示、相談に訪れた学生に対する個別の指導・対応を行った。特に、各職種・領域についての情報を収集し、適宜、指導するために、就職委員の専門性に応じて、公立幼稚園・保育園受験、教員採用試験受験、私立幼稚園教諭希望、私立保育園希望、施設職員希望等、各領域の指導担当を割り当てた。

④ 就職関連諸会合への参加

平成 22 年度も各地で行われる就職関係の情報交換会や連絡調整会等に、就職担当事務職員をはじめ、専任教員が参加した。これによって本学では、埼玉県をはじめ隣接県の私立保育所・幼稚園連盟等と連携し、試験時期や試験方式のみならず、保育現場で求められる人間像や専門的な技術・知識を把握し、それに応える指導に基づく人材育成を行うことが出来た。

また統一試験や就職説明会を設けている地域の就職活動については常に情報収集に務め、実習や諸行事等の予定も考慮しながら学生が余裕を持って準備を行うことができ、より一層、積極的な取り組みが行えるよう、対応を講じていく必要があると考える。

(2) 平成 22 年度就職状況

① 就職決定状況

○ 平成 22 年度卒業生進路一覽

(平成 23 年 3 月 31 日現在・単位：人)

		こども学科		合計
		乳幼児保育コース	こども学コース	
学生数		73	2	75
就職希望者数		71	2	73
就職先	小学校	—	1	1
	幼稚園	32	1	33
	保育園	34	—	34
	その他の施設	4	0	4
	図書館	0	0	0
	企業	1	0	1
未決定者		0	0	0

V 就職と進学

進学者希望	1	0	1
その他	1	0	1

② 就職先等内訳及び就職先一覧

	就職内定先			
小学校	なし			
幼稚園	大根藤幼稚園 大袋幼稚園 大袋わかば幼稚園 興善寺幼稚園 久喜幼稚園 まつざわ幼稚園 まつたけ幼稚園 箕田幼稚園 森の詩幼稚園	鴻巣幼稚園 越谷こぼと幼稚園 境杉の子幼稚園 桜田幼稚園 幸手さくら幼稚園 春山幼稚園 東別所 幼稚園 ひがし幼稚園 吉川ムサシノ幼稚園	総和文化幼稚園 古河文化幼稚園 幸手しらゆり幼稚園 杉戸白百合幼稚園 草加ひので幼稚園 染谷幼稚園 建福寺幼稚園 吹上中央幼稚園	玉岡光瞬幼稚園 西川口幼稚園 野田北部幼稚園 花咲幼稚園 羽川幼稚園 みづほ幼稚園 明和幼稚園 富上幼稚園
保育所	愛隣保育園 魚沼市なかよし保育園 小山西保育園 白河市立ふたば保育園 ハートフルナーサリー 中央たんぼぼ保育園 緑の森保育園 若葉保育園	清恵保育園 牛沢保育園 きむら保育園 そらいろ保育園 花園第二保育園 さくら保育園 新里保育園 信愛保育園	あひ保育園 おおたけ保育園 くわのみ保育園 太陽の里コメット保育園 終保育園 まつざわ保育園 もとの木保育園 ルンビニ保育園	深谷エンゼル保育園 ホザナ保育園 ルンビニ保育園 いずみ保育園 東浦和みどり保育園 ルミエール保育園 諸川保育園
施設等	児童養護施設ふれんど 元気っ子クラブ こどもの森エンゼルドーム（児童館）	光の家療育センター にしき学童	小山学童の会 行田市特別支援担当	元気っ子クラブ 深谷市立学童保育所

(3) 成果と課題（点検・評価）

平成 22 年度卒業の学生においては、一人ひとりの希望に応じた個別の指導を繰り返し行い、就職希望者のほとんどが就職することができた。そうした成果の要因としては、就職ガイダンスへの参加状況や就職支援室への来訪状況を把握しながら教職員が一体となって学生の支援を行ったことが大きいと考える。中には、何度も就職試験を受けることになった学生が数名いたが、教職員で声をかけ、学生の気持ちに寄り添い励ましながら根気よく指導を行うことで、最終的には就職をすることができた。一方で、中には就職先を選択する際に自分のキャリアを描くことがなかなか出来なかった学生もいたので、今後、就職委員会と担任が情報共有ならびに連携を一層強化する必要があると考える。そのためには、

教職員が一体となり、大学全体で学生のキャリア形成を支援する体制を整え、学生が自ら積極的に自己のキャリアについて考えることができるような方策を講じる必要がある。

2 進学

(1) 編入学

本学卒業後、4年制大学に編入学を希望する学生がおり、それらの学生たちは、本学で取得できる免許状（小学校教諭・幼稚園教諭）がそれぞれ二種免許状であるため、一種免許状を取得して、将来、教員採用試験に臨むことや、また、さらに教育や子どもについての学問を深めたいと考えている。これに対し、就職委員会及び就職担当事務職員によって、編入学の説明を行い個別に指導・対応している。なお平成22年度卒業生においては編入学の希望者がいなかった。

(2) その他の進学

本学で、卒業後、引き続き免許・資格を取得するために科目等履修生として入学を希望する学生についても、就職委員会及び就職担当事務職員によって、編入学の説明会を行い個別に対応している。なお平成22年度卒業生においては希望者がいなかった。

(3) 成果と課題（点検・評価）

より高い専門性を身に付けた保育者・教育者を目指す学生が、進学を希望していることは言うまでもない。しかし、4年制大学進学のために必要とされる日々の学習内容と、本学での学習内容とは自ずと違いもあり、当初の目的意識を常に明確にさせ、励まし、個々の取組を支えていく適切な指導や情報提供が必要であると考え。学生の前向きな姿勢と家族の協力や賛同を踏まえた将来を見据えた進路相談のあり方を一層工夫する必要がある。

3 卒業生への支援

本学では、前年度の卒業生に対し「ホーム・カミング・デー」を開催している。

平成22年度は、8月に2回（8月7日・22日）開催され、会食やゲームを楽しみながら、教職員との交流を図り情報交換を行った。卒業生から寄せられる様々な話は貴重な学生指導の情報として学生支援に役立てている。最近の特徴として、保育職に見られる早期の離職のケースを考えると、こうした機会のほかにも、卒業生が初任期を無事に乗り越えていくための支援体制（現職者、初任者のための相談事業）等を工夫する必要があると考える。

VI 教員の研究活動及び社会的活動

1 研究活動

(1) 研究活動の概要

本学教員は、日々の講義や実習指導等の教育活動やそれに伴うさまざまな校務に従事する一方で、それぞれの専門分野の領域の研究活動、講演、制作活動においても意欲的に取り組んでいる。「埼玉純真短期大学研究論文集」をはじめ、その他の雑誌、著作や講演、制作等の形で発表された本年度の教員の成果の一端は以下の通りである。

(2) 専任教員の研究業績

① こども学科

○ 研究業績一覧

専任教員名	研究業績
安部 孝	<p>【執筆】</p> <p>「幼稚園・保育所・児童福祉施設・設実省ガイド」 株式会社 同文書院 平成 23 年 5 月発行</p> <p>「保育士養成機関における『施設実習』の現状と課題（Ⅱ） －実習事後指導を通じた「自己評価」と「気づき」に関する分析から－」 「紀要 VISIO 第 40 号」九州ルーテル学院大学 平成 22 年 6 月</p> <p>「保育実践力の育成に関する考察 3 -- 『実習指導室』の『横断性』 --」 「埼玉純真短期大学研究論文集第 4 号」埼玉純真短期大学 平成 23 年 3 月</p> <p>「保育者養成における『心の教育』の課題 1 ～展開の構想における『困難性』～」 「埼玉純真短期大学研究論文集第 4 号」埼玉純真短期大学 平成 23 年 3 月</p> <p>【研究発表】</p> <p>「保育者養成における『心の教育』の課題 2 ～展開の構想における困難性～」 日本道德教育学会 第 75 回大会 平成 22 年 6 月</p> <p>「保育者としての資質を培う実習指導の展開 ～『学び合い』を通して～」 全国保育士養成協議会 第 49 回研究大会（平成 22 年 9 月）</p> <p>「保育実践につなぐ総合演習の展開(3) ～教育実習を手掛かりとした『こころの教育』～」 日本教師教育学会 第 20 回研究大会 平成 22 年 9 月</p> <p>「保育者養成における課題 1 ～場面指導に見られる学生の実態～」 日本教育方法学会 第 46 回大会 平成 22 年 10 月</p>

VI 教員の研究活動及び社会的活動

<p>安倍 大輔</p>	<p>【執筆】 (共著)『幼児の楽しい運動遊びと身体表現 めざせガキ大将』圭文社 (平成 22 年 4 月) (共著)『幼稚園教諭・保育士をめざす 保育内容「健康」』圭文社 (平成 22 年 4 月) 「幼児期のサッカーで気になること」草土文化『子どものしあわせ』6月号, 18-24 頁 (平成 22 年 6 月) 【研究発表】 「保育におけるレクリエーションの活用」第 49 回全国保育養成協議会研究大会 (於: 甲府富士屋ホテル) (平成 22 年 9 月 1 日) 「研究と実践の融合ワークショップ～子ども地域活動の研究から～」第 21 回日本福祉文化学会長崎大会 (於: 長崎純心大学) (平成 22 年 11 月 1 日)</p>
<p>稲垣 馨</p>	<p>【執筆】 「学びと教えて育つ心理学-教育心理学入門-」 保育出版社 分担執筆</p>
<p>入江 良英</p>	<p>【執筆】 「特別支援保育における『新感覚統合法』の可能性」 「埼玉純真短期大学研究論文集第 4 号」埼玉純真短期大学 平成 23 年 3 月 【研究発表】 「K.マンハイムの教育論」早稲田社会学会 平成 22 年 7 月 4 日 「発達障害を通じてのソーシャル・インクルージョン (2E 問題を通じて)」 日本社会病理学会 平成 22 年 10 月 2 日 招待発表</p>
<p>浦 由希子</p>	<p>【執筆】 「読み書き障害児に対するトップダウン式指導法の効果について」共著 平成 22 年 8 月 日本コミュニケーション障害学 27 巻 2 号 【研究発表】 「読解に躓きを示す児童におけるプロフィールの検討」共同、 平成 22 年 5 月 日本コミュニケーション障害学会 第 36 回学術講演会 (ポスター発表) 「広汎性発達障害の言語の問題とは」共同、 平成 22 年 5 月、日本コミュニケーション障害学会学術講演会 第 36 回学術講演会 (ワークショップ)</p>
<p>小澤 和恵</p>	<p>【演奏活動】 「秋の日のプロムナードコンサート」企画・出演 ピアノ独奏: シューマン作曲『クライスレリアーナ』より № 1, 2, 7 番 ピアノ連弾: モンティ作曲「チャールダーシュ」 平成 22 年 11 月 3 日於: かぞパストラル小ホール</p>

VI 教員の研究活動及び社会的活動

<p>木許 隆</p>	<p>【執筆】</p> <p>・10月1日 「小学校教諭・保育者をめざす 子どもの表現活動を導くコードネームによる伴奏法」主文社 監修・編著 小川宜子・木許 隆・妹尾美智子</p> <p>・3月31日 教育現場における「音楽科」の指導に対する一考察 小学校における鍵盤ハーモニカの導入法（埼玉純真短期大学研究論文集第4号） 教育現場における管弦楽曲の編曲 威風堂々第1番作品39-1（E,エルガー作曲）を用いて（埼玉純真短期大学研究論文集第4号）</p> <p>【研究発表】</p> <p>9月3日 音楽の原点に戻って ～「音楽Ⅰ」の授業内容を改革するために～ 全国大学音楽教育学会第26回全国大会（名古屋大会）（愛知県 ヤマハミュージック東海名古屋店）</p> <p>9月17日 学生自ら学ぶ意欲を持つために ～「総合演習」における試み 2～ 全国保育士養成協議会 第49回研究大会</p>
<p>関根 久美</p>	<p>【研究発表】</p> <p>「保育者養成における実習指導の在り方について一事前指導に着目して一」 日本保育学会第63回大会</p>
<p>細田 香織</p>	<p>【執筆】</p> <p>「保育者養成課程における「日本語表現」の教育内容 一意見文作成から見る「書く能力」の実態と課題一」 『埼玉純真短期大学研究論文集第4号』</p>

（3）専任教員の所属学会

① こども学科

○ 所属学会一覧

氏名	所属学会
安部 孝	日本保育学会・日本教育方法学会・日本教育学会・日本教師教育学会・日本道德教育学会・身延山大学仏教学会・日本仏教教育学会・教育哲学会
安倍 大輔	日本体育学会・日本スポーツ社会学会・日本福祉文化学会・日本子ども社会学会
稲垣 馨	日本心理臨床学会・日本精神分析学会
入江 良英	日本社会病理学会・日本発達障害学会・日本教育社会学会・日本理論社会学会
牛込 彰彦	日本神経科学会・日本生理学会・日本薬学会・日本赤ちゃん学会
浦 由希子	日本LD学会・日本コミュニケーション障害学会・日本発達障害支援システム学会

VI 教員の研究活動及び社会的活動

小澤 和志	全国大学音楽教育学会・日本音楽療法学会・日本ダルクローズ音楽教育学会
木許 隆	全国大学音楽教育学会・日本音楽表現学会・日本管打吹奏楽学会
関根 久美	日本保育学会
高橋 努	日本社会福祉学会・日本高齢者虐待防止学会・立正社会福祉学会（評議員）
細田 香織	日本国語教育学会・人文科教育学会・筑波大学 日本語日本文学会
藤田 利久	National Business Education Association・日本環境教育学会・日本秘書教育学会・秘書サービス接客教育学会・日本キャリアデザイン学会

2 社会的活動

短期大学教員の職務の第一は、学内における教育および研究であるが、その他にそれぞれの専門を活かして、学外の地域社会においてさまざまな形で貢献することもその職務のひとつである。本学においても、多くの教員がそれぞれの専門領域において、地域社会に講師・助言者等として貢献している。本年度の実施状況および各種団体の所属の一端は以下の通りである。

(1) 講師・助言者等の実施状況

① こども学科

○ 講師等実施状況一覧

氏名	活動
安部 孝	平成22年度 全日本私立幼稚園連合会 第25回東北地区私立幼稚園教員研修 宮城大会 実施園 指導・助言 平成22年 5月
	埼玉県行田市小中学校・校長会 研修会 平成22年 7月
	平成22年度 全日本私立幼稚園連合会 第25回東北地区私立幼稚園教員研修 宮城大会 実施園 指導・助言 平成22年 7月
	埼玉県立熊谷商業高等学校 教育・保育系進学希望者対象 面接指導 平成22年 7月
	平成22年度 全日本私立幼稚園連合会 第25回東北地区私立幼稚園教員研修 宮城大会 実施園 指導・助言 平成22年 8月
	埼玉純真短期大学主催：夏期講座（地域開放・一般） テーマ：「不登校への対応」

VI 教員の研究活動及び社会的活動

	<p>平成22年 8月 埼玉純真短期大学主催：夏期講座（地域開放・一般） テーマ：「保幼小連携のススメ」</p> <p>平成22年 8月 埼玉県行田市保幼小連絡協議会 教職研修会 「保幼小連携への取り組み」 ～「スタートカリキュラム」「アプローチカリキュラム」の編成と実施に向けて～</p> <p>平成22年 8月 平成22年度 埼玉県私立短期大学協会 教職員研修会 第2分科会(1)（キャリア教育と進路支援）座長</p> <p>平成22年 9月 平成22年度 埼玉県特別支援教育巡回支援員 埼玉県教育委員会より委嘱 平成22年10月～</p> <p>平成22年度 埼玉県特別支援教育巡回支援・巡回 指導 特別支援教育巡回支援（巡回指導） 内容：協議等 「羽生高校の様子と今後の巡回支援の方向性について」</p> <p>平成22年10月 平成22年度 全日本私立幼稚園連合会 第25回東北地区私立幼稚園教員研修 宮城大会 指導・助言 公開研究保育（及び研究発表） 指導・助言</p> <p>平成22年10月 羽生市 「学びあい夢プロジェクト協議会」委員 平成22年 4月～</p>
安倍 大輔	「誠和キッズ」親子体操講師 埼玉県立誠和福祉高校 2010/9/1
稲垣 馨	埼玉純真短期大学 公開講座 『宮崎駿の世界 心理学的視点から』（一般向け） 平成 22 年 8 月 平成 22 年度 埼玉県特別支援教育巡回支援員
牛込 彰彦	埼玉県行田市保幼小連絡協議会 教職研修会 「保幼小連携への取り組み」 ～「スタートカリキュラム」「アプローチカリキュラム」の編成と実施に向けて～ 平成22年 8月
浦 由希子	埼玉純真短期大学 公開講座 『発達障害について』（一般向け）平成 22 年 8 月 行田特別支援学校研修会にて、「発達障害」について講演。平成 22 年 8 月

VI 教員の研究活動及び社会的活動

<p>小澤 和恵</p>	<p>埼玉県立宮代高等学校 職業別進路指導 「保育士・幼稚園教諭になるために」</p> <p>埼玉県立岩槻高等学校 職業別進路指導 「保育士・幼稚園教諭になるために」</p> <p>茨城県立八千代高等学校 模擬授業 「子どもの音楽表現」</p> <p>学校見学来校（栃木県立足利南高等学校）模擬授業 「子どもの音楽表現」</p> <p>学校見学来校（宇都宮文星高等学校）模擬授業 「子どもの音楽表現」</p> <p>埼玉県立鷲宮高等学校 職業別進路指導 「保育士・幼稚園教諭になるために」</p> <p>キヤッセ羽生主催：子どもの歌コンサート</p> <p>埼玉純真短期大学オープンキャンパス 「ピアノドキドキ・ワクワク講座」</p> <p>埼玉純真短期大学オープンキャンパス 保護者対象講座 「育てたい学生像」</p> <p>埼玉純真短期大学 公開講座 「一曲弾ければあなたもピアニスト」(一般向け) 平成 22 年 8 月</p> <p>埼玉純真短期大学プレカレッジ 「ピアノレッスン」</p>
<p>木許 隆</p>	<p>4 月 マーチング講習会講師（兵庫県 武庫川女子中学校・高等学校）</p> <p>5 月 吹奏楽講習会講師（長野県 長野市立篠ノ井西中学校）</p> <p>5 月 吹奏楽講習会講師（兵庫県 神戸市立玉津中学校）</p> <p>5 月 加古川市立保育所保育士研修会講師（兵庫県 加古川市立野口保育所）</p> <p>5 月 新日本製鐵名古屋製鐵所吹奏楽団第 44 回定期演奏会（愛知県 知多市立勤労会館）</p> <p>6 月 吹奏楽講習会講師（兵庫県 姫路市立琴丘高等学校）</p> <p>7 月 吹奏楽講習会講師（兵庫県 姫路市立香寺中学校）</p> <p>7 月 吹奏楽コンクール課題曲講習会講師（長野県 ホテルたがわ）</p> <p>7 月 愛知県吹奏楽コンクール西三河北地区大会審査員（愛知県 豊田市民文化会館）</p> <p>8 月 吹奏楽講習会講師（岐阜県 岐阜県立中津商業高等学校）</p> <p>8 月 平成 22 年度愛知県吹奏楽コンクール職場・一般部門（愛知県 幸田町民会館）</p> <p>8 月 邑楽郡邑楽町立保育園職員研修会講師（群馬県 邑楽町立南保育園）</p> <p>8 月 学校への芸術家等派遣事業講師 文化庁文化部芸術文化課地域文化振興室（岐阜県 岐阜県立大垣商業高等学校）</p>

VI 教員の研究活動及び社会的活動

	<p>9月 全国大学音楽教育学会第26回全国大会(名古屋大会)実行委員(愛知県 ヤマハミュージック東海名古屋店)</p> <p>10月 岐阜県高等学校文化連盟総合文化祭吹奏楽発表会講評委員(岐阜県 羽島市文化センター)</p> <p>11月 愛知県吹奏楽連盟吹奏楽フェスティバル(愛知県 オアシス21)</p> <p>12月 学校への芸術家等派遣事業講師 文化庁文化部芸術文化課地域文化振興室(岐阜県 岐阜県立大垣商業高等学校)</p> <p>12月 学校への芸術家等派遣事業講師 文化庁文化部芸術文化課地域文化振興室(岐阜県 岐阜県立恵那南高等学校)</p> <p>12月 新日本製鐵チャリティーコンサート(愛知県 東海市文化センター)</p> <p>12月 マーケティング講習会講師(岐阜県 岐阜県立中津商業高等学校)</p> <p>1月 学校への芸術家等派遣事業講師 文化庁文化部芸術文化課地域文化振興室(岐阜県 岐阜県立大垣商業高等学校)</p> <p>1月 学校への芸術家等派遣事業講師 文化庁文化部芸術文化課地域文化振興室(岐阜県 岐阜県立恵那南高等学校)</p> <p>2月 学校への芸術家等派遣事業講師 文化庁文化部芸術文化課地域文化振興室(岐阜県 岐阜県立恵那南高等学校)</p> <p>2月 埼玉県市立幼稚園連盟東部地区教職員研修会講師(埼玉県 ルネッサンス呑竜幼稚園)</p>
<p>関根 久美</p>	<p>埼玉純真短期大学 公開講座 「大人も楽しめるお話のいろいろ」</p> <p>埼玉純真短期大学 プレカレッジ 「ひな人形をつくろう」「子どもと文化」</p>
<p>高橋 努</p>	<p>埼玉県立騎西特別支援学校ボランティア講座 「発達障害の理解と対応」 平成22年6月26日</p> <p>埼玉県立羽生高校巡回支援 平成22年10月13日 埼玉県立羽生高校保護者会 「発達障害の理解のために」 平成22年11月27日</p> <p>NHK 学園 ケアマネジャー受験対策講座(介護支援分野)平成22年7月 ケアマネジャー直前対策講座(介護支援分野)平成22年9月</p> <p>埼玉純真短期大学 公開講座 「ソーシャルワークとコミュニケーション」 平成22年8月3日</p> <p>埼玉純真短期大学 プレカレッジ 「はじめまして!」相談援助(演習) 平成22年1月15日</p>
<p>細田 香織</p>	<p>埼玉純真短期大学 プレカレッジ 「文章の書き方入門」</p>

(2) 専任教員の諸団体への所属状況

① こども学科

○ 諸団体への所属状況一覧

氏名	所属団体
安倍 大輔	日本こどもを守る会常任理事
稲垣 馨	日本精神分析協会研修生・九州臨床心理士ネットワーク (KCPN) 会員
牛込 彰彦	NPO 法人脳の世紀推進会議会員・羽生市図書館協議会・社会福祉法人「共愛会」第三者評価委員
浦 由希子	日本コミュニケーション障害学会常任理事会 (書記)
小澤 和恵	羽生市女性会議会長・羽生市都市計画審議会委員
木許 隆	東京リコーダー協会・新日本製鐵 (株) 名古屋製鐵所吹奏楽団音楽監督
関根 久美	玉川大学保育実践研究会
高橋 努	特定非営利活動法人 埼玉チームケアさぼ〜と (理事)・立正大学社会福祉学部同窓会 (代議員)・日本社会福祉士会・日本社会福祉士会埼玉県支部・埼玉県介護支援専門員協会・介護福祉・教育・実践研究会
藤田 利久	羽生市子育て協議会・日本秘書協会

(3) 他大学等の非常勤講師等の兼務状況

① こども学科

○ 学外兼務状況一覧

氏名	所属団体
安倍 大輔	浦和大学総合福祉学部 非常勤講師
入江 良英	東京学芸大学 非常勤講師
木許 隆	岡崎女子短期大学幼児教育学科 非常勤講師
関根 久美	千葉敬愛短期大学 非常勤講師
高橋 努	学校法人服部学園 服部栄養専門学校 非常勤講師

3 成果と課題 (点検・評価)

短期大学の教員は、教育活動はもとより研究活動も並行して行わなければならない。このため本学では教員は1年間に、著作・論文執筆・学会発表の内、最低1本を遂行義務としている。これら教員の研究活動は、学生教育に還元できなければならないと考えている。この点から見ても本学教員の研究活動に関しては、それぞれの教員が専門分野で著作・論文執筆・講演活動等に意欲的に取り組んでおり、それを学生教育に還元しているといえる。

VI 教員の研究活動及び社会的活動

また、本学のような地域に根ざした短期大学の任務のひとつは地域社会への貢献もあげられる。この点においても本学の教員は、学会活動はもとより地域社会における活動にも積極的に参加していることは評価に値する。

教員の研究を支える環境を考えた場合、本学が決して十分な環境を提供しているとは言いがたく、今後、外部からの研究費獲得を含めて研究費の充実や研究時間の確保などを課題と捉え、研究に適した環境を整えていきたいと考える。

VII 図書館

1 図書館の基本方針

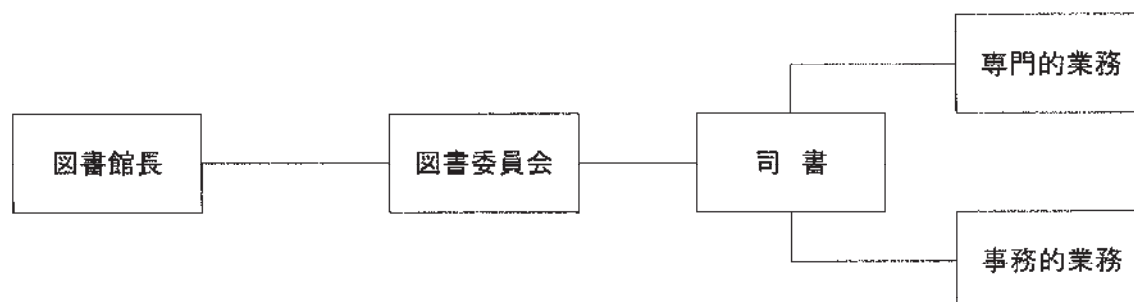
本学は、設立趣旨にあるように、埼玉の県北で地域の女子教育に貢献することを目的としている。それは、女性の自立と社会的貢献に向けた専門教育の場となることをめざしたものである。図書館もそのような本学の目的実現の追求に寄与する方向での充実を意図している。

図書館では、開学以来、学科構成に合わせた選書を行ってきたが、単科（こども学）となり、保育・幼児教育・特別支援教育関連の資料や絵本、紙芝居などの児童書に重点を置いた収集、学生・教職員からのリクエストに応えた図書購入を行い、蔵書の充実を図ってきている。

2 組織と運営

図書館長は、図書館の管理および運営を統括し、全学的な連絡調整を行っている。また、図書館の運営を円滑にかつ大学や学科の教育方針に即応したものにしていいため、館長をはじめ、専任・特任教員から選出された委員と図書館司書で構成される「図書委員会」を組織し、図書館の運営、文献の購入計画、購入文献の選定、図書館の利用に関する事項などについて協議している。

通常の業務は図書館司書 1 名があたっている。本学図書館の場合、この 1 名の図書館司書が、情報サービス、目録作成・管理などの図書館の専門的業務、ならびに一般的な事務的業務を行っている。



図書館の基幹業務は、コンピュータ化されるに至っていないので、予算管理、発注受入、図書整理、貸出返却、利用統計、蔵書点検に至るまでの業務を、従来の手工業的な方法で行わざるを得ない状況である。なお、蔵書検索については、コンピュータによる簡易目録とカード目録を併用して運用している。

3 施設・設備と情報サービス

(1) 施設・設備

本学図書館は昭和 58 年 4 月に開館し、総面積は 266.2 平方メートルで、一階は 153.2 平方メートル、二階は 113.0 平方メートルである。一階は書架および司書室、二階は閲覧室および参考図書室として使用している。

蔵書数（図書・視聴覚資料）は 47,750 点（平成 23 年 3 月 31 日現在）である。なお、ほとんどの外国書は、104 サーバ室のスペースの一部を書庫として使用し、ここに別置している。この書庫は閉架式のため、自由に利用することはできない。

一階の書庫は、開架方式を採用しているため、利用者は自由に書庫へ入り利用できる。大型本、新聞のバックナンバーなどは集密書架に排架している。また、ブラウジングコーナーを設けている。

二階は閲覧室で、閲覧席 40 席（閲覧机 8 台）を設置し、閲覧室の周囲には参考図書、学術・専門雑誌、視聴覚資料を排架して、利用に供している。

在籍学生数は、1 年 91 名、2 年 76 名、全学年 167 名（平成 22 年 10 月 1 日現在）である。学生一人あたりの蔵書数は約 286 冊、年間受入冊数は 2.4 冊である。この数値を（社）日本図書館協会が毎年調査し刊行している「日本の図書館」（2010 年版）に掲載されている平均値と比較すると、全国の大学図書館の蔵書数では 286：102、短期大学図書館に限っても 286：146 となり、いずれも本学の図書館が大きく上回っている。

(2) 情報サービス

図書館の業務は、図書館利用者である学生および教職員に対する図書館資料の提供が中心的業務である。主なサービスは次のとおりである。

所蔵調査で来館した学生や教職員に対しては、要求文献のおおよその NDC（Nippon Decimal Classification＝日本十進分類法）を判定し、当該排架場所を案内して探索させ、該当文献を探しあてたならば、二階の閲覧室またはブラウジングコーナーで閲覧してもらう。

所蔵の有無が不明瞭な場合には、蔵書検索システム（OPAC＝Online Public Access Catalog）、または書名目録・著者名目録等のカード目録での調査を案内する。そして該当文献が発見できたならば、閲覧室に持参して利用してもらう。

① レファレンス・サービス

文献調査などの参考調査依頼を来館者から受けたときは、図書館事務室またはカウンターに排架している参考図書を使用するなどをして回答する。しかし、利用者が自分で調査を希望する場合には、調査ツールを提供して調べてもらう。例えば、簡単な事実調査、新

規購入図書の場合、出版社等の情報である。

② 館外貸出とコピーサービス

学生への館外貸出の冊数と期間は、10冊・2週間にして、実習などで必要な場合には返却期限を延長するなどの特別貸出を行っている。なお、教職員への館外貸出の冊数は20冊、期間は1ヵ月としている。コピーサービスについては、著作権法第31条に従い、予め文献複写申請をしてもらい、館内資料に限り許可している。本学図書館で所蔵していない資料については、図書館間相互利用による複写文献あるいは現物の取寄せで対応し、他の図書館を利用できるように照会サービスも行っている。

③ 視聴覚資料

図書館サービスにおける文献資料の情報源は、主に図書や雑誌であるが、ビデオテープ、DVD、CD-ROMなどの視聴覚資料の収集が必要不可欠でもある。保育・幼児教育や一般教養として必要な資料を購入して利用に供している。また、図書館情報学分野の資料も購入して、司書・司書教諭課程の授業の補助手段として利用している。

二階閲覧室には、DVD・CD/ビデオ一体型の再生装置と液晶13型ディスプレイを設置し、館内でのCD、DVD、ビデオテープの視聴が可能である。

④ 情報検索システムの利用

コンピュータで蔵書を簡易に検索できるシステム(Simple-OPAC:OPAC社)を活用し、正規のMARC(Machine Readable Cataloging = 機械可読目録)ではないが、利用者サービスの向上を図っている。

今後は、国立情報学研究所が提供する目録所在情報サービス(NACSIS-CAT/ILL)を導入して、共同分担目録システムや図書館間相互利用システムを活用するため、本学図書館の基幹業務のコンピュータ化を実施することが必要である。また、共同分担目録システムを導入できれば、書誌レコードの流用ができ、作業を省力化できるメリットもある。

この学術情報システムは、国内の高等教育機関の図書館における導入の普及傾向をみると、将来の検討課題であると思われる。

4 所蔵点数と年間受入状況

(1) 所蔵点数

① 蔵書数

蔵書の数は、平成23年3月31日現在で、図書45,808冊である。そのうち和書は41,015冊、外国書は4,793冊である。

② 学術雑誌所蔵数

購読している学術雑誌のタイトル数（平成 22 年度）は次のとおりである。なお、一般雑誌は除く。

○ 学術雑誌タイトル数

和雑誌：78 点	外国雑誌：10 点
----------	-----------

③ 視聴覚資料所蔵点数

視聴覚資料の受入点数（平成 23 年 3 月 31 日現在）は次のとおりである。

○ 視聴覚資料の受入点数

視聴覚資料：1,942 点	
内 訳	
DVD	319 点
ビデオテープ	986 点
カセットテープ	263 点
CD	264 点
CD-ROM	75 点
スライド	35 点

④ 除籍数

平成 22 年度は、蔵書の除籍を実施していない。

(2) 年間受入状況

平成 22 年度の資料別受入状況は、図書 390 冊、視聴覚資料 22 点で、合計 412 件である。これを学生 1 人あたりの受入件数で算出すると、約 2.4 件（受入件数/学生数）となる。

○ 受入状況の内訳（平成 22 年度）

受入種別	冊数・点数	
図 書	合計 365 冊	
	和 書	365 冊
	外国書	0 冊
視聴覚資料	合計 29 点	
	DVD	29 点
	ビデオテープ	0 点
	CD	0 点
	CD-ROM	0 点
	カセットテープ	0 点
図書+視聴覚資料	合計 394 件	

5 利用状況

(1) 入館者数

平成 22 年度の年間入館者数は 6,198 人（教職員 1,703 人、学生 4,495 人）、1 日平均入館者数は 30.8 人（年間入館者数／開館日数）である。学生 1 人あたりの年間入館回数は約 26.9 回（年間入館者数／学生数）である。学生所属別の入館者数と利用比率は次のとおりである。

○ 学生所属別入館者数および学生 1 人あたりの利用回数（科目履修生等を除く）

	こども学科	
1 年	2,313 人	25.4 回
2 年	2,182 人	28.7 回

(2) 館外貸出

館外貸出については、先述のとおり、学生、教職員によって貸出期間が異なる。通常の期間、学生は 1 人 10 冊までで 2 週間以内である。教職員は 1 人 20 冊までで 1 ヶ月以内となっている。ただし、夏休み等の長期休暇および保育・幼稚園実習、施設実習の場合は特別長期貸出を認めている。

○ 学生所属別貸出冊数（括弧内は一人あたりの平均貸出冊数）

	こども学科
1 年	999 冊 (1.9 冊)
2 年	1,765 冊 (3.0 冊)

平成 22 年度の教職員の館外貸出冊数は、635 冊である。

(3) その他の業務

① 参考業務

平成 22 年度のレファレンス受付数（クイックレファレンスを含む）は、3,305 件である。

② 文献複写

館内に設置しているコピー機の平成 22 年度の利用は、次のとおりである。

○ 学内文献複写の申請人数と枚数

	人 数	枚 数
学内文献複写	108 人	686 枚

なお、図書館に設置しているコピー機は、著作権法第 31 条による図書館資料の複製のため、館内資料の複製に限定して許可している。

③ 相互利用

平成 22 年度の図書館間の相互利用の内訳は、次のとおりである。

○ 相互利用の受付・依頼件数

	受 付	依 頼
文献複写	3 件	9 件
現物貸借	0 件	2 件

6 研究紀要

(1) 埼玉純真短期大学研究論文集

① 第 4 号

平成 22 年 10 月に原稿募集を行い、その結果 11 件の原稿が集まり、200 部（抜刷り 30 部×11 名）を平成 23 年 3 月 31 日に刊行した。

7 成果と課題（点検・評価）

図書館施設が入る研究棟の冷暖房設備について、老朽による機能低下のため、今年度早々に一新し、夏季・冬季ともに利用者にとっては快適な環境となった。特に、高湿季においては、資料保存の除湿による有効性は大きいと思う。

排架状況については、書架の過密度が増し、余裕が無くなってきており、現在の施設内では、これ以上の書架の増設が困難であるため、閲覧スペースの改善も含め、根本的に図書館の建替え等を検討しなければならない状況である。

図書の選書においては、学科構成に則し、特徴ある選書を目標にし、教育学の基礎全般に関連する学術書を多数購入し、充実を図った。

年来の懸案事項であった「図書館情報システム」について、法人本部情報処理センターの職員を交えて、本格的な導入を視野に入れて闊達な意見交換をし、経費面での課題は残るものの、一歩前進した感があった。

図書館組織では、平成 21 年度末に非常勤司書が退職し、今年度は専任司書 1 名で図書館業務に対応することになった。このため、図書館規程第 6 条に規定されているとおりの常時開館が不可能になり、利用者への利便性の低下を招く恐れがあるため、図書委員に任命された教員が、司書不在時に、閲覧業務に限って臨時的対応をすることになった。この試みは、授業や出張用務等の教員の教育・研究活動が優先されるため、必ずしも効果的であるとは言

えず、図書館のあるべき姿を考える上で、来年度へ向けての課題となった。

昨年度、国立情報学研究所が提供する「論文情報ナビゲータ (CiNii)」へ研究論文集に掲載している論文を公開したが、今年度は、埼玉県地域共同リポジトリとして、埼玉県大学・短期大学図書館協議会が提供する「学術情報発信システム (SUCRA)」にも登録する道筋をつけることができた。

平成 23 年 3 月 11 日に起こった東日本大震災では、一階書庫と二階閲覧室の書架の一部から書籍が床に落下・散乱した。全般的に過密気味の排架であったため、多くの書籍は落下を免れ、それによる破損の被害も無かった。



1 階書庫



2 階閲覧室

VIII 校地・施設・設備

1 校地及び校舎面積

(1) 概要

本学は広大な関東平野の北部埼玉県羽生市にあり、利根川を境にして、すぐ北側は群馬県、北東側は栃木県、東側は茨城県の県境に位置し、関東地方全体から見れば、地理的にはほぼ中心をなす場所に存在する。政治・経済の中核である東京へも、1時間強の時間で出られることもあり、文化・観光都市の散在する関東北部地方に挟まれ、いたって恵まれた環境にある。

校地面積は短期大学設置基準(9,125 m²)の約3.83倍の広さを有する34,969.5 m²、そこに校舎は6,530.2 m²、運動場8,058.98 m²、緑地7,730.81 m²がある。校地内には屋外体育施設としてグラウンド(一周300m)、プール(25m・4コース)、テニスコート(3面)が設けられており、学生、および来客者用駐車場(96台)、自転車置場が設置されている。研修棟の1階部分にある食堂の南側にはテラスとなっており、ベンチ、テーブルが備えられている。校内東側には、体育用具入れ、テント収納入れなどのために利用されている倉庫があり、またクラブ活動のための部室がある。

校地総面積(大学専用校地)	34,969.50 m ²
校舎	6,530.20 m ²
運動場	8,058.98 m ²
緑地	7,730.81 m ²

(2) 成果と課題(点検・評価)

短期大学設置基準による必要面積は、収容定員より算出すると校舎が5,500 m²であり、校地が9,125 m²である。本学の校地、および校舎の現況面積は設置基準を満たしているが、設置基準と対比すると校舎は必要面積に対して1.19倍、校地は3.83倍の面積を有し、校舎との比較では校地がより多く基準面積を上回っており、余裕のある校地を有している点が特徴的である。基準値よりも広い校地の活用について地方の大学ということで、一部を学生が余裕をもって使用できるよう学生専用駐車場としての拡張をはかった。以前よりも、多くの学生が利用できるようになった。

大学周辺は、徐々に開発の動きが見られてきた。ただ、開発の動きにはある程度の時間を要する。そのために、大学の周りはまだいたるところ昔と変わることなく農地が広がり、都会よりこの地を訪れる人々は、時間が止まったような安らぎを得ることが出来る。そういった意味では、本学の立地条件は恵まれており、都会の喧騒から離れて、じっくりと教育・

研究に取り組むことの出来る、優れた教育環境を備えていると言えよう。また、緑地部分が校地の 20%を占める現状からも、情操環境としては貴重かつ最適であると自負できる。これらの状況を活用し、調和のとれた設計を進めていく必要があるだろう。

2 施設及び設備

(1) 概要

本学校舎は管理棟・研究棟・学習棟・研修棟・体育館から構成されている。管理棟には事務室・学長室・応接室・会議室・保健室・非常勤講師室等が設けられている。管理等に接続する形で研究棟があり、1階・2階部分は図書館、3階・4階・5階は教員研究室となっている。低層階の多い本学の校舎にあって唯一 5階建てのこの建物は本学のモニュメント的存在である。

2階建ての学習棟は、普通教室、演習室、大講義室、小児栄養実習室、リズム音楽室、ピアノレッスン室(20室)、実習指導室、学生相談室、パソコン教室、学生会室等から構成され、学習棟正面入口にはラウンジが設けられ、連絡事項伝達のための掲示板と自販機が設置されている。

学習棟の東側に位置する3階建ての研修棟は、1階部分が学生食堂、売店、絵画工作室、理科・社会実験室、陶芸室、2階部分が普通教室、中講義室、3階部分が普通教室、和室がそれぞれ設置されている。

棟名称	階数	延床面積 (㎡)
学習棟	2	2,458.77 ㎡
研修棟	3	1,772.66 ㎡
研究棟	5	766.29 ㎡
管理棟	1	641.49 ㎡
体育館	1	933.70 ㎡

校舎延床面積合計	6,572.91 ㎡
----------	------------

(2) 保守・管理体制

平成 22 年度に実施した保守点検は、以下の通りである。

浄化槽、電気設備、ガス器具、消火器、自働火災報知機、非常用設備、冷暖房設備、危険物(地下タンク)、電話交換機、ピアノ調律等。

(3) 成果と課題（点検・評価）

平成 23 年 3 月 11 日に起きた東日本大震災に伴う地震により、校舎の一部に損害が生じた。体育館天井部の部材落下、建物内部のガラスの損傷、建物外部の亀裂、雨樋の損傷等の被害があり、加えて、水道管の破損による大量の漏水も発見された。これらの復旧に、約 1 ヶ月を要し、その間、体育館は使用を禁止した。



体育館天井



体育館天井からの落下部材



研究棟入口階段の亀裂



研修棟雨樋の損傷

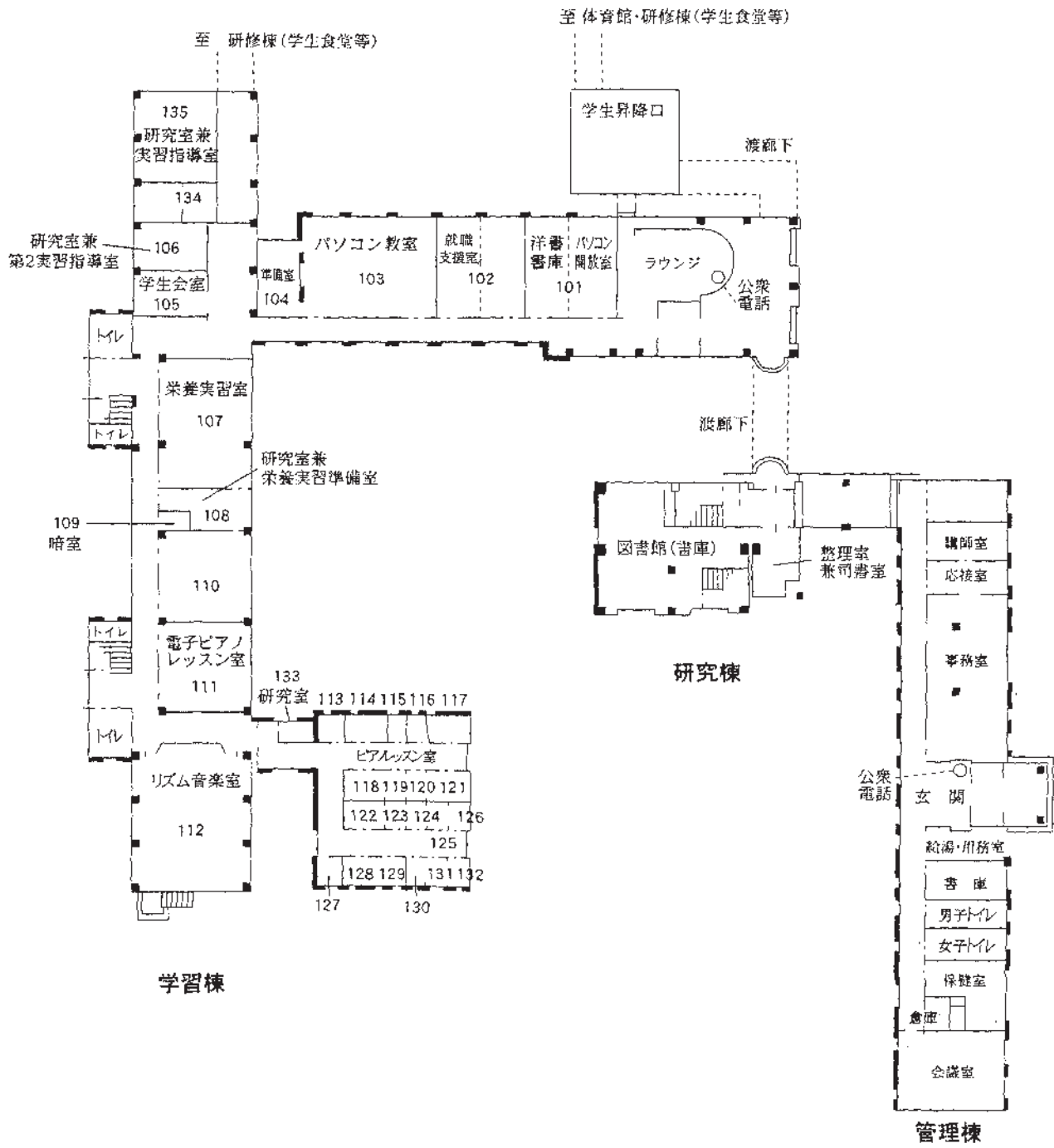
本学の施設設備は、開学以来約 30 年を経過していることから、様々な部分で老朽化が目立つ状態になっている。こうした中、学生の身体の安全を最優先に考え、各種法律・条例等に基づき、基準に合った業者により、滞りなく点検を実施し、問題点があれば即刻対応をしている。

平成 22 年度は、施設のより効率の良い使用を目指して、教室の集約化をはかった。これにより、学生の移動距離の短縮と、各種エネルギー消費の軽減等に効果があったものと考えている。

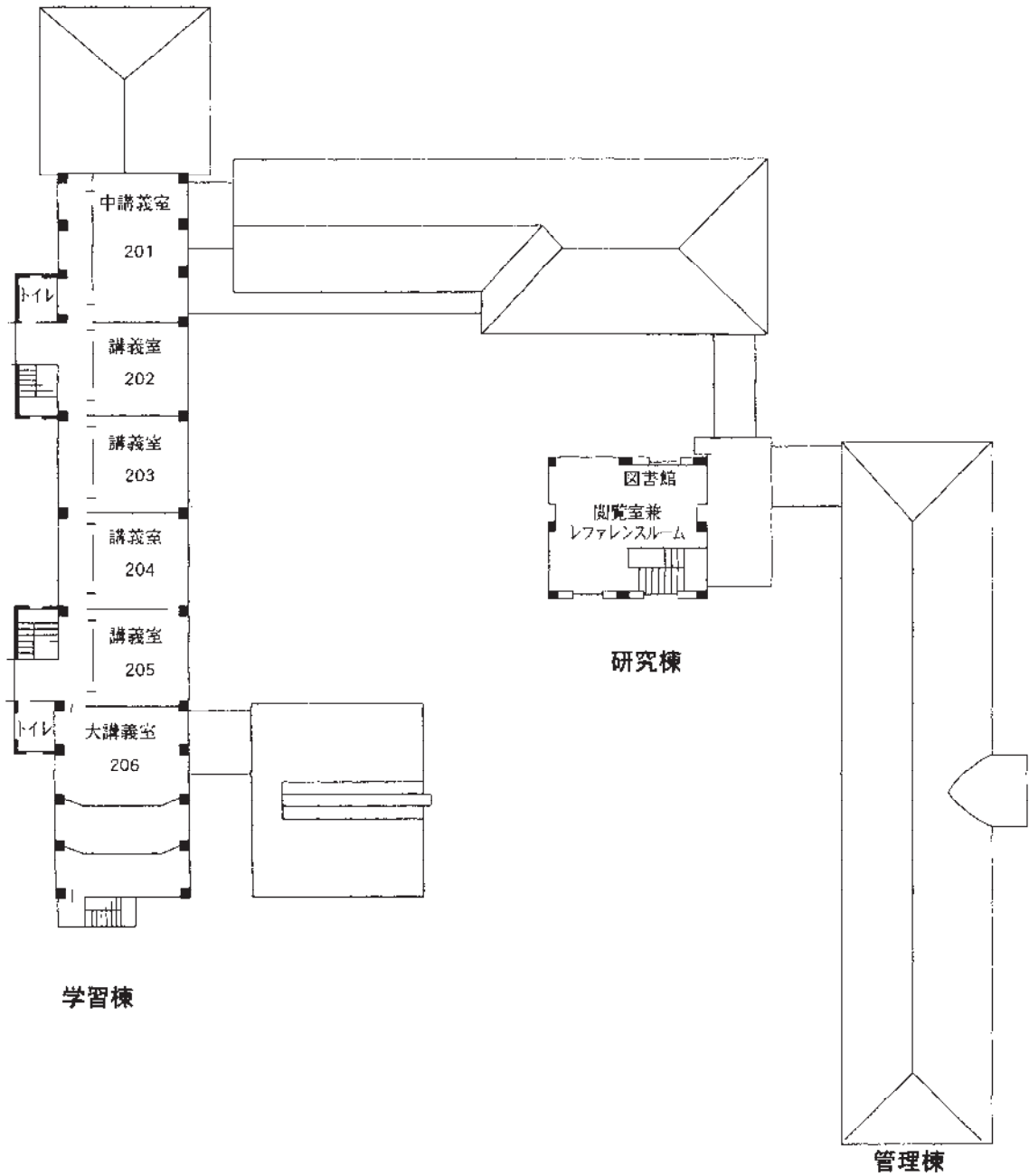
また、より合理的で迅速に機能する安全管理の体制が敷かれるよう、消防署、警察署など、関連機関との連携をはかり、協力を仰ぎながら、さらなる学生の安全確保に取り組んでいきたい。

3 学内見取図

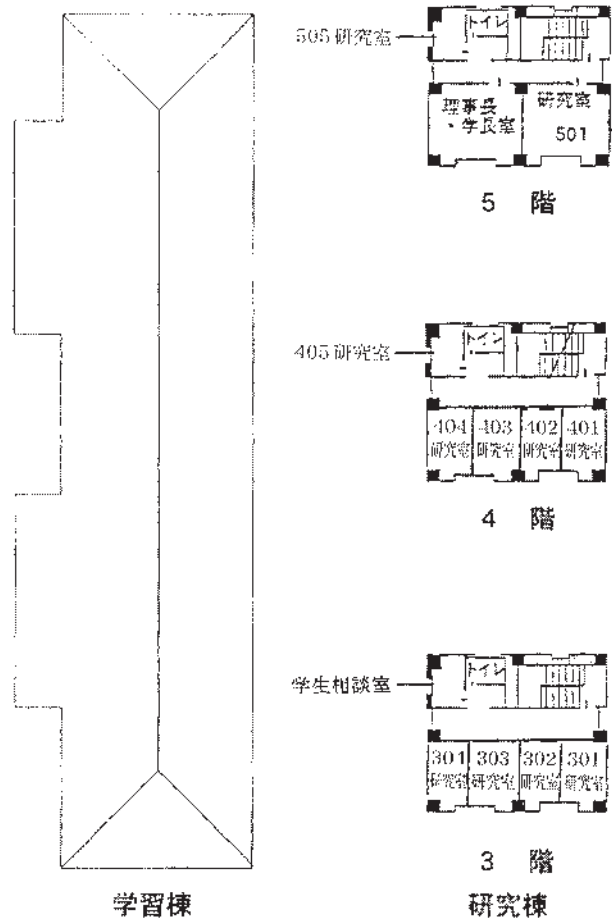
1階 平面図



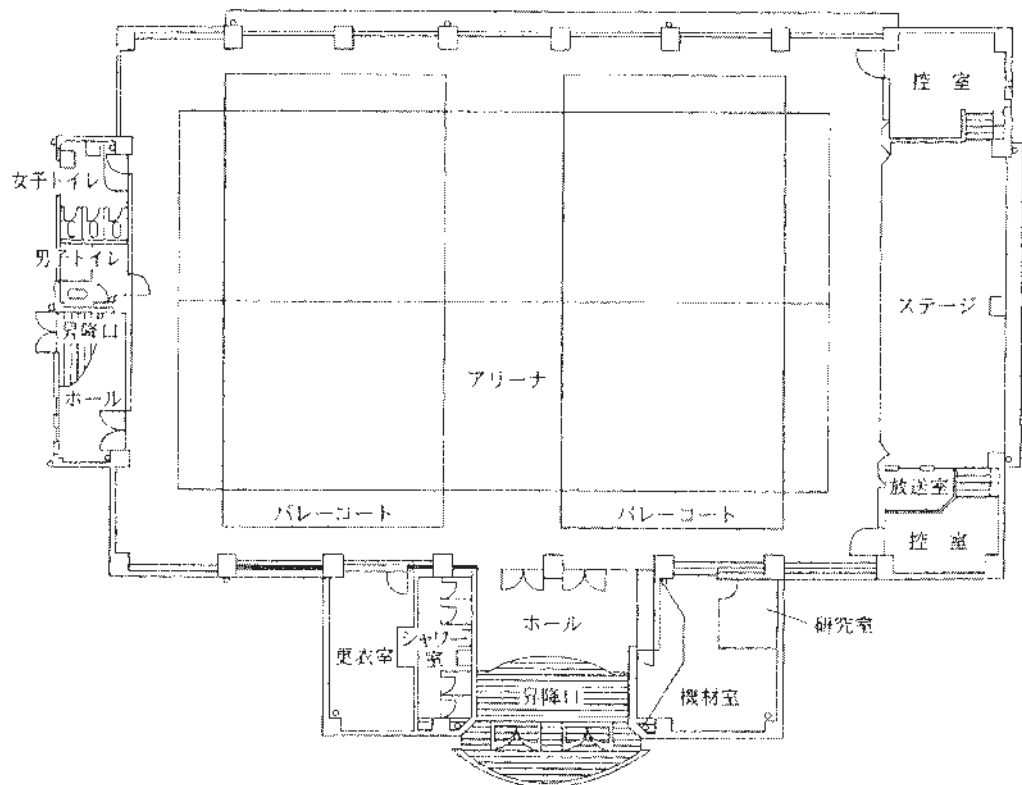
2階 平面図



3・4・5階 平面図

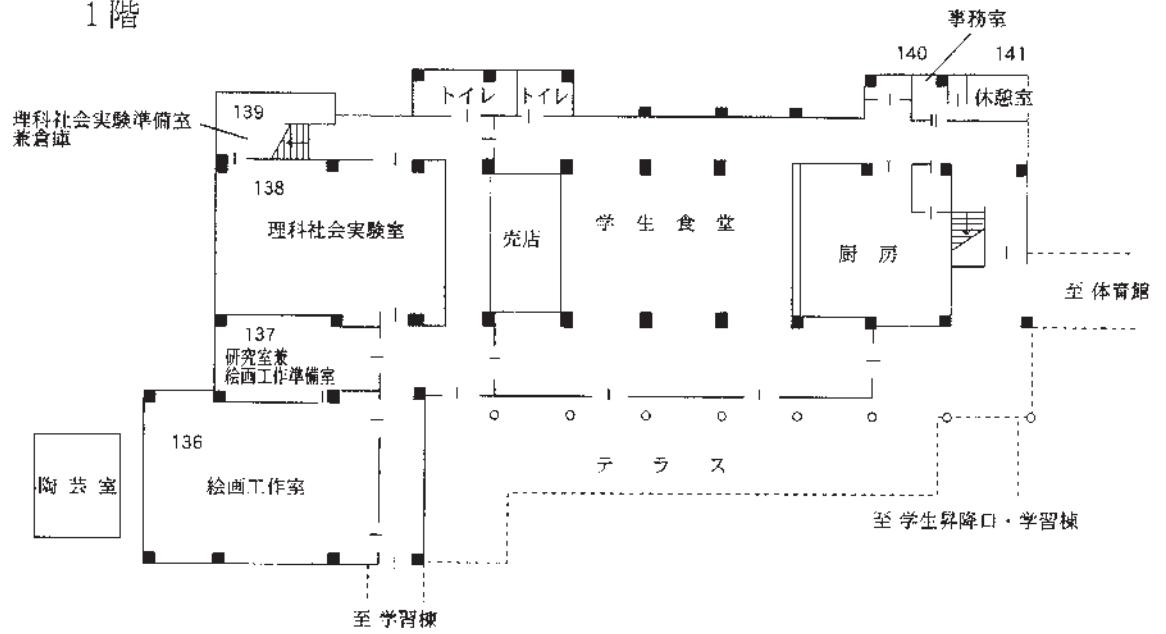


体育館 平面図

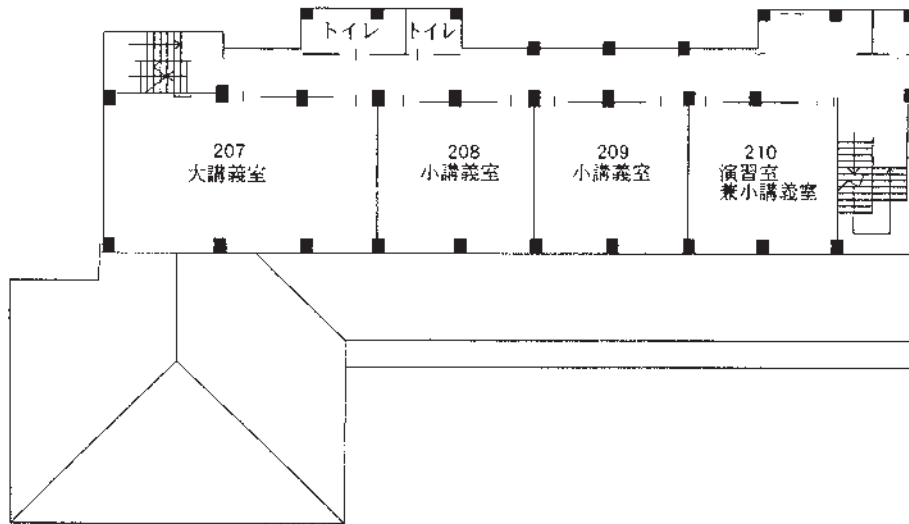


研修棟 平面図

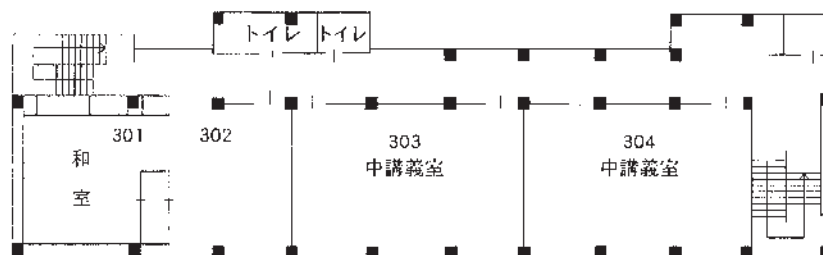
1階



2階



3階



IX 教授会・学科会・委員会等

1 教授会

(1) 教授会

① 開催日程及び主な審議事項

○ 教授会内容一覧

開催日	審議事項	報告事項
臨時教授会 平成 22 年 4 月 14 日	・「キャリアガイダンス（仮）」導入に伴う学則変更について	・各委員会からの報告
第 1 回定例教授会 平成 22 年 4 月 21 日	・学籍異動 ・幼稚園前半実習 実習審査（乳幼児保育コース） ・幼稚園後半実習 実習審査（こども学コース） ・指定推薦校について ・オープンキャンパスの実施内容（案）	・各委員会からの報告
第 2 回定例教授会 平成 22 年 5 月 19 日	・平成 22 年度前期試験計画 ・既修得単位の読み替え ・平成 21 年度後期成績認定 ・幼稚園／保育所実習期間授業実施について ・平成 22 年度前期授業評価アンケート ・ボランティア実習について ・幼稚園前半実習保留学生の扱いについて ・「オープンキャンパス 2010」5/22（上）・23（日） オープンキャンパス実施要領（案）	・各委員会からの報告
第 3 回定例教授会 平成 22 年 6 月 16 日	・「音楽表現の基礎」の小二免選択科目からの取消しと「キャリアデザイン」の追加について ・平成 22 年度前期 16 週目の総合演習について ・平成 22 年度後期「総合演習Ⅰ」「教職実践演習」について ・平成 22 年度後期 時間割表（案） ・平成 22 年度 集中講義日程 ・埼玉県地域共同リポジトリへの教育研究成果の登録 ・「保育所実習」における実習審査	・各委員会からの報告

IX 教授会・学科会・委員会等

	<ul style="list-style-type: none"> ・介護等体験実習審査 ・面接時の参考資料（案） 	
<p>第4回定例教授会 平成22年7月21日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度前期16週目時間割表について ・試験監督上の留意点と試験での留意点 ・平成22年度前期15週目の総合演習について ・平成22年度後期時間割表について ・履修登録ミスの学生への対応について ・1年次幼稚園前半基本実習に伴う実習審査 ・埼玉純真短期大学教育フォーラム（仮称） ・平成23年度の学事日程（案） ・平成22年度学生会費予算（案） ・平成22年度全国私立短期大学体育大会の参加について ・前期試験受験無資格者について ・2011年度AO入試面接結果 	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員会からの報告
<p>第5回定例教授会 平成22年9月22日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学籍異動 ・平成22年度前期成績認定 ・平成22年度後期補講予定表 ・樋田敏南奨学金について ・平成22年度幼稚園後半実習（乳幼児保育コース）に伴う実習審査 ・平成23年度小学校教育実習日程 ・平成22年度後期時間割 ・保護者会について ・卒業式と卒業パーティーについて 	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員会からの報告
<p>臨時教授会 平成22年10月6日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度新カリキュラムについて 	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員会からの報告
<p>第6回定例教授会 平成22年10月20日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度前期成績追加認定 ・平成22年度合格者対象の入学前教育（プレカレッジ）について ・怪我等により実習が遅れている学生の扱いについて ・指定校、公募制、専門・総合学科等、同窓会推薦入学試験実施要領（案）について ・同窓会推薦入試へ推薦いただいた同窓生への謝礼について 	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員会からの報告

IX 教授会・学科会・委員会等

臨時教授会 平成 22 年 10 月 30 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2011 年度指定校，公募制，専門・総合学科，同窓会推薦入学試験合否判定 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各委員会からの報告
第 7 回定例教授会 平成 22 年 11 月 17 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学籍異動 ・ 平成 22 年度前期成績追加認定 ・ 平成 22 年度後期試験実施計画（案），試験での留意点，試験監督上の留意点 ・ 施設実習に参加する学生の対応について ・ 平成 23 年度年間予定表（案） ・ スポーツ大会の読み替え科目について ・ 平成 22 年度合格者対象の入学前教育（プレカレッジ）について ・ 表現発表会について ・ 欠席届の様式について ・ 平成 22 年度施設実習について 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各委員会からの報告
第 8 回定例教授会 平成 22 年 12 月 15 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生動向 ・ 履修登録ミスの学生について ・ 平成 22 年度後期試験時間割，16 週目のゼミの発表会について ・ 埼玉純真短期大学図書館規程および図書委員会規則の改正（案） ・ 2011 年度公募制，専門・総合学科等推薦（Ⅱ期）入学試験実施要領（案） ・ 図書館司書課程および司書教諭課程の廃止について 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各委員会からの報告
臨時教授会 平成 22 年 12 月 22 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2011 年度公募制，専門・総合学科等推薦（Ⅱ期）入学試験合否判定 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各委員会からの報告
第 1 回正教授会 平成 23 年 1 月 19 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 埼玉純真短期大学教育職員の任用について 	
第 9 回定例教授会 平成 23 年 1 月 26 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学納金未納者の資格申請及び卒業認定に係る日程について ・ 平成 22 年度全国保育士養成協議会会長表彰者推薦について ・ 平成 22 年度 第 27 回卒業式次第（案） ・ 平成 23 年度年間予定表（案） ・ 平成 23 年度 前・後期時間割表（案） ・ 平成 23 年度科目等履修生募集要項 ・ プレカレッジアンケートについて 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各委員会からの報告

IX 教授会・学科会・委員会等

	<ul style="list-style-type: none"> ・学外研修について ・卒業アルバム製作者の変更について ・オリエンテーションの日程 ・2011年度 一般・社会人(Ⅰ期)入試実施要領(案) 	
<p>第10回定例教授会 平成23年2月23日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度入学式について ・平成23年度オリエンテーションについて ・平成23年度前期時間割表(案) ・学籍異動 ・学生の動向について ・学生便覧 ・規程, 規則等の改正案 	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員会からの報告
<p>臨時教授会 平成23年2月25日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度後期成績認定(卒業年次生) ・平成22年度卒業/学位取得認定及び免許/資格取得認定 ・平成22年度卒業式 各代表者候補 	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員会からの報告
<p>第2回正教授会 平成23年3月9日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・埼玉純真短期大学教育職員の任用について 	
<p>臨時教授会 平成23年3月9日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2011年度一般(Ⅱ期)入学試験合否判定 ・入学金等免除について 	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員会からの報告
<p>第11回定例教授会 平成23年3月22日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度後期成績認定(在学生)及びGPA認定 ・平成22年度後期成績認定(卒業生)の一部訂正 ・平成23年度入学式について ・平成23年度年間行事予定表(案) ・平成23年度前期時間割表(案) ・オリエンテーションについて ・学籍異動 ・純真祭について ・AO面接結果について ・新入生宣誓の代表者選出について 	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員会からの報告

② 成果と課題(点検・評価)

教授会は、「学則第43条」に則り、教授・准教授・専任講師・助教で構成した。これは、本学が「こども学科」単科であり、専任教員も少人数(教授が3名)であることが理由である。さらに少人数という良さを捉えて、教職員間のコミュニケーション円滑化、情報共有化、参画意識の向上を意図して、事務局職員にもオブザーバーとして全員が出席した。

これまで見てきた多くの教授会では報告会的であるか、さもなくば教員(委員会・学部)間の感情的な意見対立になりがちであった。このようなことのないようにするべく、本学

の教授会は、全員が参画意識と当事者意識を持って運営し、それぞれに意見や感想を交換する場となるようにした。それぞれが自覚を持って教授会に臨んだ結果、意思疎通が図れ、意見の一致にも至ったと思われる。このようにして、教授会は、概ね順調に運営されたと感じている。

特に今年度は、委員会を教務部会（教務委員会と実習委員会）、学生部会（学生委員会と就職委員会）のように関連委員会をまとめて、委員会メンバーを共通とした。そのため、教授会議案作成までに委員会で十分に検討できることとなった結果、教授会での問題はほとんどなかったといえる。しかし、一方では委員会の業務の偏りもみられたことは反省点である。

今後の課題としては、依然として委員会からの議題が現状（大学運営・学生指導など）に対する対処・対応策になりがちであるので、今後は、授業の在り方や指導などの授業の質の向上、学生指導の積極的指導の在り方などの検討、地域貢献、本学の将来像など、本学の未来を見据えての建設的議題が上がる教授会にならなければならないと考える。

全教員が共通認識を持って学生指導や教育活動にあたるように、すべての委員会のメンバーになることも考えながら、有言実行型の委員会と教授会にしていきたいと考えている。

（２） 人事

① 異動

氏名	職位	異動日
稲垣 馨	純真短期大学教養教育講師 ↓ 埼玉純真短期大学こども学科講師	平成 22 年 4 月 1 日
秋山 知世	事務長代理 ↓ 入試広報課長	平成 22 年 4 月 1 日
原田 智鶴	教務課実習係員 ↓ 実習助手	平成 22 年 4 月 1 日

② 採用

氏名	職位	採用日
関根 久美	こども学科講師	平成 22 年 4 月 1 日
高橋 努	こども学科講師	平成 22 年 4 月 1 日
大澤 尚子	経理課経理係員	平成 23 年 1 月 17 日
内田 和泉	入試広報課入試広報係	平成 23 年 2 月 8 日
欠内 美優	教務課教務係員	平成 23 年 2 月 8 日

③ 退職

氏名	職位	退職日
安部 孝	こども学科准教授	平成 23 年 3 月 31 日
木許 隆	こども学科准教授	平成 23 年 3 月 31 日
村田 文生	こども学科特任教授	平成 23 年 3 月 31 日
濱野 哲也	事務局長	平成 23 年 10 月 31 日
秋山 知世	人試広報課長	平成 23 年 3 月 31 日
新島 由了	経理課経理係員	平成 23 年 1 月 31 日

(3) 成果と課題（点検・評価）

平成 21 年度に続き、若干名の教員の変動はあったが、それぞれ学生教育や研究活動に、積極的に取り組むことができた。特に地域社会との連携については、「羽生市学びあい夢プロジェクト」が発足したこともあって、教員の積極的な地域貢献がより向上した 1 年となった。また、埼玉県教育委員会からの委嘱で、地元の高等学校の教育相談に、複数の教員がチームを作って参加し、昨年度まで行われていた「社会人の学び直し」事業の延長線上にある発達障害・特別支援教育に特化した活動も展開することができた。

ようやく地域との連携活動が芽を吹いてきており、今後、教員のみではなく、学生や職員を巻き込んで、全学をあげて地域と融和した教育・研究活動を展開することが、本学のこの地域における存在を明らかにする貴重な手段であると考えている。

また、教員一人一人の自己啓発による教員資質の向上も求められている。併せて、教員相互の授業見学や学生指導方法の意見交換等を通じ、互いに刺激し合いながら全体のレベルアップをはかる手立てを確立していくことが、次年度以降求められていると考えている。

2 委員会

(1) 教務委員会

① 構成

委員長名	委員名（※印は事務担当者）
小澤 和恵	安部 孝・稲垣 馨・入江 良英・牛込 彰彦・関根 久美・高橋 努 ※橋本 早也佳 ※相馬 萌 ※矢内 美優

② 概要

開催日	内容
平成 22 年 4 月 1 日	・成績追加認定について

IX 教授会・学科会・委員会等

<p>第1回 4月14日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学籍異動について ・平成22年度入学生 既修得単位の読み替えについて（追加） ・平成22年度前期 時間割表の訂正について ・純真フェスタ前の特別授業期間日程について ・純真フェスタにおける振り替え科目について ・平成22年度前期 補講実施科目及び出勤体制について ・平成22年度前期 教科書追加について ・「キャリアガイダンス（仮）」導入に伴う学則変更について ・平成21年度から新規導入資格・免許に伴う複数資格・免許履修費の徴収について ・保護者会開催について ・その他：集中講義と保育所実習が重なった学生について
<p>4月16日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度保育所実習及び幼稚園実習期間変更者について
<p>第2回 5月12日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度 前期試験計画（試験計画、無資格者調査） ・既修得単位の読み替え ・平成21年度後期 成績認定（未納による未認定分） ・平成22年度前期 欠席状況調査 ・幼稚園／保育所実習期間授業実施について ・平成22年度前期 授業評価アンケート ・1年生へのメールアドレス配布方法 ・その他：ボランティア実習実施方針、参加許可願 ・第28回純真祭の授業振り替え科目 ・平成22年度前期 補講日程 ・「学校経営と管理」授業予定表 ・平成21年度 授業評価アンケート結果・その他
<p>第3回 6月9日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「声楽豹変の基礎」の小二免選択科目からのからの取り消しについて ・平成22年度前期 16週目の総合演習について ・平成22年度後期 総合演習Ⅰ・教職実践演習について ・平成22年度後期 時間割表（案） ・平成22年度 集中講義日程 ・その他：幼稚園・保育所実習について、学生の動向 ・平成22年度前期 時間割表 ・指定保育士養成施設の平成22年度自己点検・平成21年度業務報告について ・同意書・原簿・未提出について ・平成22年度前期 補講予定日以外・通常と異なる授業時間に実施する授業について
<p>6月29日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度前期 16週目の時間割表（案）について ・履修登録ミスの学生の対応について ・平成22年度後期 時間割表審

IX 教授会・学科会・委員会等

	<ul style="list-style-type: none"> ・その他：学生動向、授業評価アンケートの実施について ・平成 22 年度ボランティア実習受付リストについて ・その他：補講予定日以外・通常と異なる授業時間を実施する授業について
第 4 回 7 月 14 日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 22 年度前期 16 週目時間割表について ・試験監督上の留意点（教員向け）・試験での留意点（学生向け） ・平成 22 年度前期 15 週目の総合演習について ・平成 22 年度後期 時間割表について ・履修登録ミスの学生の対応について ・平成 22 年度後期 総合演習Ⅰ・教職実践演習について ・同意書・原簿・未提出者について ・平成 21 年度前期 補講予定表報 ・平成 21 年度前期 補講予定日以外・通常と異なる授業時間を実施する授業について ・保育内容応用指導法履修選択について
7 月 21 日	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験受験資格無資格者の現状と条件の確認 ・学生の動向に伴っての処置について ・15 回で終了する授業の追・再試について
8 月 6 日	<ul style="list-style-type: none"> ・厚生労働省の通知による保育士養成課程のカリキュラム検討について ・学生間で発生した悪戯等のトラブル対応について
第 5 回 9 月 2 日	<ul style="list-style-type: none"> ・履修登録ミスの学生の対応について ・平成 22 年度後期 履修登録方法について ・平成 22 年度後期 補講日について ・教職実践演習について ・平成 22 年度後期 時間割について ・入門ゼミの成績について ・平成 23 年度カリキュラムについて ・その他：卒必科目不可の学生の救済について
9 月 22 日	<ul style="list-style-type: none"> ・学籍異動 ・平成 22 年度前期 成績認定 ・平成 22 年度後期 補講予定表 ・その他：保護者会、平成 22 年度後期時間割表、欠席調査、レクリエーション概論の単位、集中講義、教育職員免許状一括申請説明会、退学者の成績認定、非常勤講師から特任講師へ任用変更
9 月 29 日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 23 年度カリキュラムについて
第 6 回 10 月 13 日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 22 年度前期 成績追加認定 ・平成 22 年度資格取得見込み者について ・平成 22 年度後期 試験について ①16 週目のアンケート ②受験無資格者調査 ・保護者会不参加の家庭に対して

IX 教授会・学科会・委員会等

	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 23 年度 年間予定表 (案) ・平成 22 年度合格者対象 入学前教育 (プレカレッジ) について ・その他：来年度新入生の担任、教職実践演習の内容、実習の公欠 ・平成 22 年度後期 時間割表・履修時間変更について ・平成 22 年度後期 履修未登録者について ・平成 22 年度後期 補講日程について ・その他：実習、社会福祉に関わる DVD 購入
<p>第 7 回 11 月 10 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学籍異動 ・平成 22 年度前期 成績追加認定 ・平成 22 年度後期 試験実施計画 (案)、試験での留意点、試験監督上の留意点 ・施設実習に参加する学生の対応について、欠席届 (案) 新様式 ・平成 23 年度 年間予定表 (案) ・平成 22 年度後期 授業評価アンケートの実施について ・スポーツ大会の読み替え科目について ・教員免許更新制講習について ・平成 22 年度合格者対象 入学前教育 (プレカレッジ) について ・表現発表会について ・その他：保育士養成協議会会長表彰者 ・平成 22 年度後期 受講者無しの科目について ・指定保育士養成施設学則変更申請書の提出報告 ・平成 23 年度 科目履修方法について ・平成 22 年度後期 補講予定日以外で行う補講について ・その他：学生アパートの大家について
<p>持ち回り審議 11 月 12 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・可書資格取得見込証明書の書式作成
<p>第 8 回 12 月 8 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生動向 ・履修登録ミスの学生について ・平成 22 年度後期 試験時間割、16 週のゼミの発表会について ・施設実習に参加する学生の対応について ・平成 22 年度合格者対象 入学前教育 (プレカレッジ) について ・平成 23 年度科目等履修生募集要項(案) ・平成 22 年度 集中講義 ・その他：新年度オリエンテーション日程、施設実習者名簿、学位記、来年度予算、平成 23 年度前期時間割表 ・平成 22 年度後期 補講予定日以外で行う補講について ・表現発表会 ・その他：保育士養成協議会会長表彰者選出

IX 教授会・学科会・委員会等

<p>第9回 平成23年1月19日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総合演習・教職実践演習発表会について ・平成22年度後期 試験での留意点、試験監督上の留意点配布について ・学納金未納者の資格申請及び卒業認定に係る日程について ・平成22年度全国保育士養成協議会会長表彰者推薦について ・平成22年度 第27回卒業式次第(案) ・平成23年度 年間予定表(案)、平成23年度 前・後期時間割表(案) ・平成23年度 科目等履修生募集要項 ・プレカレッジアンケートについて ・学外研修について ・平成23年度 学生便覧 ・教職実践演習カルテ・その他：再履修、コース以外授業履修の可否、履修追加登録の可否 ・補講日以外・通常と異なる授業時間で実施する授業について
<p>2月16日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度 入学式について ・こども学科1、2年生クラス分けについて ・平成23年度 オリエンテーションについて ・平成23年度前期 時間割表(案) ・学生の動向について ・学生便覧 ・教職実践演習カルテ ・その他：レクリエーション・インストラクター資格取得者、卒業式における資格・免許状授与、 保育心理士導入検討 ・平成23年度 年間予定表 ・補講日以外・通常と異なる授業時間で実施する授業について ・その他：筑波研究学園専門学校卒業発表会の開催、こども学コース新2年生の実習時期
<p>2月23日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生便覧変更内容について ・表現発表会の日程変更について
<p>2月25日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度後期 成績認定(卒業年次生) ・平成22年度 卒業認定及び学位取得認定 ・平成22年度 免許・資格取得認定(1)教員免許状①小学校教諭2種免許状②幼稚園教諭2種免許状(2)保育士(3)司書(4)司書教諭 ・平成22年度卒業式各代表者候補の選出について ・その他：平成22年度 埼玉純真短期大学 第27回卒業式 式典進行表
<p>3月22日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度後期 成績認定(在学学生)およびGPA認定 ・平成22年度後期 成績認定(卒業生)の一部訂正 ・平成23年度入学式について ・平成23年度 年間行事予定表(案)について

IX 教授会・学科会・委員会等

	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 23 年度前期 時間割表(案)について ・オリエンテーションについて ・クラス分け（新入生・2 年生）、学籍番号（新入生） ・学籍異動 ・2 年生補講について ・教職実践演習カルテ、グループ ・その他：平成 22 年度卒業生の卒業年月日は平成 23 年 3 月 12 日、集中講義実施の確認
--	---

③ 成果と課題（点検・評価）

平成 22 年度も、月 1 回の定例会議と必要に応じた臨時会議を開催し、適切な審議がなされたと考える。その内容は議事録に残され、教授会に審議事項、報告事項として提出している。

(2) 学生委員会

① 構成

委員長名	委員名（※印は事務担当者）
安部 孝	木許 隆・入江 良英・安倍 大輔・稲垣 馨・浦 由希子 ※奥貫 慶一郎

② 概要

開催日	内 容
平成 21 年 4 月 14 日	・純真祭 ・学生生活 ・学研災 ・クラブ活動 ・奨学金
4 月 20 日（臨時）	・純真祭 ・アパート巡視 ・自宅外学生懇親会 ・自動車通学
5 月 12 日	・クラブ顧問 ・純真祭（総括） ・学研災 ・自宅外通学生懇親会 ・学生総会 ・全国私立短期大学体育大会 ・役割分担（各行事担当）
6 月 11 日	・学生会予算 ・学生総会 ・学生アパート巡視 ・純真祭反省会
7 月 1 日	・スポーツ大会 ・クラブ・サークル予算 ・卒業式
9 月 22 日	・福田敏南育英会 ・卒業行事（卒業パーティー） ・スポーツ大会 ・ロッカー使用 ・シューズボックス ・学生指導 ・学生アパート巡視
10 月 13 日	・卒業式 ・卒業行事（卒業パーティー） ・卒業行事委員会 ・スポーツ大会 ・学生会会長選挙
11 月 10 日	・スポーツ大会 ・学生会長選挙 ・自宅外学生懇親会 ・インフルエンザ対策 ・卒業アルバム ・卒業パーティー ・学事歴
12 月 8 日	・健康診断 ・卒業行事委員会 ・卒業パーティー ・卒業アルバム ・奨学金 ・秋桜会 ・次年度予算案 ・学生アパート ・不要自転車回収 ・インフルエンザ対策
平成 23 年 1 月 21 日	・純真祭 ・リーダー研修会 ・学生ロッカー ・クラブ・サークル費用 ・奨学金 ・卒業アルバム ・学校指定ジャージ

2月16日

・純真祭 ・卒業式 ・卒業パーティー

③ 成果と課題（点検・評価）

平成 22 年度は、学生部長が前年度からの留任のためスムーズに新年度に臨むことができた。月 1 回を原則として学生委員会を開き、学生の動向について教職員間で情報共有を図り学生がより充実した学生生活を送れるように支援を行った。また学校行事等について、必要に応じて臨時の委員会を開き、円滑な運営・実施ができるように臨機応変に対応した。

学生委員会は、平成 23 年の 2 月より学内の体制変更にもとない、学生委員会委員の交代が行われ、新旧委員により引き継ぎを兼ねて開催された。

学校行事の計画・運営の中心として活動する学生会執行部に対しては、学生委員会が助言・指導をすることにより、学生にとっては学校行事もまた貴重な学びの機会になったと言えよう。

また本学はキャンパスの立地条件を考慮し自動車通学を許可しているが、学内の駐車場の利用や保険、運転マナー等について説明と指導を行い、適宜、適切な対応と学生に対する指導を行っており大きな問題が起きなかった。電車通学や自転車通学者においては、羽生駅と本学との間の通学路に不審者が出没したという情報が学生から寄せられたため、学生に注意喚起を促すとともに、羽生警察署と連絡を取り合いながら、教職員による巡回体制を強化し、学生が安心して通学できるような対応をした。親元を離れ学生アパートに住んでいる学生はもちろんであるが、全ての学生が安全且つ安心して学生生活を送れるよう、地域との連携をより一層深めていくことが必要であろう。

学生が中心となって企画・運営される純真祭は、本学の行事の中で最も大規模なイベントである。平成 22 年度は、初めて秋の開催から春の開催へと開催時期を変更し、新入学生の歓迎を合わせる形で開催した。また、学校見学会を同時開催したことにより、本学の地域への紹介に繋がったと考える。しかし、2 月から 3 月にかけての準備期間は、純真祭の中心となる 2 年生が「施設実習」を行っていることもあり、十分な準備と地域への周知が出来なかったことは今後の検討課題であろう。とはいえ、学生の発表や模擬店等に本学の学生のみならず、地域の方々にも来場いただき成功裏に終了した。

平成 23 年 3 月 11 日に発生した「東日本大震災」にもとない、卒業式の延期、その後中止、新入学生の研修会及び新年度の純真祭の中止など、様々な学生行事を中止せざる追えない状況となった。卒業式については、時期を変更して対応することを検討中である。

(3) 図書委員会**① 構成**

委員長名	委員名（※印は事務担当者）
牛込 彰彦	安倍 大輔 ・ 浦 由希子・※中村 周

② 概要

開催日	内容
平成 22 年 6 月 11 日	・ 図書の選書 ・ 雑誌バックナンバーの廃棄 ・ 埼玉県地域共同リポジトリ (SUCRA) への研究成果公開 ・ 司書不在時の図書館対応 ・ 司書/司書教諭課程の教材 ・ 教員個人申請の図書/視聴覚教材について
7 月 16 日	・ 図書の選書 ・ 夏季休業期間の休館日 ・ その他 (読書感想文コンクール等)
8 月 4 日	・ 図書館情報システムの導入の検討
10 月 8 日	・ 図書の選書 ・ 2011 年の外国雑誌の購読 ・ 研究論文集について ・ その他 (加除式図書の追録購入等)
12 月 10 日	・ 図書の選書 ・ 平成 23 年度購読雑誌の選定 ・ 図書館規程および委員会規則の改正 ・ 研究論文集について ・ その他 (有料データベース, カーテンの取換え, 書架移動等)
平成 23 年 1 月 21 日	・ 平成 23 年度予算案 ・ 研究論文集について ・ その他 (春季休業中の休館日程, 小学校教科書の改訂等)

③ 成果と課題 (点検・評価)

図書委員会は、埼玉純真短期大学図書館規程および図書委員会規則に従い、適切な図書館運営と研究支援を目的として、適宜開催されている。

今年度の図書館運営では、初等教育や幼児教育を中心とした教育学全般の選書を積極的に行い、不足しがちな学術書の新刊本を揃えることができた。ただ、図書館の予算配分について、図書よりも雑誌の購読経費が倍以上を占めており、この状態を是正するため、委員会にて雑誌の購読を大幅に見直し、次年度の図書購入経費を多めに確保することとした。

研究支援では、埼玉県内の大学・短期大学等の教育機関が参加する埼玉県地域共同リポジトリ「SUCRA」を活用して、本学の研究成果を公開させて、機関リポジトリを通じた地域連携を図ることができた。

課題としては、今年度から図書館職員が専任 1 名のみとなり、司書不在時は、規程に従った常時閉館が困難になることが予想され、図書館業務や開館対応等に支障が生じる懸念も考えられ、応急的な利用者対応では、図書委員の教員が当たることとなった。

かねてから懸案となっていた図書館情報システムの導入について、法人本部情報処理センターの職員を交えて、具体的な導入案を検討し、補助金等の獲得を目指したが、採択されず、高額な経費が発生する計画でもあるので、機会を窺って再検討することとした。

(4) 実習委員会

① 構成

委員長名	委員名 (※印は事務担当者)
牛込 彰彦	・ 稲垣 馨 ・ 関根 久美 ・ 高橋 努 ※原田 智鶴

② 概要

開催日	内容
平成 22 年 4 月 14 日	・委員紹介・幼稚園前後半実習（2 年生）に関する実習事前審査 ・平成 21 年度施設実習に関する報告
4 月 16 日	・実習期間変更者の扱いについて
5 月 19 日	・実習が保留になっている学生への対応について
6 月 9 日	・介護等体験に関する実習事前審査 ・保育所実習に関する実習事前審査
7 月 14 日	・幼稚園前期実習（1 年生）に関する実習事前審査 ・平成 23 年度小学校教育実習に関する実習日程の検討
9 月 2 日	・平成 23 年度小学校教育実習に関する実習日程について ・幼稚園後半実習（2 年生）に関する実習事前審査
10 月 13 日	・怪我等により実習が遅れている学生の扱いについて
11 月 10 日	・施設実習に関する実習事前審査 ・施設実習評価表の形式に関する検討
12 月 8 日	・保育実習Ⅲに関わる施設実習の実施について

③ 成果と課題（点検・評価）

本年度より、幼稚園実習を 1 年生から取り入れ、9 月に 1 週間の幼稚園前期／基本実習を行った。これは、短期大学という 2 年間の中で、早い段階から現場を体験することにより保育者としての意識を高めるといった目的のもと実施された。入学直後に実習先を決定しなければならないという物理的な制約があり、困難も伴ったが初期の目標である保育者としての意識向上に関しては効果があったようである。また、保育所の実習実施時期においては、前半と後半の間隔を若干広げた事により、前半実習の事後指導を行った上で後半実習に取り組みさせることができた。

実習指導に関する共通指導事項に対する教員の意識は若干高まったものの、マニュアル等の作成にまでは至っていない。今後明文化した資料の作成が必要と考えられる。

(5) 就職委員会

① 構成

委員長名	委員名（※印は事務担当者）
安部 孝	入江 良英・木許 隆・安倍 大輔・稲垣 馨・関根 久美・高橋 努 ※奥貫 慶一郎

② 概要

開催日	内容
平成22年4月14日	・キャリアガイダンス年間予定・キャリアガイダンス

IX 教授会・学科会・委員会等

5月12日	・キャリアガイダンス・出身高へのお礼状・証明書発行・公務員情報・ホームカミングデイ
6月11日	・キャリアガイダンス・「ホーム・カミング・デイ」の計画・群私幼群私保・振幼連
7月16日	・「ホーム・カミング・デイ」の内容・求人への掲示・栃木県幼稚園連合会の就職説明会 ・キャリアガイダンス・群私幼保・求人票発送
9月22日	・キャリアガイダンス・指導体制について
10月13日	・実習前および実習中の就職活動について
11月10日	・キャリアガイダンス・1年生対象のキャリアガイダンス
12月8日	・職場説明会・年賀状発送
平成23年1月14日	・卒業生による講演会

③ 成果と課題（点検・評価）

委員会運営については、幼稚園実習・保育所実習・施設実習といった各実習指導と連携し、情報の共有化を図り、学生のキャリアに対する関心や意識を向上させることができた。今後は早期退職を防ぐためにも、内定後のフォローをきめ細かに行えるような指導体制を整えることが重要であると考えられる。

(6) 入試広報委員会

① 構成

委員長名	委員名（※印は事務担当者）
小澤 和恵	藤田 利久（学長） ・小澤 和恵 ・木許隆 ・安倍大輔 ・細田 香織 ※濱野哲也（10月退職）※秋山知世（3月退職）※田中 淳 ・※相馬 萌（平成23年2月異動）※内田 和泉（平成23年2月採用）

② 概要

開催日	内容
平成22年4月21日	・指定推薦校について・高校訪問について・オープンキャンパスの実施内容（案）について ・平成22年度 年間広報誌発刊計画（案）について ・進学ガイダンス・模擬授業などの担当者について・その他
6月16日	・『公開講座2010』実施内容（案）について・第2回高校訪問について ・2011年度 AO入試における面接資料票について・その他
7月21日	・AO入試（6/26、7/17）実施分の面接結果について・その他
9月20日	・AO入学試験（Ⅰ期）について・その他
10月18日	・AO入学試験（Ⅱ期）について・遠隔地からの出願者についての入学金免除について ・指定校、公募制、専門・総合学科等、同窓生推薦入学試験実施要領（案）について ・同窓生推薦入試へ推薦していただいた、同窓生への謝礼について

	<ul style="list-style-type: none"> ・その他 下記のガイダンス担当者について ・11月4日(木) 鷺宮高校(1学年対象) ガイダンス ・11月15日(月) 常盤高校(2学年対象) ガイダンスについて ・11月16日(火) 蓮田松韻(2学年対象) ガイダンスについて
10月30日	<ul style="list-style-type: none"> ・指定校推薦入学試験について・公募制(1期) 推薦入学試験について ・専門・総合学科等(1期) 推薦入学試験について・同窓生(1期) 推薦入学試験について ・その他
12月13日	<ul style="list-style-type: none"> ・AO(Ⅲ期) 入学試験について ・公募制、専門・総合学科等(Ⅱ期) 推薦入学試験実施要領(案)について・その他
12月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・公募制、専門・総合学科等(Ⅱ期) 推薦入学試験について・その他
平成23年2月23日	<ul style="list-style-type: none"> ・一般入試について・学校見学会について・平成23年度 募集要項について ・平成23年度オープンキャンパスについて・その他

③ 成果と課題(点検・評価)

平成5年をピークとして短期大学への入学者は減少を続け、さらに短期大学数の減少にも関わらず、入学定員未充足の短期大学の割合は平成19年度には60%を超え、平成20年度以降は70%に迫ろうとしている。

このような状況の下、本学においても入学者が入学定員を大幅に下回る状況が続き、平成20年に「英語コミュニケーション学科」、平成22年に「乳幼児保育学科第二部」を相次いで廃止せざるをえなかった。

しかしながら、一方では「こども学科」単科の女子短期大学としての目的がはっきりとした大学造りが可能となった。さらに、この幼児教育における新しい取り組みとして文部科学省からの委託事業の「発達障害児の指導」を引き継いで、継続的に近隣の行政・教育機関との連携を図ることによって本学の特色とすることができた。

このような地道で時間のかかることではあるが、教育機関本来の教育・研究の充実を広報のメインに打ち出すことができた。

さらに、教育と研究を地道に行うかたわら、全教職員が入学者減少への危機感を持ち、積極的に高校訪問やオープンキャンパスに臨み、高校生一人ひとりへの親身な対応が実を結び、22年度入学者よりさらに入学者数を増やし、定員以上に確保することができたのではないかと考えている。

現代の日本の大学、特に短期大学の場合は、どこへでも入学できる状況であるかぎり、受験生が「この大学へ入りたい！」と思える特色を持った差別化をいかに図れるかが、入学者確保における第一条件と考える。

この点において、本学の入試広報課の取り組みと教職員の協力体制が実を結んだものと考えている。

(7) FD委員会（自己点検・評価委員会、第三者評価委員会を含む）

① 構成

委員長名	委員名（※印は事務担当者）
木下隆	入江 良英・牛込 彰彦・小澤 和志・安部 孝 ※佐藤 猛

② 概要

開催日	内 容
平成 22 年 9 月 3 日	埼玉県私立短期大学協会教職員研修参加（会場校）

③ 成果と課題（点検・評価）

平成 22 年度は、FD 活動に関しては、埼玉県私立短期大学協会主催の教職員研修会の会場校として、全教職員が運営に参加した。それぞれ自分の所属する委員や担当する課に関連する分科会に出席し、座長を務めるなどして他大学との情報交換を行うとともに、自分たちの取り組みを振り返り今後の取り組みにおける改善の示唆を得た。

X 事務組織

1 業務分掌

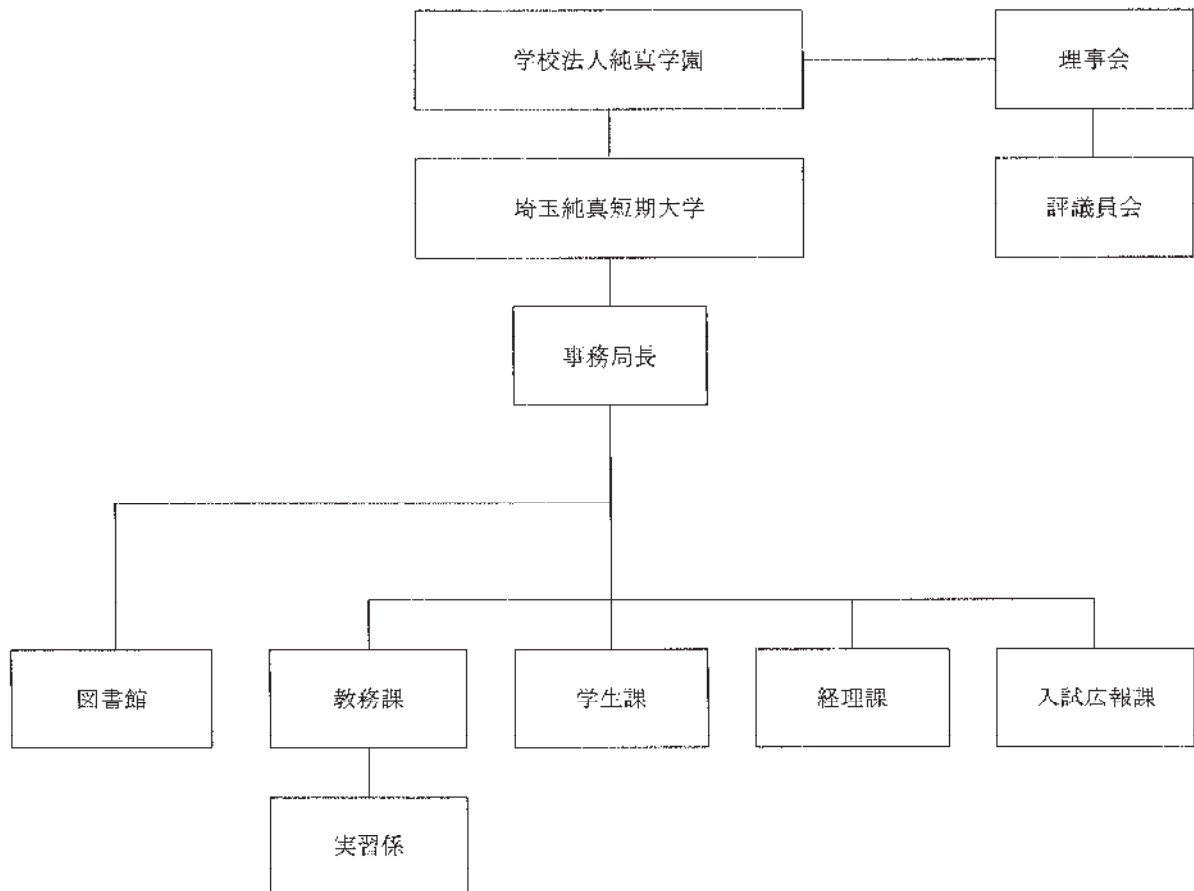
(1) 事務組織の業務分掌

本学は、法人本部所在地（福岡県）から遠く離れており、法人本部の運営方針が本学の地域性に合致しない場合も多く、開学から独自の学校運営により、自らのスクールアイデンティティを創造すべく、法人分離独立の型のスタイルで運営されている。

法人本部組織は、従来の法人事務局に加え、平成18年度より新たに理事長室・教育局を新設し、法人組織の充実を図っている。本学の事務組織は、教務課・学生課・経理課・入試広報課で構成されている。また、図書館司書は事務組織に含まれ、さらに、教務課には、学生の実習を支援する実習助手を配置している。

なお、人事労務、管財関係の業務は事務局長直轄として、経理課が担当している。

○ 事務組織図



(2) 事務分掌

本学事務職員の構成は、専任職員 10 名で、主要業務は以下のとおりである。

○ 主要業務一覧

部署名	業務内容
教務課	<ul style="list-style-type: none"> ・学務関連 学籍原簿の保守管理・入学・退学・復学・卒業等の学関関係・学科課程の編成 免許状・資格申請全般 等 ・教務関連 時間割作成及び教室配当・科目履修登録及び試験実施に伴う成績管理 各種証明書作成と発行 等 ・実習関連 実習事前指導・学生相談窓口・実習先手配・実習関係書類管理 等
学生課	<ul style="list-style-type: none"> ・学生関係 生活指導・課外活動の助言・指導及び課外活動に関する諸手続き 証明書類（学生証・学割・健康診断書）の受付および発行・学生調書の保管・管理 等 ・厚生関係 ロッカー・シューズボックスの保守管理・学生専用アパートの案内 奨学金、および傷害保険関係の申請手続き・健康管理・健康診断・健康相談 保健室の管理（救急医薬品の管理）・通学路の安全確保 学内駐車場・学外駐輪場管理維持運営 等 ・就職関係 求人紹介・求職申し込み受付・就職指導・推薦書・人物調書等の発行 等
経理課	<ul style="list-style-type: none"> ・経理関係 納付金（授業料等）及び追再試験料の収納・学内出納業務全般・伝票管理 等 ・管財関係 校舎・施設・設備管理維持・備品・消耗品購入等 ・庶務関係 郵便物の授受・来客・電話応対・在学証明書発行・拾得物・紛失物預かり 等 ・人事・労務関係 勤怠管理 等
入試広報課	<ul style="list-style-type: none"> ・広報関係 学生募集に関する広報・広告媒体の策定・高校訪問、進学ガイダンス活動 資料請求者・入学希望者へ対応・オープンキャンパス実施・運営 等 ・入試関係 入学試験の実施・運営・入試問題の保管 等

2 成果と課題（点検・評価）

本学の事務組織は、上記の業務を事務局長以下10名の職員で担当している。前年度と比較しての変化点は、①入試広報課増員（学生課から異動）、②学生課に就職係を統合、③図書館非常勤司書の退職、④用務員2名の退職（シルバー人材センターの活用）等がある。

これらの変化点が業務遂行にあたって、どのような影響があったか、当初計画した効果はあげられているか、これから詳しく検証する必要がある。

業務の効率化は必要であるが、業務や人員の効率化を追求するあまり、学生へのサービス低下があっては本末転倒であり、学生満足度をより向上させるための職員の意識改革と業務改善を今後も続けていきたい。

X I 財政

1 財政の状況

(1) 消費収支決算の状況

平成 22 年度の帰属収入は、2 億 4,187 万円であった。学生数は前年に比べほぼ横ばいだったものの、補助金収入が 1,158 万円増加したこともあり、前年度比 8.5% 増となった。

基本金については、総合償却資産である図書の除却額が約 502 万円あった一方で研究棟全体の空調工事やテニスコートの整備工事などにより 2,636 万円の設備投資を行ったため組入額が多くなった。

一方消費支出は、2 億 5,979 万円（前年度比 5.7% 減）となり、差引 1,792 万円の支出超過となった。

① 消費収入

(a) 学生生徒等納付金

学生生徒等納付金は、学生数の微増により 106 万円の増加となった。

(b) 手数料

手数料の大部分は入学検定料ですが、昨年度に比べ受験者が増加したことにより、30.3% 増えた。

平成 23 年度に入学定員を 150 名から 30 名減員し 120 名にしましたが、127 名の入学者を確保できたことにより、昨年より約 50 名学生数が増えた。その結果、納付金収入については大幅な増加が見込まれることになった。

○ 現員数の推移一覧

(単位:人)

期 日	現員数
平成 21 年 5 月 1 日現在	175
平成 22 年 5 月 1 日現在	170
平成 23 年 5 月 1 日現在	219

(c) 補助金

補助金は日本私立学校振興・共済事業団から交付される私学助成金が主なものである。平成 21 年度までの減額措置が無くなったため、前年度比 44.0% 増となっている。また帰属収入に占める割合は 15.6% であり、昨年度に比べ 3.8% 上がっている。

(d) 資産運用収入

資産運用収入は、学生から徴収する学内の駐車場利用料が主なものである。

(e) 事業収入・雑収入

その他の雑収入に約 108 万円計上しているが、保険金収入、自動販売機の手数料収入、コピー代等が主な内容である。

○ 平成 22 年度資金収支計算書（平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日）

（単位：円）

収 入 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	189,605,000	193,268,000	△ 3,663,000
授業料収入	110,550,000	111,615,000	△ 1,065,000
入学金収入	26,120,000	28,220,000	△ 2,100,000
実験実習料収入	9,705,000	9,805,000	△ 100,000
施設費収入	39,600,000	39,960,000	△ 360,000
図書費収入	3,300,000	3,330,000	△ 30,000
保健衛生費	330,000	338,000	△ 8,000
手数料収入	3,480,000	4,225,500	△ 745,500
入学検定料収入	3,000,000	3,870,000	△ 870,000
試験料収入	141,000	112,500	28,500
証明手数料収入	339,000	243,000	96,000
補助金収入	24,600,000	37,878,000	△ 13,278,000
国庫補助金収入	24,600,000	37,878,000	△ 13,278,000
資産運用収入	451,000	534,039	△ 83,039
受取利息・配当金収入	10,000	2,339	7,661
施設設備利用料収入	441,000	531,700	△ 90,700
事業収入	12,000	15,910	△ 3,910
補助活動収入	12,000	15,910	△ 3,910
雑収入	230,000	1,087,070	△ 857,070
その他の雑収入	230,000	1,087,070	△ 857,070
前受金収入	79,200,000	96,257,000	△ 17,057,000
授業料前受金収入	33,500,000	41,875,000	△ 8,375,000
入学金前受金収入	30,000,000	34,500,000	△ 4,500,000
実験実習料前受金収入	2,500,000	3,250,000	△ 750,000
施設費前受金収入	12,000,000	15,120,000	△ 3,120,000
保健衛生費前受金収入	200,000	252,000	△ 52,000
図書費前受金収入	1,000,000	1,260,000	△ 260,000

Ⅹ Ⅰ 財政

その他の収入	43,008,000	40,047,967	2,960,033
前期末短期未収入金収入	1,394,000	490,060	903,940
預り金受入収入	38,302,000	24,837,687	13,464,313
仮払金収入	0	8,989,394	△ 8,989,394
仮受金受入収入	0	1,874,000	△ 1,874,000
代理会計預り金受入収入	3,312,000	3,856,826	△ 544,826
資金収入調整勘定	△ 72,836,000	△ 73,550,216	714,216
期末未収入金	0	△ 714,216	714,216
前期末前受金	△ 72,836,000	△ 72,836,000	0
前年度繰越支払資金	535,549,609	535,549,609	
収入の部合計	803,299,609	835,312,879	△ 32,013,270

支 出 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	153,694,000	161,080,395	△ 7,386,395
教員人件費支出	103,168,000	99,312,650	3,855,350
職員人件費支出	50,526,000	49,156,145	1,369,855
退職金支出	0	12,611,600	△ 12,611,600
教育研究経費支出	57,076,000	51,450,954	5,625,046
消耗品費支出	5,467,000	5,351,112	115,888
光熱水費支出	8,605,000	7,032,596	1,572,404
旅費交通費支出	2,080,000	1,706,047	373,953
奨学費支出	2,100,000	2,100,000	0
渉外費支出	768,000	669,289	98,711
通信費支出	1,695,000	1,603,723	91,277
購読料支出	2,060,000	1,851,769	208,231
印刷製本費支出	3,463,000	2,342,287	1,120,713
修繕費支出	7,948,000	10,222,871	△ 2,274,871
保険料支出	707,000	1,020,844	△ 313,844
賃借料支出	502,000	533,833	△ 31,833
公租公課支出	35,000	0	35,000
負担金支出	1,530,000	1,084,892	445,608
支払手数料支出	13,551,000	13,576,483	△ 25,483
学校行事費支出	1,995,000	683,301	1,311,699
厚生補導費支出	4,090,000	1,084,346	3,005,654
図書研究費	480,000	369,179	110,821
雑支出	0	218,882	△ 218,882

X I 財政

管理経費支出	26,437,000	28,353,707	△ 1,916,707
消耗品費支出	601,000	56,477	544,523
光熱水費支出	176,000	453,373	△ 279,373
旅費交通費支出	1,513,000	1,296,407	216,593
渉外費支出	60,000	4,133	55,847
通信費支出	215,000	338,235	△ 123,235
印刷製本費支出	316,000	97,125	218,875
修繕費支出	600,000	588,000	12,000
保険料支出	519,000	74,456	444,544
賃借料支出	10,000	7,937	2,063
公租公課支出	36,000	123,500	△ 87,500
負担金支出	514,000	427,281	86,719
支払手数料支出	4,968,000	4,814,894	153,106
福利費支出	500,000	496,889	3,111
広報費支出	16,409,000	19,564,980	△ 3,155,980
私立大学等経常費補助金返還金	0	8,000	8,000
施設関係支出	11,220,000	14,204,411	△ 2,984,411
建物支出	9,960,000	12,839,411	△ 2,879,411
構築物支出	1,260,000	1,365,000	△ 105,000
設備関係支出	2,548,000	2,305,649	242,351
教育研究用機器備品支出	1,048,000	907,462	140,538
図書支出	1,500,000	1,398,187	101,813
その他の支出	63,672,000	61,196,102	2,475,898
前期末未払金支払支出	21,388,000	20,978,567	409,433
預り金支払支出	38,302,000	24,322,783	13,979,217
前払金支払支出	670,000	2,845,810	△ 2,175,810
仮払金支払支出	0	8,747,254	△ 8,747,254
仮受金支払支出	0	1,874,000	△ 1,874,000
代理会計預り金支払支出	3,312,000	2,427,688	884,312
資金支出調整勘定	△ 6,194,000	△ 21,234,817	15,040,817
期末未払金	△ 5,000,000	△ 20,040,633	15,040,633
前期末前払金	△ 1,194,000	△ 1,194,184	184
次年度繰越支払資金	494,846,609	498,575,886	△ 3,729,277
支出の部合計	803,299,609	795,932,287	7,367,322

② 消費支出

(a) 人件費

人件費は、退職金を除くとほぼ横ばいであった。また、帰属収入に占める割合は 62.0% となり、昨年度に比べると 8.0% 減少しているが、補助金収入が増加したことが大きな要因である。

(b) 教育研究経費

教育研究経費は前年度比 13.0% 減少した。昨年より修繕費が 700 万円減少したことが大きな要因である。帰属収入合計に占める割合は 32.4% で前年度比 8.0% の減少となったが、全国の同規模の短期大学に比べると高い水準と言える。

(c) 管理経費

管理経費は前年と比べ約 190 万円増加し、3,131 万円となりました。帰属収入に占める割合は 12.9% で前年度比 0.2% の減少となった。学生募集に係わる広報費が 380 万円増加したが、学生数が 33 名増えたことにより効果があったと考えられる。今後も広報費については、費用対効果を考慮しながら対策を講じていく必要がある。

○ 平成 22 年度消費収支計算書 (平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)

(単位：円)

消 費 収 入 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	189,605,000	193,268,000	△ 3,663,000
授業料	110,550,000	111,615,000	△ 1,065,000
入学金	26,120,000	28,220,000	△ 2,100,000
実験実習料	9,705,000	9,805,000	△ 100,000
施設費	39,600,000	39,960,000	△ 360,000
図書費	3,300,000	3,330,000	△ 30,000
保健衛生費	330,000	338,000	△ 8,000
手数料	3,480,000	4,225,500	△ 745,500
入学検定料	3,000,000	3,870,000	△ 870,000
試験料	141,000	112,500	28,500
証明手数料	339,000	243,000	96,000
寄付金	0	61,000	△ 61,000
現物寄付金	0	61,000	△ 61,000
補助金	24,600,000	37,878,000	△ 13,278,000
国庫補助金	24,600,000	37,878,000	△ 13,278,000
資産運用収入	451,000	534,039	△ 83,039
受取利息・配当金	10,000	2,339	7,661
施設設備利用料	441,000	531,700	△ 90,700

X 1 財政

事業収入	12,000	15,910	△ 3,910
補助活動収入	12,000	15,910	△ 3,910
雑収入	4,417,000	5,888,612	△ 1,471,612
退職給与引当金戻入額	4,187,000	4,801,542	△ 614,542
その他の雑収入	230,000	1,087,070	△ 857,070
帰 属 収 入 合 計	222,565,000	241,871,061	△ 19,306,061
基 本 金 組 入 額 合 計	△ 8,748,000	△ 26,365,563	17,617,563
消 費 収 入 の 部 合 計	213,817,000	215,505,498	△ 1,688,498

消 費 支 出 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	153,694,000	150,055,655	3,638,345
教員人件費	103,168,000	99,312,650	3,855,350
職員人件費	50,526,000	49,156,145	1,369,855
退職金	0	1,586,860	△ 1,586,860
教育研究経費	83,463,000	78,424,302	5,038,698
消耗品費	5,467,000	5,412,112	54,888
光熱水費	8,605,000	7,032,596	1,572,404
旅費交通費	2,080,000	1,706,047	373,953
奨学費	2,100,000	2,100,000	0
渉外費	763,000	669,289	93,711
通信費	1,695,000	1,603,723	91,277
購読料	2,060,000	1,851,769	208,231
印刷製本費	3,463,000	2,342,287	1,120,713
修繕費	7,948,000	10,222,871	△ 2,274,871
保険料	707,000	1,020,844	△ 313,844
賃借料	502,000	533,833	△ 31,833
公租公課	35,000	0	35,000
負担金	1,530,000	1,084,392	445,608
支払手数料	13,551,000	13,576,483	△ 25,483
学校行事費	1,995,000	683,301	1,311,699
厚生補導費	4,090,000	1,084,346	3,005,654
図書研究費	480,000	369,179	110,821
雑費	0	218,882	△ 218,882
減価償却額	26,387,000	26,912,348	△ 525,348
管理経費	28,852,000	31,312,382	△ 2,460,382
消耗品費	601,000	56,477	544,523

X I 財政

光熱水費	176,000	455,373	△ 279,373
旅費交通費	1,513,000	1,296,407	216,593
渉外費	60,000	4,153	55,847
通信費	215,000	338,235	△ 123,235
印刷製本費	316,000	97,125	218,875
修繕費	600,000	588,000	12,000
保険料	519,000	74,456	444,544
賃借料	10,000	7,937	2,063
公租公課	36,000	123,500	△ 87,500
負担金	514,000	427,281	86,719
支払手数料	4,968,000	4,814,894	153,106
福利費	500,000	496,889	3,111
広報費	16,409,000	19,564,980	△ 3,155,980
私立大学等経常費補助金返還金	0	8,000	△ 8,000
減価償却額	2,415,000	2,958,675	△ 543,675
消費支出の部合計	266,009,000	259,792,339	6,216,661
当年度消費支出超過額	52,192,000	44,286,841	
前年度繰越消費収入超過額	1,734,804,214	1,230,688,330	
基本金取崩額	0	5,020,312	
翌年度繰越消費収入超過額	1,682,612,214	1,191,421,801	

(2) 貸借対照表の現状

平成 22 度末の資産総額は 14 億 9,951 万円で、うち固定資産が 9 億 9,627 万円、流動資産が 5 億 324 万円となっている。負債総額は 2 億 3,372 万円で、うち固定負債が 1 億 1,007 万円、流動負債が 1 億 2,365 万円となっている。また、基本金は前年度比 2,135 万円増の 17 億 5,615 万円となった。

○ 平成 22 度貸借対照表（平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日）

（単位：円）

資 産 の 部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定資産	996,270,758	1,005,629,722	△ 9,358,964
有形固定資産	995,425,149	1,004,784,113	△ 9,358,964
土地	423,208,000	423,208,000	0
建物	545,325,696	554,771,687	△ 9,445,991
構築物	2,398,574	1,623,449	775,125
教育研究用機器備品	6,367,062	7,735,484	△ 1,368,422
その他の機器備品	5,968,202	3,381,938	2,586,264

X I 財政

図書	11,754,119	13,345,270	△ 1,591,151
車輛	403,496	718,285	△ 314,789
その他の固定資産	845,609	845,609	0
電話加入権	641,927	641,927	0
施設利用権	2	2	0
差入保証金	203,680	203,680	0
流動資産	2,185,024,976	2,184,986,464	38,512
現金預金	498,575,886	535,549,609	△ 36,973,723
未収入金	1,618,176	1,394,020	224,156
貯蔵品	200,100	322,240	△ 122,140
仮払金	0	120,000	△ 120,000
前払金	2,845,810	1,194,184	1,651,626
本部勘定	1,681,785,004	1,646,406,411	35,378,593
資 産 の 部 合 計	3,181,295,734	3,190,616,186	△ 9,320,452

負 債 の 部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定負債	110,069,547	125,895,829	△ 15,826,282
退職給与引当金	110,069,547	125,895,829	△ 15,826,282
流動負債	123,654,921	99,227,813	24,427,108
未払金	20,450,133	21,388,067	△ 937,934
前受金	96,257,000	72,836,000	23,421,000
預り金	2,058,797	1,543,893	514,904
代理会計預り金	4,888,991	3,459,853	1,429,138
負 債 の 部 合 計	233,724,468	225,123,642	8,600,826

基 本 金 の 部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
第1号基本金	1,716,149,465	1,694,804,214	21,345,251
第4号基本金	40,000,000	40,000,000	0
基 本 金 の 部 合 計	1,756,149,465	1,734,804,214	21,345,251
翌年度繰越 消費 収入 超過額	1,191,421,801	1,230,688,330	△ 39,266,529
消費 収 支 差 額 の 部 合 計	1,191,421,801	1,230,688,330	△ 39,266,529
負 債 の 部、基 本 金 の 部			
および 消費収支差額の部 合 計	3,181,295,734	3,190,616,186	△ 9,320,452

(3) 財務比率

ここには本学の貸借対照表と消費収支計算書関係の主要財務比率を示す。

○ 財務比率（平成 18 年度～平成 22 年度）

財務比率		平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
貸借対照表	固定比率	37.1%	54.2%	34.2%	33.9%	34.1%
	固定長期適合率	35.5%	50.9%	32.8%	32.5%	32.8%
	流動比率	867.4%	696.2%	1095.3%	542.8%	407.0%
消費収支計算書	人件費比率	70.7%	43.6%	46.8%	69.9%	62.0%
	消費支出比率	119.2%	77.8%	90.5%	123.6%	107.4%
	消費収支比率	119.2%	78.1%	92.1%	123.6%	120.6%

※ 自己資金 = 基本金 + 消費収支差額 1,734,804,214+1,191,421,801=2,926,226,015

① 固定比率（固定資産／自己資金×100）

総資産のうち固定資産の比率が目立って高いのが学校法人の特徴である。この比率は固定資産がどの程度自己資金(純資産)で賄われているかをみる指標であるが、本学では平成 18 年度から平成 22 年度にかけての 5 年間、100%以下で推移しており、学校の施設設備は借入金によることなく自己資金で賄われていて健全であると言える。

② 固定長期適合率<固定資産／(自己資金+固定負債)×100>

固定長期適合率の 5 年間の推移をみると 100%以下を維持しており、固定資産を取得するためには短期の他人資金すなわち流動負債に依存することなく、自己資金のほかに短期的に返済を迫られない固定負債で賄うべきであるという原則には適合した財政状態であると言える。

③ 流動比率（流動資産／流動負債×100）

流動比率は 1 年以内に償還又は支払わなければならない流動負債に対して、現預金又は 1 年以内に現金化が可能な流動資産がどの程度用意されているかという、短期的な支払能力を判断する重要な指標であるが、本学は平成 18 年度から平成 22 年度にかけて優良で信用度が高いとされる流動比率 200%以上を維持しており、また流動負債の中には弁済の対照となる外部負債とは性質を異にしている授業料などの前受金が約 80%含まれていることから、問題はないと言える。

④ 人件費比率（人件費／帰属収入×100）

人件費問題は学校財務の中で最高位を占めている。他の消費支出科目をまとめても、その金額は人件費には及ばず、しかも、消費支出の膨張の原因になっている。学校法人のグ

レードが上がるにつれて、人件費比率は下がり、他の項目が増える傾向にある。私学事業団の実数分析では、同規模の短大法人が約 80.0%となっており、同規模短大の平均値からすると、本学は 62.0%となっていることから問題はないと言える。

⑤ 消費支出比率（消費支出／帰属収入）

消費支出比率は、過去 5 年間に 100%を境に上下しており、この数値を超えると過去の蓄積である純財産を食いつぶしている状態を示すことになる。このことから 100%が名目的な水準維持の尺度となるが、貨幣価値の下落と物価の上昇などを予想して、比率はある程度のゆとりを持たせて、物価の上昇などに対応できる財務体質を養っていくことが必要とされている。

⑥ 消費収支比率（消費支出／消費収入）

消費収支比率も、過去 5 年間に 100%を境に上下しており、この数値を超えると支出超過の状態になる。

2 成果と課題

埼玉純真短期大学は、平成 21 年度決算において開設後完成年度以降初めて支出超過に転じた。平成 22 年度においては入学者数こそ前年度に比べ微増だったが経常費補助金が前年度の 1.5 倍となったため支出超過額は若干減少した。昨年度に続き校舎の修繕や設備投資等に予算を投じ、受験生にアピールできるように全体的な外観の向上と設備の充実に注力し、その効果もあって平成 23 年度の入学者数は前年を 33 名上回る 127 名を確保できた。

昨年課題として挙げた 1 学年の学生数 120 名の確保を実現できたことにより、収支は改善される見込みだが、なお教職員一丸となって知恵を出し合い継続して学生数の確保が継続できるよう努力する必要がある。

就職実績が何よりの本学の「強み」であることを確実にアピールし、並行して設備施設の更新を計画的に進め、志願者及び進学担当者に、魅力ある学校として選択して頂く努力をすることが課題である。

X II 同窓会（秋桜会）

1 活動状況

(1) 役員組織

本学では、卒業生、教職員及び元教職員を会員とし、会員相互の親睦及び修養を図り、兼ねて母校の隆昌を図ることを目的として、「秋桜会」という同窓会を組織している。

役員組織は以下のとおりである。

○ 同窓会役員一覧

役職名	役員名（回生・卒業学科）
名誉会長	藤田 利久（学長）
会 長	小林 ひかり（8回生・児童教育学科）
副会長	秋山 知世（8回生・英語学科） 戸張 歩美（26回生・こども学科乳幼児保育コース）
会 計	矢島 愛子（7回生・幼児教育学科第二部） 金谷 住代（13回生・英語学科）
書 記	野中 美希（26回生・こども学科乳幼児保育コース） 岩崎 香織（こども学科乳幼児保育コース）
会計監査	岡本 千里（7回生・英語学科） 新井 幸子（12回生・英語学科）
幹 事	各卒業学年より1名以上が担当する。
相談役	安部 孝（学生部長）

(2) 活動状況

本学の同窓会は、1回生が卒業した後、昭和60年11月10日に設立し、今日に至る。

主な活動として、年1回の総会、年3回の役員会、会報「秋桜だより」の発行、在学生への支援活動を行っている。活動費は、卒業生から徴収した同窓会費より支出されている。

○ 同窓会の活動状況（平成22年度）

日 程	内 容
平成22年4月29日 総会	第26回総会 開式の辞 会長あいさつ 定数確認 議案審議

X II 同窓会（秋桜会）

	（平成 21 年度会務報告、決算報告、監査報告） （平成 22 年度会務計画、予算案） 新役員あいさつ 閉式の辞
10 月 24 日 第 1 回役員会	・第 26 回総会の反省 ・秋桜だよりについて ・来年度総会に向けて ・往復葉書用保護シールについて
平成 23 年 1 月 21 日 第 2 回役員会	・各係の内容説明 ・新役員の係決め ・役員連絡先等の確認
1 月 30 日 第 3 回役員会	・第 27 回総会について ・会報（秋桜だより）の完成・発行について・大学からの依頼について・その他

2 成果と課題（点検・評価）

同窓会の活動は、多くの卒業生の中でも会長をはじめとした役員を中心として行われている。卒業生のために設立された同窓会であるが、そのあり方が卒業生自身にも十分認知されておらず、なかなか発展していかない現状である。近年は同窓会長が入学式や卒業式に列席し、祝辞を述べるなど同窓会の存在をアピールしている。また、同窓会発足から四半世紀というひとつの節目ともなる「25 周年パーティー」を開催。卒業生から多少の関心をもたらされたように見受けられたが、同窓会として更なる努力が必要と考えられる。

執筆者一覧（50音順）

専任教員

安部 孝 ・ 安部 大輔 ・ 稲垣 馨 ・ 入江 良英 ・ 牛込 彰彦
浦 由希子 ・ 小澤 和恵 ・ 木許 隆 ・ 関根 久美 ・ 高橋 努
藤田 利久

事務職員

秋山 知世 ・ 内田 和泉 ・ 大澤 尚子 ・ 奥貫慶一郎 ・ 佐藤 猛
相馬 萌 ・ 田中 淳 ・ 中村 周 ・ 新島 由了 ・ 橋本早也佳
原田 智鶴 ・ 矢内 美優

法人事務局

池田 博文 ・ 吉田 忠幸

平成 23 年度 自己点検・評価委員会

藤田 利久	教授 (学長)
安倍 大輔	講師 (自己点検・評価委員長, 進路支援部長, FD&SD 推進委員長)
入江 良英	教授 (図書館長)
牛込 彰彦	教授 (実習指導部長)
小澤 和忠	准教授 (教務部長)
高橋 努	講師 (学生部長)
佐藤 猛	事務局長
大山 富一	総務担当
中村 周	図書館司書

平成 22 年度 自己点検・評価報告書

発行日 平成 23 年 10 月 31 日

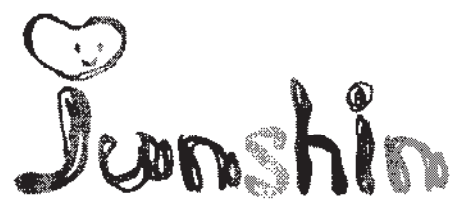
編集 埼玉純真短期大学 自己点検・評価委員会

印刷 SP 関根印刷所

発行 埼玉純真短期大学

〒348-0045 埼玉県羽生市下岩瀬 430 番地

TEL.048-562-0711 (代)・FAX.048-562-0715



埼玉純真短期大学